

ヲ支拂フヘキ督促ヲ記載シ支拂フヘキ者ノ現在スルト不在ナルトテ記載シ支拂拒ノ理由並ニ署名ノ無力若クハ否拒絶ヲ掲載スヘシ(商法典第七十四條)前節ニ述ヘタル如ク手形ノ所持人ハ何等ノ證書ヲ以テスルモ拒ミ證書ニ代フルヲ能ハス唯其紛失ノ場合ニ於テノミ支拂ノ拒絶ヲ證明スル爲メ拒絶證書ヲ以テスルヲ得(商法典第五十三條)拒絶證書ノ拒ミ證書ト異ナル所ハ其手形ノ登記ナキニ在リ(商法典第七十五條)拒絶證書ノ重要ニ因リ法律ハ公證人及ヒ執行吏ニ命スルニ拒絶證書ノ精確ナル謄本ヲ遺シ置キ見出帳ノ爲メニ定メタル體裁ヲ以テ番號ヲ附シ花押ヲ爲シタル特別ノ簿冊中ニ毎日其日附ノ順序ニ從ヒ其全文ヲ記入スルノ義務ヲ以テシ之ニ反違スルキハ其職ヲ免レ關係人ニ對シ費用及ヒ損害賠償ノ責ニ任セシム(商法典第七十六條)

第十三節 返シ爲替

第六十八問 返シ爲替「ルシアンジュ」トハ支拂ヲ受ケサル手形所持人否拒セラシタル手形ノ主額、其費用並ニ其再度ノ爲替賃ノ償還ヲ受クル爲メ更ラニ振出人又ハ裏書人ノ一人ニ當テ返シ爲替手形ト稱スル再度ノ爲替手形ヲ振出スノ所爲ナ云フ(商法典第七十七條及ヒ第七十八條)又返シ爲替ヲ取引スル爲替賃(兌換相場)ヲ「ルシアンジュ」ト稱ス譯者曰ク佛語「ルシアンジュ」ハ返シ爲替ト此爲替賃トノ二義ヲ有スルカ故ニ本文ノ解釋ヲ要セリ強テ之ヲ譯スレハ

其功用ヲ失フニ至ラン畢竟彼我之辭ノ相異ナルニ因リ己ムヲ得サル所ナリ

第六十九問

返シ爲替手形ニハ返シ爲替計算書ヲ添附スヘシ(商法典第八十條)返シ爲替計算書ニ記載スヘキ諸件左ノ如シ

- 第一 否拒セラレタル爲替手形ノ主額(商法典第八十一條)
- 第二 否拒ノ日ヨリ起算シ當然負擔トナリタル利息(商法典第八十四條)(原註)抗拒スヘカテサル力就中千八百七十年ノ戰爭ノ如キ場合ニ因リ手形ヲ呈示スルヲ能ハサリシキハ支拂期限ヨリ利息ヲ生スヘキモノトス(千八百七十三年四月二日ノ大審院判決)

第七十問

第三 否拒ノ費用、其他銀行ノ口錢、商業世話人ノ世話料、印税及ヒ手形ノ運送費及ヒ取引爲替賃(兌換費)ノ如キ正當ノ費用此費用ノ利息ハ裁判所ニ請求ヲ爲シタル日ヨリ生スルモノトス(商法典第八十五條)

返シ爲替計算書ニハ返シ爲替手形ノ名宛人並ニ之ヲ取引ナシタル爲替賃トテ掲クヘキモノトス此返シ爲替賃ハ手形賣買世話人又ハ手形賣買世話人アラサル地ニ於テハ二名ノ商人ノ證明ヲ經タルニ非サレハ負擔セサルモノトス(商法典第八十一條及第八十六條)(原註)千八百四十八年三月二十四日ノ布告ヲ以テ商法典第八十條第八十一條及第八十八

六條ノ執行ヲ停止シ全佛蘭西大陸ニ於テノ返シ爲替賃ヲ等一トナセリ然レモ此布告ハ現今尙ホ行ハルヘキモノナルヤ否ヤニ付テハ論議未タ一定セス實際ニハ今日ト雖モ之ヲ適用シ來レリ而シテラト一及ヒボアステルノ二氏ハ此布告未タ廢止ニ至ラストナセリ」返シ爲替計算書ニハ否拒セラレタル爲替手形ト拒ミ証書又ハ拒絕証書ノ謄本裏書トヲ添付スヘキモノトス〔商法典第百八十一條〕

同一ノ爲替手形ニ付テハ數多ノ返シ爲替計算書ヲ作ルコト得ヌ返シ爲替ハ裏書人ヨリ裏書人ニ順次償還シ結局振出人ヨリ償還スヘキモノナリ〔商法典第百八十二條〕

數个ノ返シ爲替賃ハ之ヲ併合スルコト能ハス各裏書人並ニ振出人ハ其一爲替賃ヲ負擔スルコト止マルモノトス〔商法典第百八十三條〕〔原註〕千八百四十八年三月二十四日ノ布告ニ據レハ返シ爲替賃ハ全佛蘭西大陸ニ等一ニシテ州ノ首府ニ當テタルモノハ百ニ付キ四分一トシ邑ノ首府ニ當テタルモノハ百ニ付キ二分一トナシ其他ノ場所ニ當テタルモノハ百ニ付キ四分三トス何レノ場合ニ於テモ同州中ニ於テハ返シ爲替賃ヲ拂フニ及ハス外國ニ當テタル返シ爲替賃及大陸外ノ佛國領地ニ當タル返シ爲替賃ハ商業上ノ慣習ヲ以テ之ヲ定ム」

何チカ返シ爲替賃ト云フ此問題タル實際ニ於ケルヨリモ寧ロ理論上ニ重要アルモノニシテ數多ノ説アリト雖モ煩雜難澁ナル諸説ヲ詳細ニ論及セスシテ歐洲一般ノ定論ニ從テ之ヲ云

フキハ返シ爲替賃ハ支拂ヲ爲スヘキ場所ヨリ返シ爲替ヲ當テタル場所ノ爲替賃ナリトス〔ボアステル氏ノ説〕

引出小切手〔千八百七十四年二月十九日改正千八百六十五年六月十四日法律〕

引出小切手ニハ眞正ノ引出小切手〔委任小切手〕ト受取証書受取切手トノ別アリ

千八百六十五年六月十四日ノ法律ハ古來英國ニ行ハレタル眞正ノ引出小切手即チ委任切手ヲ規定シタルニ過キス受取切手ハ久來慣用シ來リタルモノニシテ之ニ付テモ亦一言セサル可ナス

一 引出小切手

第七十一問 眞正ノ引出小切手〔委任切手〕トハ支拂委任狀ノ体裁ニテ支拂人ノ之カ爲メ準備シ且處分シ得ヘキ資金ノ全部又ハ一部ヲ振出人ノ利益又ハ第三者ノ利益ニ於テ引出チ實行ニ付振出人ノ用ニ供スル証書ヲ云フ簡單ニ之ヲ陳フルキハ引出小切手トハ第三者ニ與ヘタル支拂ノ指圖ナリト云フヲ得ヘシ

或ル權利者ハ其義務者ニ支拂ノ指圖ヲ爲スカ爲メ引出小切手ヲ用フルコトヲ得

又引出小切手ハ往々殊ニ英國ニ於テ最モ多シ銀行營業人ニ預ケタル資金ヲ引出スノ一方法タリ即チ一個人ヨリ銀行營業人ニ資金ヲ交付シ而シテ之ト約スルニ其資本ニ多少ノ利息ヲ生シ且其適宜ノ時ニ之ヲ請求スルノ權能ヲ有スルヲ以テスルコト是レナリ

右ノ場合ニ於テ銀行營業人ハ預ケ人ニ交附スルニ二個ノ手帳ヲ以テス一ヲ計算帳トナシ一ヲ切手帳トナス

計算帳ハ出納計算即チ拂込ミタル金額ト引出シタル金額ヲ證明スルノ用ニ供ス

切手帳ハ二部ニ分割スベキ若干葉ノ紙片ヲ綴込ミ其紙片ノ一ハ之ヲ帳簿ニ殘留シ一ハ之ヲ切斷シテ預ケ金額ノ取戻ヲ爲メ委任狀ノ體裁ニテ流通スルモノトス此切斷シタル部分ヲ稱シテ引出小切手ト云フ其受取ルヘキ金額及ヒ署名ヲ記スヘキ所ハ之ヲ空白ニス

預ケ人其資本ノ入用アリテ金額ヲ引出サント欲スルキハ引出小切手ニ受取ルヘキ金高ヲ記載シ受取方ヲ任スル者ニ之ヲ交付ス

振出人及ヒ切手ノ利益人(受取人)彼此間ノ授受ヲ托シタル同一ノ銀行營業人ト計算ノナスベキモノアルキハ其取引ハ單ニ計算ノ更改ニ過キス即チ引出小切手ニ指示スル金額ヲ一方ノ借トシ他ノ一方ノ貸ト爲スニ止マルモノトス

銀行營業人其同業者ノ一人ニ於テ收受ヲ受クヘキ引出小切手ヲ支拂ヲ托セラレタルキニシテ該同業者ノ支拂フヘキ引出小切手ノ收受ヲ托セラル、トアルヘシ此場合ニ於テハ銀行營業双方間ニ相殺ヲ行フヘキナリ

第七十二

是ヲ以テ引出小切手ノ使用ハ實際資本ヲ授受セスシテ數多ノ事務ヲ完了スルヲ得貨幣ノ

使途ヲ減縮スルモノナリ故ニホアステル氏ノ言ヘルカ如ク引出小切手ハ貨幣ヲ以テ支拂ヲ爲スヲ止メ之ニ代フルニ單純ナル更改又ハ相殺ヲ以テスルカ故ニ貨幣ヲ儉約スルモノナリ
〔原註〕引出小切手ヲ以テスル支拂ハ倫敦ニ於テハ「クリアリング、ハウス」ト稱スル會所ニ銀行營業人相會シ其相殺並ニ計算ノ更改ヲ爲セリ○千八百七十四年二月十三日國會ニ於テウチロウスキ、氏ノ演說ニ據レハ英國ニ於テハ千八百七十四年(千八百七十二年ノ誤ナラシカ)中千五百億餘ノ相殺行ハレタリト云フ近年佛國ニ於テモ相殺所ノ設置アリタリ然レニ千八百七十四年ニ於テハ相殺ノ數僅カニ二億ニ過サリキ
○引出小切手ノ主要ノ性質ハ豫備アリテ閱覽拂ナルヲ是ナリ

○引出小切手ノ釋解

第七十三

引出小切手ハ爲替手形ト同一ノ體裁ヲ以テ作り切手ノ作爲人即チ振出人ハ第三者ニ委託スルニ若干ノ金額ヲ受取ルノ權アル利益人ニ交付スヘキヲ以テス

第七十四

引出小切手ハ日附ヲ記シ閱覽ノ上ニアラサレハ支拂フベカラズ又引出小切手ニハ支拂フヘキ金額、支拂ヲ托セラレタル第三者ノ氏名ヲ指示シ或ハ指名人或ハ指圖人或ハ所持人ノ爲メ作り振出人之ニ署名スルモノトス(千八百六十五年法律第一條)
千八百七十四年二月十九日ノ法律ハ千八百六十五年ノ法律第一條ニ多少ノ成規ヲ附加シタ

引出小切手ハ其發シタル場所ヲ指示シ且其振出シタル日附ヲ全文ニテ引出小切手ヲ作りタ
ル者自カラ記入セサルヘカラス

引出小切手ハ所持人ニ支拂フヘキモノタルト雖モ金額受取人受取ノ旨ヲ記シ且其日附ヲ
記スヘシ

振出人、利益人又ハ支拂人トノ間ニ引出小切手ヲ閱覽ノ上ニアラスシテ請求次第支拂フヘ
キ約ヲ結フモ當然總テ無効ナリトス

故ニ甲者自己ノ爲メ又ハ第三者ノ爲メ其嘗テ銀行營業人ナル丙者ニ預ケタル金額ヲ引出サ
ントスルハ左ノ引出小切手ヲ渡スヘキモノトス

千八百七十五年四月一日巴里ニ於テ金額五百法

此切手閱覽ノ上ハ余カ指圖人(又ハ乙者又ハ乙者ノ指圖人又ハ所持人)ニ余ノ原債トナリタ
ル五百法ノ金額御拂渡有之度候

甲

銀行營業人丙殿

但シ住所ヲ記載スヘシ

切手ノ殘葉ニハ亦切手ニ掲載シタル所ノモノヲ記載スヘシ

故ニ引出小切手ニハ振出人、支拂人、受取人ノ氏名並ニ支拂フヘキ金額及日附ヲ記載スヘシ

○日附ハ小切手ヲ發スル時準備アリタルヤ否ヤヲ査定シ閱覽ノ上法律ニ指示スル期限内
同一ノ場所ヨリ振出シタルト否トニ從ヒ五日又ハ八日ニ切手ヲ支拂フヲ擔保スルニ付

キ甚タ緊要ナリトス

故ニ法律ハ日附ニ關スル法則並ニ之ヲ發シタルノ場所及ヒ豫備ヲ爲スノ必要ニ關スル法則

ニ嚴格ナル制裁ヲ設ケタリ蓋シ引出小切手ノ體裁ニテ眞誠ノ爲替手形ヲ作り以テ税法ヲ免

カレント圖ル者アルヲ憂フルカ故ナリ蓋シ當初ニ在テハ引出小切手ニハ税ヲ課セス現時ニ

至リ之ヲ賦課スルモ其同一ノ場所ヨリ振出シタルト否トニ從ヒ十「サ」ンチム又ハ二十一「サ」
ンチムノ定税ニ止マルト雖モ爲替手形ハ之ニ準等税ヲ賦課スルモノナリ

○引出小切手ト爲替手形トノ差異

第七十五

引出小切手ハ爲替手形ト異ニシテ信用ノ具ニアラス清算及ヒ支拂ノ具ナリ其爲替手形ト差

異ヲ舉グルルキハ左ノ如シ

第一 引出小切手ニハ豫備アリタリト推測ス○爲替手形ノ振出人ハ期限ニ至ラサレハ準

備ヲ爲スニ及ハス

第二 引出小切手ハ閱覽ノ上ニアラサレハ支拂フヘキモノニアラス○爲替手形ハ閱覽ノ

上又ハ閱覽ヨリ若干ノ期限ニ至リ又ハ定マリタル日又ハ日附後若干ノ期限ニ至リ支拂フヲ得ヘシ

第三 引出小切手ハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ宛テ又ハ同一ノ場所ニ於テ振出スヲ得○爲替手形ハ必ス一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ宛テ振出スヲ得

第四 引出小切手ノ發行ハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ向ケ振出シタルモ雖モ性質上商業手形タルモノニアラス○爲替手形ハ何人ノ間ニテモ其性質トシテ商業手形タルモノナリ

第五 引出小切手ハ供給シタル價額ノ記載ヲ要セス○爲替手形ハ受取人ヨリ供給シタル價額ヲ指示スルヲ必要トス

第六 引出小切手ハ指名人或ハ指圖人或ハ所持人ニ支拂フモノナリ○爲替手形ハ必ス指圖人ニ從ヒ支拂フヘキモノトス

第七 指圖引出小切手ハ白紙裏書ヲ以テ移轉スルヲ得○爲替手形ハ適法ノ裏書ヲ以テスルニアラサレハ移轉スルヲ能ハス違法ノ裏書ノ一種ニ過キサル白紙裏書ハ委任ノ効アルニ止ル可シ

第八 引出小切手ノ所持人ハ其支拂ノ地ヨリ振出シタルト否トニ從ヒ日附ノ日共九日又

ハ八日ノ期限内ニ其支拂ヲ要求スヘキモノトス○閱覽拂ノ爲替手形ハ三ヶ月ノ期限内ニ支拂ヲ請求スルヲ得(原註)懈怠ノ場合ニ於テハ所持人ハ裏書人ニ對シ權利ヲ失ヒ加之其準備期限後支拂人ノ所爲ニ因リ消滅シタルモ振出人ニ對シ權利ヲ失フベシ(千八百六十五年法律第五條)此成規ニ由テ之ヲ觀レハ期限經過前ニ準備消滅シタルモ所持人懈怠ナルモ振出人ニ對シテ償還要求ノ權ヲ有スヘキモノトス前既ニ千八百六十五年ノ法律ニ此規則アルヲ以テ爲替手形ニ付テハ支拂人期限前分散シタルモ所持人其懈怠アルニ拘ハラズ振出人ニ對シテ償還要求ノ權ヲ有スト爲スヲ得ヘキ旨ヲ述ヘタリ

第七十六

第九

引出小切手ハ當初十年間ハ印稅ヲ免シタリシモ千八百七十一年ニ於テ十「サンチム」ノ定印稅ヲ課シ一市場ヨリ他ノ市場ニ當テタル引出小切手ニ付テハ千八百七十四年ノ法律ヲ以テ二十「サンチム」ニ改メタリ○爲替手形其他ノ商業手形ニ至テハ後段説明スル如ク準等印稅ヲ賦課スルモノトス

振出人及ヒ裏書人ノ連帶ノ擔保拒ミ証書及ヒ爲替手形ノ擔保訴權ノ執行ニ關スル商法典ノ規則ハ引出小切手ニ適用スヘキモノトス

第七十七

○一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ當テ指圖人ニ支拂フヘキ引出小切手ヲ振出シタルモ如何シテ

之ヲ閱覽拂ノ爲替手形ニ區別スヘキカ蓋シ其爲替手形タルヤ否ヤヲ判識スルニハ情狀就中印紙ノ準等ナルヤ、支拂ノ場所甚々遠隔ニシテ證券ノ日附ヨリ八日間ニ支拂フヲ得サルヤ、其證券ニ爲替手形ノ稱アリヤ引出小切手ニ必要ナラサル供給價格ノ記載アリヤ否ヤヲ觀察スヘキナリ

第二 受取切手

受取切手ハ委任狀ノ體裁アルモノニアラズ單ニ受取證書ノ體裁アルノミナルヲ以テ此稱アリ即チ債主其負債主ヨリ受取ルヘキ金額ノ受取證ヲ作り之カ受取ヲ託セラレタル第三者ニ之ヲ交付スルモノナリ

受取切手ハ特別法ノ之ヲ規定スルモノアルヲナク普通法及ヒ慣習ヲ適用スルモノトス此切手ハ必ス所持人拂タルモノナリ故ニ紛失ノ場合ニ於テ之ヲ盜取スル者偽造ヲ爲サスシテ金額ヲ受取ルヲ得ルヲ以テ危險少シトセス此切手ハ所持人拂證券ト同シキ移轉スルヲ得又其支拂ハ閱覽ノ上若クハ其他ノ期限ニ於テシ殊ニ閱覽ヨリ若干ノ期日後管テ預ケ置キタル金額ヲ受取ルニ付キ有用ナリトス

○受取切手ノ移轉ハ單純ノ委任ナルカ將タ眞ニ商事上ノ讓渡タルカ此疑問ニ付テハ論者概テ之ヲ眞ノ讓渡ナリト決シタリ是ヲ以テ所持人ノ權利ハ振出人ノ死去又ハ分散ニ關係スル

ヲナク振出人ハ其最初ノ受取人即チ利益人ニ對抗スルヲ得ヘカリシ抗辨ヲ最後ノ所持人ニ向テ對抗スルヲ得ス

論者曰受取切手ハ若干ノ金額ヲ受取ルヘキ單純ノ委任狀ニアラス其委任タル一ノ手段ニ過キスシテ其目的ハ所持人ヲシテ振出人ノ名義ヲ以テスルキト雖モ自己ノ計算ノ爲メニ金額ヲ受取ラシムルニ在リ此委任タル固有ノ委任ニシテ受任者ハ即チ代理人ナリ依テ取消ス可ラサル依任トナスナリ振出人ハ受取切手中ニ掲クル反對ノ契約アルニアラサレハ自カ所持人ニ對シテ支拂ヲ擔保シ決シテ之カ妨礙ヲ爲スヘカラサルノ義務アルモノナリ(ラタウ及ヒボアステル氏ノ說並ニ千八百六十四年三月三日及ヒ千八百六十七年十二月三日ノ巴黎控訴院判決)

第七十八問

此受取切手ハ久來行ハル、モノナク而シテ其千八百六十五年ノ法律ニ規定シタル委任切手ト異ナル所ノ重大ノ點ハ受取證書ニ貼付スヘキ「サンチーム」一定印紙稅ヲ課セラル、ト及ヒ拒ミ證書ノ必要及ヒ失權ニ關スル規則ハ決シテ之ニ適用スヘキモノニ非サルト是レナリ

第二款 指圖手形

一 指圖手形ノ定義及ヒ釋解

指圖手形トハ振出人ト稱スル一人ノ者ヨリ得益者又ハ受取人ト稱スル他ノ一人ニ並ニ其指圖人ニ約定期限ニ於テ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約スル所ノ手形ヲ謂フ

第七十九 指圖手形ニハ日附ヲ記シ又支拂フヘキ金額、受取人ノ氏名、支拂ヲ爲スヘキ時期、貨幣、商品、計算其他ノ方法ヲ以テ供給セラレタル價額ヲ掲載スヘキモノトス(商法典第百八十八條) 左ニ指圖手形ノ文例ヲ示サン

千八百七十五年四月一日巴里ニ於テ支拂金高五百法

來ル六月十五日乙者又ハ其指圖人ニ商品ヲ以テ受取リタル金額五百法ヲ支拂フヘシ

甲者

二 爲替手形及指圖手形ノ通則

商法典第百八十七條ニ據レハ爲替手形ニ關シ支拂期限、裏書、連帶、手形保證、支拂、關涉ニ依ル支拂、拒ミ證書ハ所持人ノ權利義務返シ爲替並ニ利息ニ關スル總テノ成規ハ指圖手形ニ適用スヘキモノトス

三 爲替手形ト指圖手形トノ差異

第八十問

指圖手形ト爲替手形トハ左ノ數多ノ點ニ付キ差異ナリ

第一 指圖手形ハ振出人ト得益者トノ二人ノ關係アルノミ○爲替手形ハ振出人、受取人

及ヒ支拂人ノ三人ノ關係アルモノトス

第二 指圖手形ハ之ヲ振出シタル場所ニ於テ支拂フヘキモノトス(原註若シ他ノ場所ニ於テ支拂フヘキキハ後段ニ説明スル住所拂ノ手形タルヘシ)○爲替手形ハ必ス一ノ場所ニ拂込ミ他ノ場所ニ於テ支拂フヘキモノトス

第三 指圖手形ニ於テハ振出人ト支拂人トノ位置ヲ振出人一人コト占ムルヲ以テ準備並ニ受諾ノ事ヲ論スルノ要ナシ

第四 爲替手形ハ其性質トシテ商業手形ニシテ其署名人ハ悉ク商事裁判所ノ管轄ヲ受クヘシ○指圖手形ハ其性質トシテ商業手形ニアラス此性質ヲ有スルハ商人タラサル者特ニ商業ノ爲メニ振ハレタルモノ又ハ商人ノ振出シタルキニ限ル蓋シ商人ノ振出シタルキハ商業ノ爲メニ振出タリト推測スルカ故ナリ(商法典第百二十八條) 然レハ指圖手形ノ商業手形タラサル場合ニ於テモ商事裁判所ノ絕對的管轄違ニラス唯商人タラス且商業ヲ爲サハル被告人ハ民事裁判所ニ管轄替アラソコトヲ請求スルヲ得ルノミナリ故ニ商事裁判所ノ管轄違ハ關係的管轄違ニ過キス(商法典第百三十六條)然レハ指圖手形中商人ト非商人トノ署名アルキハ非商人ニ對スルモ猶ホ商事裁判所ノ管轄ナリトス(同第六百三十七條)

第五 爲替手形ニ關スル訴權ハ總テ五年ノ時効アルモノナリ○指圖手形ニ付テハ其商人ノ振出シタルキ又ハ商業ニ原由スルキニアラサレハ此五年ノ時効ヲ適用スルヲ能ハス(商法典第百八十九條)

住所拂手形

第八十一 住所拂手形ハ指圖手形ノ一ノ變體ニ過キス只其之ト異ナル所ハ其振出シタル場所ニアラサル地ニ於テ支拂フヘキモノナルニ在ルノミ

住所拂手形其性質トシテ商業手形タルヤ否ヤノ點ハ大ニ學者ノ論議惹起シタル問題ナリ一説ニ曰住所拂手形ハ商業手形ナリ蓋シ商法典第六百三十二條末文ニ於テハ爲替手形又ハ一ノ場所ヨリ一ノ場所ニ當テタル金額ノ送付ヲ以テ商業手形ト看做シタリ然ラハ則チ住所拂手形ニ於テハ振出人一ノ場所ニ於テ受取リタル金額ニ因テ他ノ場所ニ於テ金額ヲ支拂フヘキノ約ヲ爲スモノナレハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ金額ノ送付アルモノナリト他ノ一説ニ曰住所拂手形ハ指圖手形ト同視スヘク爲替手形ニ准スヘキモノニアラス管轄ノ卷第六百三十二條ニ於テノ又ハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ當テタル金額ノ送付ト云フ語ハ爲替手形ノ解釋ニシテ其之無ルベカラサル性質ノ指示ニ外ナラス其實此語ハ冗語ニシテ之ヲ爲替手形ニ適用スルニ於テハ重複ノ語ナリ何トナレハ商法典第百十條ニ於テハ爲替手形ニ

付キ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ金額送付ノ條件ヲ必要トナセハナリ然レモ沿革上ヨリ釋解ヲ下タセハ本條ハ管轄ノ事ニ關シ爲替手形ノ語ニ其説明トシテ此語ヲ附加シタル千六百七十二年ノ勅令ヲ寫出シタルモノナリ且支拂ニ付テ爲ス他ノ場所ノ指示ハ其効タル指圖手形ヲ變シテ商業手形トナスモノニ非ス殊ニ引出小切手ニ關スル千八百六十五年ノ法律ニ於テハ引出小切手ハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ當テ振出シタルキト雖モ其性質トシテ商業手形タルモノニアラスト決シタルヲ見レベシト裁判慣例ノ趣旨モ此說ヲ採リタルモノ、如シ(千八百五十四年八月二十一日、千八百五十六年十一月二十日千八百六十一年四月十日ノ大審院判決)

商業手形課税條件

爲替手形、指圖手形、其他ノ商業手形ニハ印紙税及ヒ登記税ヲ賦課スルモノトス

一 印紙税

○印紙税ハ證書ニ記載セル金額ニ準等ノモノトス印紙税ハ第一ニ千八百五十年六月五日ノ法律ヲ以テ之ヲ制定シ千八百七十一年八月二十三日ノ法律ヲ以テ之ヲ二倍シ千八百七十四年二月十九日ノ法律ヲ以テ之ヲ三倍セリ現時ニ在テハ證書面記載金高千法以下ハ百法並ニ

百法未滿ノ端數ニ付キ十五〔サンチーム〕千位以上ハ千法並ニ千法未滿ノ端數ニ付キ一法五十〔サンチーム〕トス故ニ千一法ノ證書ニテモ二千法ノ證書ト同一ノ印紙ヲ拂ヘキ者トス
 印紙稅ハ當ニ佛國ヨリ佛國ノ市場ニ向ケ振出シタル手形ニ之ヲ課スルノミナラス亦佛國ヨリ外國ニ向ケ又外國ヨリ佛國ニ向ケ振出シタルモノト雖モ佛國內ニ流通スル以上ハ之ニ賦課スルモノトス〔千八百五十年法律第三條及ヒ第條九並ニ千八百五十九年六月十一日法律〕
 外國ヨリ佛國ニ向ケ振出シタル手形ニシテ佛國內ニ流通スルモノハ千八百七十一年以來百法ニ付キ十〔サンチーム〕ト定メ千八百七十四年ニ於テモ之レカ増加ヲナサ、リキ
 印紙貼用ナキ手形ノ受取人又ハ得益者ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人ノ費用ヲ以テ之ニ印紙ヲ貼付セシムルヲ待ヘシ
 爲替手形ノ副券ハ印紙ヲ貼付シ又ハ印紙ト看做サレタル第一ノ手形ヲ流通手形ニ添付シタルキハ別ニ印紙貼用ニ及バズ
 委任切手ハ最初十年間ハ印紙貼用ニ及ハスト雖モ千八百七十一年以來十〔サンチーム〕ノ定稅ヲ賦課シ千八百七十四年二月十九日ノ法律ヲ以テ二十〔サンチーム〕ニ増加シタリ
 脫稅ノ場合ニ於テハ法律ノ三ケノ制裁アリ左ニ之ヲ列舉セン

第一 振出人、受諾人、得益者即チ第一ノ裏書人ハ百法ニ付キ六法ノ罰金ニ處セラレ三者

別々ニ該罰金ニ處セラレ而シテ連帶シテ之ヲ負擔スルモノトス故ニ三者ヲ百法ニ付キ十八法ノ罰金ヲ拂フモノトス

第二 無費用送り戻約款ノ無効

第三 所持人ノ裏書人ニ對スル失權是ヲ以テ爲替手形ノ所持人ハ受諾ナキ場合ニ於テハ所持人ニ對シ訴權ヲ有スルニ過キス其受諾アル場合ニ於テハ受諾人及ヒ振出人ニ對シ訴權アルノミ但シ振出人ニ對シテハ其期限ニ於テ準備アリタルヲ證明セサルキニ限ル其他ノ手形ノ所持人ハ振出人ニ對シ訴權アルノミナリ

二 登記稅

爲替手形ハ登記稅ノ點ニ付キ恩典アリクテ即チ第一ニ爲替手形ハ拒ミ證書ヲ作り同時ニ召喚ヲ爲スルニアラサレハ登記ノ法式ニ從フニ及ハズ〔公證人ノ面前ニテ作りタル場合ヲ除ク〕第二ニ百法ニ付キ二十五〔サンチーム〕ノ稅ヲ免レタリ

然レモ千八百七十二二年二月二十八日ノ法律〔第十條〕以來爲替手形モ拒ミ證書ト共ニ登記スル所ノ他ノ手形ト同視シ百法ニ付キ五十〔サンチーム〕ノ稅ヲ課セラル、ニ至レリ

第三款 時効

第八十三 千六百七十三年ノ命令ハ爲替手形及ヒ切手ノ事項ニ關シ五年ノ特別時効ヲ設定シタリ

商法典ハ此時効ヲ爲替手形ニ付テ採用シ加之ナラス或ル場合於テハ指圖手形ニモ之ヲ採用シタリ(原註)其他社員ノ爲メ五年ノ時効アルコトハ管テ之ヲ述ヘタリ(第六十四條)又海上法ニ於テモ典船契約及ヒ保險契約ニ關シ他ノ五年ノ時効アリ

一 五年ノ時効ヲ適用スヘキ訴權

第八十四 前段ニ述ヘタル如ク此時効ハ同一ノ區域ヲ以テ爲替手形及ヒ指圖手形ニ適用セラル、モノニアラス

爲替手形ニ付テハ商法典第百八十九條ニ之ニ關スル一切ノ訴權ハ五年ノ時効アリト云ヘリ
之ニ反シテ指圖手形ニ至テハ商人ノ振出シタル指圖手形ナルカ又ハ商業ノ爲メ振出シタル指圖手形ニ關スルキノ外五年ノ時効ヲ適用セザルモノトス之ヲ一言スレハ商業ノ爲メ振出シタルキニ限り之ヲ適用スルモノトス而シテ其振出人商人ナルキハ商業ノ爲メ振出シタリト推測セラレ其非商人ナルキハ其商業ノ爲メニ振出シタル旨ヲ證明セサルベカラス(原註)振出人非商人ニシテ商業ノ爲メニ振出シタルニアラサルキハ前段ニ述ヘタル如ク券面ニ商人ノ署名アルニ因テ商事裁判所ノ管轄ヲ受クルキト雖モ二十年間義務ヲ免カルコト能ハス(商法典第六百三十六條及第六百三十七條)

住所拂手形ニ至テハ其性質トシテ商業手形ナリトナスト否ヲサルトニ從ヒ爲替手形又ハ指圖手形ニ關スル規則ヲ適用スヘシ(引出小切手トハ千八百六十五年ノ法律ヲ以テ明カニ其商業手形ニアラサル旨ヲ定メタルカ故ニ指圖手形ニ關スル規則ヲ適用スヘキナリ)

○爲替手形ニ關シテハ左ノニケノ場合ニ於テ時効ノ行ハル、コトアリ

第一 所持人ヨリ受諾シタル支拂人ニ對シテ訴權ヲ行ハント欲スルキ

第二 其準備ヲ爲サ、リシ振出人ニ對シテ請求ヲ爲サント欲スルキ

蓋シ此場合ニ於テハ所持人ニ懈怠アリシキト雖モ即チ所持人ハ拒ミ證書ヲ作ラス又十五日內ニ拒ミ證書ヲ送達シテ招喚ヲ爲サ、ルキト雖モ其權利ヲ失フモノニアラス受諾シタル支拂人並ニ準備ヲ爲サ、リシ振出人ニ對シ償還要求ヲ爲スコトヲ得該拂支人並ニ振出人ハ五年間其義務ヲ負擔スルモノナリ然レモ此五年ノ期限ヲ經過スルキハ則チ時効ヲ以テ對抗スルコトヲ得ベシ

其他ノ指圖手形ニ至テハ支拂ヲ受ケサル所持人ヨリ振出人ニ對シ償還要求ヲ爲サント欲スルキ時効ヲ以テ對抗スルコトアリ蓋シ振出人ハ自身ニ義務ヲ負擔スルキヲ以テ一種ノ受諾人ニシテ所持人ノ懈怠ヨリ生スル失權ヲ申立ツルコト能ハサルナリ故ニ所持人ニハ五年ノ時効ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルニ過キサルモノナリ

第八十五 故ニ五年ノ時効ハ所持人ノ懈怠アルモ爲メニ義務ヲ免カレサル義務者ノ爲メニハ其行ハル
トアルヘキヲ了解シ得ヘキナリ

第八十六

然レモ裏書人又ハ準備ヲ爲シタル振出人ノ爲メニハ其適用アルヲ認ムルヲ難シ何トナレハ
此諸人ニ對シテハ所持人ハ懈怠ナリシキハ直ニ失權シ又敏捷ナリシキハ三十年間○執行ス
ルヲ得ヘキ勝訴ノ言渡ヲ受クヘク即チ二者其一ニ居ルヘケレハナリ〔原註〕無費用送り戻ノ
約款アルキ所持人ニ責ムヘキ懈怠ナキヲ以テ失權アルヲナカルヘシ故ニ此場合ニ於テハ亦
五年ノ時効ノ適用アルヘキナリ

所持人懈怠ナリシ場合ニ於テモ商法典第七十一條ノ法文ニ據レハ準備ニ供セラレタル
資本ヲ受取リタル振出人又ハ裏書人ニ對シテ失權ノ妨止息スルヲ以テ之ニ對シ五年間償還
要求ヲ爲スヲ得ヘシト主張スルモノアリ然レモ此場合ニ於テハ所持人最早爲替手形ニ
關スル訴權ヲ行フモノニアラス振出人又ハ裏書人ノ不當ニ收受シ及ヒ保存スル準備取戻訴
權ヲ行フモノナレハ其訴權ハ三十年ノ時効アルノミ
是ヲ以テ二三ノ論者殊ニドマンシアー氏ハ五年ノ時効ハ其實準備ヲ爲シタル裏書人又ハ振
出人ニ對スル所持人ノ訴權ニ適用スルヲ能ハサルモノナリト主張セリ
然レモ余輩ハ或ル論者並大審院ノ裁判慣例ニ從ヒ準備ヲ爲シタル裏書人並ニ振出人ニテモ

下ノ二個ノ場合ニ於テハ此時効ヲ申立ツルヲ得ヘシト信スルナリ

第一

所持人敏捷ニシテ成規ノ期限ニ拒ミ證書ヲ作り之ヲ送達シ期限内招喚ヲ爲シタリ
次テ其訴訟未タ落着セズ而シテ最後ノ訴訟手續ヨリ裁判ニ至ル前既ニ五年ヲ經過
シタリ此場合ニ於テハ裏書人又ハ振出人ハ五年ノ時効ヲ申立ツルヲ得ヘシ何ト
ナレハ商法典第百八十九條ニハ五年ノ時効ハ拒ミ證書ヲ作りタル日又ハ最後ノ裁
判上ノ訴訟アリタル日ヨリ經過シ始ムルモノトナセハナリ是レ千八百六十年十二
月二十四日ノ大審院判決ニテ決シタル所ナリ

第二

所持人敏捷ニシテ闕席裁判ニ依リ勝訴シタリ此裁判ハ六月内ニ執行セサレハ無効
ト看做サル、モノナリ〔訴訟法典第百五十六條及ヒ商法典第六百四十三條〕

若シ該訴訟後所持人更ニ裁判ヲ得スシテ五年ヲ經過スルキハ準備ヲ爲シタル裏書人及ヒ振
出人ハ時効ヲ以テ對抗スルヲ得ヘシ

○茲ニ注意スヘキモノアリ即チ商法典第百八十九條ニ據レハ五年ノ時効ヲ受クヘキモノハ
爲替手形及ヒ或ル指圖手形ニ關スル訴權ノミナリ故ニ左ノ訴權ニハ三十年ノ時効ヲ適用セ
サルベカラス

單純ノ約務書ニ變シタル爲替手形ヨリ生スル訴權

準備ナキニ支拂ヲ爲シ振出人ニ向テ其代理人ノ資格ヲ以テ所持人ノ權利ニ代位シタル者ノ資格ヲ以テセスシテ請求ヲ爲ス支拂人ノ訴權
所持人ニ拂戻ヲナシタル後支拂人ニ其受取リタル準備ノ還付ヲ求ムル振出人ノ訴權

蓋シ此等ノ場合ニ於テハ其訴權ハ爲替手形ニ關スルモノニアラス爲替手形ヨリ生スル權利ヲ執行スルモノニアラサルナリ

二 五年ノ時効ノ起算點

第八十七 商法典第百八十九條ニ據レハ五年ノ時効ハ拒ミ證書ヲ作りタル日ヨリ起算スヘキモノトス此語タル敢テ時効ノ期限ヲ經過セシムルカ故ニ拒ミ證書ヲ必要トスルヲ云フニアラス時効ノ起算點ハ拒ミ證書ヲ作ルヘキ日即チ支拂期限ノ翌日タルヲ謂フモノナリ(但シ當日法律上ノ祭日ナルキハ其翌日拒ミ證書ヲ作ル場合ハ此限ニ非ス)蓋シ商法ノ時期ニ拒ミ證書ヲ作ラサル所持人ハ之ヲ作りタル者ニ勝ルノ待遇ヲ受クヘキノ謂ハレナキナリ(千八百五十二年十一月十六日ノ大審院判決)

三 時効中斷ノ原因

普通法民法第千二百四十四條以下ニ據レハ時効ハ裁判所ノ招喚、督責、差押又ハ義務者ノ

認知ニ因リ中斷セラル、モノトナシ其中斷ノ効ハ單ニ中斷セラレタル所爲以前ノ時間ヲ時効ニ經過シタルモノト看做サ、ルニ在リ

商法典モ亦其第百八十九條ニ於テ時効ハ拒ミ證書ノ日又ハ最後ノ裁判上ノ出訴アリタル日ヨリ五年ヲ以テ成ルトナスヲ以テ之ヲ觀レハ同一ノ原因ニ基キタルモノ、如シ

第八十八 問

以上ノ語辭ニ據ルキハ拒ミ證書ノ日即チ該證書ヲ作ルヘキ日ヨリ經過シタル時効ハ招喚ニ因リ中斷セラレ五年ノ時効ハ訴訟アリタル日ヨリ更ニ進行ヲ始ムルモノナリ

若シ三年間訴訟ノ不繼續ニ因テ訴訟消滅ノ言渡アリタルキハ此訴訟消滅ノ効ハ總テノ手續ノ所爲就中招喚ヲシテ消滅セシムルヲ以テ其中斷之ヲ未ダ曾テ訴訟之ナキモノト看做シ(民法典第千二百四十七條時効ハ拒ミ證書ヲ作ルヘキ日ヨリ起算スヘキモノトス願下即チ原告ニ於テ訴訟ノ拋棄ヲ爲シタルキモ亦同シ)

若シ其訴訟五年以上繼續シ願下モナサス又訴訟ノ消滅ナキキハ前ニ述ヘタルカ如ク時効ヲ申立ツルコトヲ得ルカ將タ之ニ反シ一タヒ訴訟ニ係リタル訴權ハ時期ノ爲メニ滅失セスト云ヘル格言ニ依リ中斷ヲ訴訟ト共ニ遷延スルモノト看做スヘキカト云フ點ハ願ハ論議ヲ生シタル問題ナリ余輩ハ大審院ノ判決ニ從ヒ五年ノ時効ヲ以テ對抗スルコトヲ得ヘント決シタリ此論決ハ善ク法律ノ文辭及ヒ精神ニ適合スルモノナリ(ボアステル氏ノ說)

又時効ハ差押即チ支拂差止又ハ第百七十二條ニ於テ所持人ノ爲メ諸義務者ノ動産上行フ
ヲ許シタル權利保存ノ差押ヲ以テ中斷スルヲ得ベシ

督責ニ至テハ執行證券アルモノトナスカ故ニ之ニ依テ時効ヲ中斷スルコトハ殆ント稀レナル
ヘシ蓋シ指圖手形ハ公證人ノ作ラサルコト往々之アリ又支拂言渡ノ裁判アリタルキハ此裁判
ニ因テ爲ス所ノ督責ハ五年ノ時効ヲ中斷スルモノニアラスシテ下文ニ陳フル如ク三十年ノ
時効ヲ中斷スルモノナリ

問 第八十九

期限後ニ爲シタル遅延ニ依ル拒ミ證書ハ時効ヲ中斷スルモノナルヤ如何大審院ハ之ヲ中斷
セサルモノナリト決シタルハ其當ヲ得タリト謂フヘシ蓋シ拒ミ證書ハ裁判上出訴ノ性質ヲ
有スルモノニアラス之ヲ督促ト看做スヲ得ルノミ然ラハ則チ督促(ソツマシヨ)ハ督責(コ
ンマンドマン)ト異ニシテ時効ヲ中斷スルモノニアラサルナリ(千八百四十六年四月二十八
日判決)

義務者ヨリ其時効ヲ以テ對抗セントスル者ノ權利ノ認知ヲ爲シタルキハ其認知ハ五年ノ時
効中斷ノ原因タルヘシ利息ノ支拂又ハ内金ノ支拂又ハ分散ノ所働件中ニ其債主權ヲ算入シ
タルコトヲ以テ五年ノ時効中斷ノ所爲ト看做スベシト斷定シタルモノハ即チ此ニ在リ

商法典第百八十九條ニハ時効ハ拒ミ證書又ハ最後ノ裁判上ノ出訴アリタル日ヨリ五年ノ時

間ヲ以テ遂成スル旨ヲ記シタル後但シ敗訴言渡アルカ又ハ別異ノ所爲ヲ以テ其義務ヲ認知
シタルキハ云々ノ語ヲ附加シタリ

此法律ノ制限ハ敗訴ノ言渡又ハ別異ノ所爲ヲ以テ義務ヲ認知シタルキハ五年ノ時効進行セ
サルヲ謂フモノナルヤ固ヨリ辨明ヲ待タサルナリ

蓋シ敗訴ノ言渡ノ場合ニ於テハ其言渡ハ更ニ一ノ證書トナリ權利者ノ此裁判ヲ執行ニ付ス
ルコトヨリ生スル權利ハ三十年ニアラサレハ時効ナキモノトス然レモ既ニ述ヘタル如ク其裁
判闕席ニテ言渡アリ而シテ六ヶ月間執行ナキニ於テハ其効ヲ失ヒ最後ノ裁判上ノ訴訟手續
アリタル日ヨリ五年ノ時効進行スルモノナリ

第九十問

又別異ノ所爲ヲ以テ義務ヲ認知シタル場合ニ於テモ三十年ノ時効ヲ通用スヘキナリ此別異
ノ所爲ナル語ハ宜シク注意スヘキモノナリ此語ハ爲替手形又ハ指圖手形ト別離セル紙面ニ
認知ヲ爲シタルノ謂ニアラス更改ヲ爲シ新證書ヲ以テ舊證書ニ代フルノ目的ニテ爲シタル
認知ノ謂ナリ故ニ所持人ハ最早指圖手形ニ因ル權利者タルニアラズシテ之ニ代ヘタル新證
書ニ因ル權利者ナリ然リ而シテ義務者單ニ其義務ヲ認メタル通信書狀アルニ過キサルキハ此
更改ノ性質アリト爲ス可ラス之ニ反シテ同券面ニ於テ爲シタル認知ト雖モ亦此性質ヲ有ス
ルコトアリ何レノ場合ニ於テモ取引計算中負債ヲ認メタルキハ更改アリトス

○法典ニ於テハ時効停止ノ原因ヲ記セズ此點ニ付テハ民法ノ規則ヲ適用シ就中五年以下ノ短時効ハ幼者及ヒ禁治産者ニ對シテ進行セサルカ故ニ權利者ノ幼者又ハ禁治産ハ停止ノ原因ニアラスト決スヘキナリ〔民法典第二千二百七十八條〕

四 五年ノ時効ノ性質

第九十一問 五年ノ時効ハ支拂ノ推測ニ基クモノナリ既ニ千六百七十三年ノ勅令ニ爲替手形ハ五年ノ後ニ至レハ拂濟ニナリタルト看做スヘシト記セリ此推測ハ反証ヲ許サルモノニアラス法律ハ權利者ナリト爲ス所ノ者及ヒ時効ヲ以テ對抗セラル、者ニ許スニ宣誓ヲ求ムルヲ以テス故ニ其義務者ト稱スル者ヲシテ其義務ヲ負擔セサル旨ヲ誓ハシメ又ハ其寡婦、相續人若クハ其承權者ヲシテ其善意ヲ以テ毫モ負擔スル所ナシト信スル旨ヲ誓ハシムルヲ得〔商法典第百八十九條末文〕此規則ハ民法典ニ定メタル二三ノ短時効ニ通用スルモノナリ〔民法典第二千二百七十五條〕

商法略論第二編問題

-
- 第一 問 海上貿易ニ關スル商法典第二編ノ成規ノ基礎トナリシモノハ如何ナル勅令ナルヤ
- 第二 問 「ナウイール」トハ何ソヤ
- 第三 問 如何ナル方法ヲ以テ船ノ容量ヲ計ルヤ
- 第四 問 量目ノ噸數ト容量ノ噸數トノ間ニハ如何ナル關係アリヤ
- 第五 問 動産ト看做シタル船ニ如何ナル特別ノ規則アリヤ
- 第六 問 佛國船々籍證書トハ何ソヤ
- 第七 問 船舶書入質ノ重ナル特別ノ規則トハ何ソヤ
- 第八 問 如何シテ船舶上ノ先取特權又ハ追取ノ權ハ消滅スルヤ
- 第九 問 船長ノ約務ニ對シテ船ノ所有者兼機裝人ノ責任如何
- 第十 問 如何ナル方法ヲ以テ船ノ所有者兼機裝人ハ此責任ノ結果ヲ免ル、得ルヤ
- 第十一 問 船ノ共有ニ關スル特別規則トハ何ソヤ

第十二問 船ノ出帆前又ハ航海中又ハ着港ニ當リ船長ノ重ナル權利及ヒ義務トハ何ソヤ

第十三問 如何ナル方法ヲ以テ水夫ノ雇入ヲ爲スカ

第十四問 水夫ニ給與ス可キ雇賃即チ給料ノ擔保トハ何ソヤ

第十五問 水夫ノ雇入及ヒ其雇賃ニ影響ヲ及ホスモノハ如何ナル事變ナルヤ

第十六問 特別ニ商業ノ禁止又ハ航海差止ノ効果如何

第十七問 「シヤルト、バルチー」トハ何ソヤ

第十八問 船ノ賃借契約ヲ證スル證書中ニ往々記載スル所ノ特別約款トハ何ソヤ

第十九問 積荷目錄トハ何ソヤ

第二十問 何人ノ利益ニ於テ積荷目錄ヲ作ルヤ及ヒ其功用如何

第二十一問 積荷目錄ノ正本ハ幾通之ヲ作ルヤ

第二十二問 如何ナル方法ヲ以テ船ノ賃借料ヲ定ムルヤ

第二十三問 如何ナル時ニ於テ船ハ拾集積込ヲナスカ

第二十四問 如何ナル場合ニ於テ船ノ賃借人ハ契約ヲ破却スルヲ得ルヤ

第二十五問 船賃ノ義務ヲ變更シ又ハ消滅セシムルヲ得ル重ナル事變如何

第二十六問 船賃ノ辨濟ニ就テハ如何ナル擔保アリヤ

第二十七問 幾何ノ月日間船長ノ先取特權ハ繼續スルヤ

第二編 海上貿易自第九十條至第四百三十六條

第一問 海上法ニ關スル商法典ノ第二編多クハ海上貿易ノ規則ヲ掲クル有名ナル千六百八十一年ノ勅令ニ定ムル所ノ成規ヲ掲出シタルモノナリ蓋シ此千六百八十一年ノ勅令ハ大洋ノ貿易ヲ規定シタル「ロールド・オレロン」及ヒ地中海ノ貿易ヲ規定シタル「コンシユラード・ラメル」ノ二者ニ因リタルモノナリ

千六百八十一年ノ勅令ニ定ムル所ヲ變改セサルモノハ則チブラヴハルド氏ノ云ヘル如ク海上及ヒ其海上ノ危難ハ古今同一ナルヲ以テナリ

千八百七年ニ商法典ノ頒布アリシヨリ爾來此商法典中海上貿易ニ關スル部分ニ些少ノ變更アリタリ蓋シ航海ノ進歩及ヒ貿易上ノ信用ヲ保護スルノ急務上改正ノ必要ヲ來タセシナリ

後段ニ説明スル千八百七十四年十二月十日ノ法律ヲ以テ船舶ハ之ヲ書入質ト爲スヲ得可シトナセリ(原註)海上貿易ノコトニ關スル商法典第二編ノ改正案ハ千八百七十五年ノ始メニ之ヲ提出シタリ

○商法典第二編中ニハ十四卷ヲ包含ス

最初ノ五卷ニ於テハ船舶及ヒ其船舶ニ關スル人員ヲ記載シ

第六卷ヨリ第八卷迄ハ船舶貸賃ヲ記載シ

第九卷及ヒ第十卷ハ典船貸借及ヒ海上保險ヲ記載シ

第十一卷及ヒ第十二卷ニ於テハ運輸ノ損害、投荷及ヒ其損失擔當ノ割合ヲ規定シ

第十三卷及ヒ第十四卷ニ於テハ海上事件ニ於テ申立ルコトヲ得可キ時効及ヒ不受理ノ理由ヲ

記載セリ

依テ商法典ノ順序ニ從ヒ此諸卷ヲ簡單ニ説明ス可シ但シ船舶貸賃、典船貸借、保險及ヒ運輸損害等ハ屢々學生試験ノ問題トナルヘキ事件ナルヲ以テ少ク詳細ニ述ヘサルヘカラス

第一卷 船舶ノ事(自第九十條至第九十六條)

第二問 船舶(ナウヒール)ナル語ハ其廣博ナル意義ニ於テハ船舶ノ總稱ナリ而シテ其特別ノ意義ニ於テハ「少エーソー」ト稱スル國家ニ屬スル船艦ニ對シ商業ニ用フル船舶ノミヲ示スモノナリ

習慣ニ於テ此船舶ニ其大小容量ニ從テ諸種ノ名稱アリ例ヘハ「トローワー」、「三檣船」、「ブリック」、「二檣船」、「シャス」、「マレー」、「二檣船」、「ルウグル」、「二檣船」、「キユツテル」、「一檣船」等ノ如キ即チ

是ナリ而シテ此等ノ船ハ特ニ「バトー」ト稱スル河川ニ用フル艇舫ニモ亦對稱スルモノナリ

船ノ容量ハ其噸數ヲ以テ之ヲ定ム故ニ某船ハ百噸積ナリト云ヒ某船ハ二百噸積ナリト云ヒ

又某船ハ三百噸積ナリト云フカ如キ是ナリ但シ一噸(トン)ノ「ハ」、「メートル」、「メートル」ハ我三尺三寸三分強四十四(サンチメートル)「一(サンチメートル)ハ百分ノ一」即

チ四十二立方チ云フ而シテ船ノ噸數即チ容量ノ測量ヲ名ケテ「シャウシャーシユ」ト稱ス(原

註)賣買ノ卷ニ於テ「ドンノ」(噸數)ナル語ヲ時トシテハ斤目ノ義トシ又時トシテハ斗量ノ

義トシテ用ヒタリ故ニ「トンノ」チ斤目ノ義トシテ用フルキハ「トンノ」ハ千(キログ

ラム)即チ水ノ「メートル」立方チ表ス然レハ海上ニ用フル斤目(トン)ノ「ド、メートル」即チ

船ノ借入ノ斤目ハ其斤目一樣ナラス即チ其斤目ハ商品ノ輕重ニ從テ差異アリ故ニ船ノ借入

ニ付テハ量目ノ異ナル權衡ヲ用フルカ如ク斤目ヲ以テ賣買スヘキ商品ヲ賣買スルニ當テモ

亦斤目ノ異ナルコトヲ知ル可シ又「トンノ」チ斗量ノ義トシテ用フルキハ「トンノ」ハ「

メートル」四十四(サンチメートル)即チ四十二立方チ云フ「シユエース」ノ掘割會社ニ於テ請

取ルヘキ税金ノコトニ付爭論アリタル末千八百七十二年十二月廿四日ノ布告以後用ヒタル船

ノ容量ヲ測量スル方法ハ英國ノ方法ヲ用フルコトシタリ○船積シタル荷物ノ平均ノ重力ハ

水ノ重力ニ比スレハ輕キヲ以テ(水ノ重力ヨリ輕キコト凡ソ〇・七ナリ)千(キログラム)ノ斤

四百十九

目ハ一「メートル」四十四「センチメートル」ノ大ヒサチ表スルナリ故ニ商品ノ千「キログラム」
ム「斤目」ハ一「メートル」四十四「センチメートル」ノ大ヒサニ相當スルモノトス
凡ソ船ニハ必テス其航海用ノ器具即チ帆布、綱、錨、脚錨、等ノ附屬品ヲ包含スルモノトス而シ
テ此等ノ附屬品ヲ包含スル船ヲ稱シテ「ヨール」ト云フ其商品及ヒ積荷「フハキユルター」ト云
フニ對シテ稱スルモノナリ

一 船舶ノ性質及ヒ船舶ニ關スル特別規則

商法典第九十條ニ定ムル所ニ據レハ船舶ハ總テ動産ナリ（民法典第五百三十一條參觀）
舊法ニ於テハ船舶ヲ水上ニ建設シタル家屋即チ不動産ト看做セリ而シテ之ヲ不動産ト看做
シタルカ爲メ種々ノ不都合ヲ生シタリ何トナレハ當時不動産ヲ買入買ト爲ス法式ナキカ故
ニ世人其書入賣アルヲ知ラサルヲ以テ船舶ノ賣買ハ之ヲ爲スヲ得サリキ

第五問

千六百八十一年ノ勅令並ニ商法典ニ於テハ船舶ヲ動産ト爲セリ然レモ船舶ハ他ノ動産ト異
ニシテ特別規則ニ從フモノナリ今其規則中ノ重ナルモノヲ左ニ列記ス可シ

第六問

第一 船舶ハ人類ト同ク其身分證書（原註）船ノ身分ノ變更タル所有權ノ移轉ハ船名簿及
ヒ佛船籍證書ニ認記ス可シ船籍證書トハ船舶ニ佛蘭西國旗ヲ揚クルノ權利アル
ヲ示証スル者ニシテ船籍日記ノ帳簿及ヒ稅關ノ帳簿ニ據テ船舶所有者ニ下渡ス證書

チ云フ此船籍ヲ定ムルヲハ萬國公法上及ヒ稅關ノ收稅上甚ク緊要ナリ往時ニ在テ
ハ佛蘭西ニ構造シタル船ニアラサレハ之ヲ佛蘭西船ト爲スヲ許サ、リシカ商船ニ
關スル千八百六十六年五月十九日ノ法律以後ハ外國構造ノ船ト雖モ其噸數ニ從ヒ
若干ノ稅金ヲ拂ヒ且佛蘭西人ニ於テ其船ノ半以上ヲ所有シ之ニ佛蘭西人タル水夫
ノ乘組居ルモノハ之ヲ佛蘭西船ト爲スヲ許シタリ及ヒ其固有ノ船籍船名並ニ
其所屬ノ港灣ニ於テ住所ヲ有ス

第二

船舶ノ賣買ハ公証人若クハ商業世話人ノ記シタル公正證書ト私印證書トヲ問ハス
必ス證書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ（商法典第九十五條）

第三

協議上ノ船舶賣買ノ場合ニ於テハ其賣主ノ權利者ハ賣却シタル船ヲ追取スルノ權
アリ但シ此追取ノ權ハ其船ノ買主ニ於テ自己ノ名義ヲ用ヒ自ラ危險ニ任シテ其船
ヲ航海セシメタルヲヨリ生スル特別ノ特權滌除ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ消滅セ
シムルヲ得ス（商法典第九十條、第九十二條、第九十四條、第九十五條及ヒ第
百九十六條）

第四

動産ヲ占有スル者ハ其之ヲ占有スルヲ以テ其所有權ノ證書ヲ有スルニ等ト做ス規
則ハ船舶ニ適用スルモノニ非ス此規則ヲ適用セサル所以ノ者ハ蓋シ船舶ノ價貴キ

其賣買ノ稀ナルヲ其賣買ハ必ス証書ヲ以テ証スルヲ其証書ヲ以テ賣買ヲ爲スカ
故ニ船ノ所有權ヲ認定シ又ハ船ノ異同ヲ證スル容易ナルヲ等ハ普通法ノ變例ヲ認
ムルノ理由アルヲ以テナリ其他船賣主ノ權利者ニ於テ其賣却シタル船ヲ追取スル
ノ權アリトセハ况ンヤ船ノ所有主ニモ此權利ヲ得ス可キモノナリ

第五 船ヲ差押ヘ又ハ強制賣拂ハ下卷ニ於テ之ヲ見ル如ク特別ノ規則ニ從フモノトス
第六 或特別ノ特權ハ後段ニ説明スル如ク之ヲ船舶上ニ設置セリ

第七 千八百七十五年五月一日以後實施セラレタル千八百七十四年十二月十日ノ法律ニ
據レハ二拾噸及ヒ二拾噸以上ノ船ハ之ヲ書入質ニ爲スヲ許シタリ

第七問

抑モ船ハ之ヲ質入スルキハ權利者又ハ第三者ニ於テ其船ヲ占有セサル可ラス之ヲ質取債主
ニ手渡スルキハ其効用ヲ失ヒ占用者モ亦迷惑少カラサルカ故ニ船ヲ質入スルヲ得サルヲ
以テ世人ハ永年船船ノ書入質ヲ希望シ遂ニ此千八百七十四年十二月十日ノ法律ニテ改正
ヲ是認スルニ至レリ(原註茲ニ千八百七十四年十二月十日ノ法律ノ要領ヲ述フ可シ則チ此
法律ニ據レハ凡ソ船舶ハ雙方ノ合意ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ書入質ト爲スヲ得ス而シ
テ其契約ハ必ス書面ヲ以テセサルヘカラス但シ契約ハ私印證書ヲ以テ爲スヲ得○構造中
ノ船ト雖モ亦之ヲ書入質ト爲スヲ得可シ但シ製造中ノ船ヲ書入質ト爲スニハ船ヲ構造スル

地ノ税關ニ其船ヲ書入質ニ爲ス旨ヲ届出其届書ニハ書入質ニ爲スヘキ船ト他ノ船ト取違ナ
キ爲メ必要ナル事件ヲ記載ス可シ(千八百七十四年十二月十日ノ法律第一條乃至第五條)○
船ノ書入質ノ公告ハ税關ノ收稅吏特別帳簿ノ記入ヲ取扱ヒ之ヲ佛國船籍證書ノ裏面ニ記載
スルヲヨリ生ス其他書入質ノ記入ハ書入質設定證書又ハ其寫書上ニ保證ヲナス可シ(千八
百七十四年十二月十日ノ法律第六條乃至第九條)○書入質ノ順序ハ記入ノ日附ニ從テ之ヲ
定ム此記入ハ三年內ニ之ヲ書改メサルヘカラス若シ否ラサレハ記入ノ効ヲ失フヘシ(千八
百七十四年十二月十日ノ法律第十條及ヒ第十一條)此記入ハ元金ト同様ノ順序ニ從テ其二
ケ年ノ利息及ヒ書改メヲ爲シタル當年ノ利息ノ仕拂ヲ擔保ス可シ○船舶書入質契約證書ハ
指圖書ト爲スヲ得可シ此場合ニ於テ裏書ノ方法ヲ以テ爲ス取引ハ書入質權ノ讓渡ヲ共ニ
スルモノトス(千八百七十四年十二月十日ノ法律第十二條)○書入質ハ權利者ニ先取ノ權ヲ
與フルノミナラス又追取ノ權ヲ與フルモノナリ故ニ船ノ覆没シ又ハ航海スルヲ得サル場
合ニ至リシ時ハ先取特權ハ救助シ得タル物品或ハ其代價及ヒ義務者ヨリ爲シタルノ保險金
額上ニ之ヲ執行ス記入ヲ經タル書入質債主又ハ讓受人ハ債主權ノ擔保トシテ船ヲ保險セシ
ムルヲ得可シ(千八百七十四年十二月十日ノ法律第十七條)○船ヲ買入シタル第三者ハ民
法典ニ定ムル所ノ法式ト同一ノ法式ニ依リ船ヲシテ書入質ノ義務ヲ滌除セシムルヲ得可

シ又總テノ債主ハ船ヲ再糶賣チナスコトヲ得可シ(千八百七十四年十二月十日ノ法律第九條乃至第二十五條)○船舶所有者ハ航海中船ヲ書入質ト爲スコトヲ得但シ其之ヲ爲サントスルニハ所有者ハ船ノ出航前幾何ノ金額ニ船ヲ書入質ニ爲スヘキ旨ヲ豫メ税關ニ届出テ置カサルヘガラヌ航海中船ヲ書入質ニ爲シタル時ハ佛蘭西國所屬ノ國ニ於テハ税關ノ収稅吏又外國ニ於テハ佛蘭西領事若シ領事ナキ地ハ契約ヲ爲シタル地ノ官吏其佛蘭西船タル事ヲ證スル證書ニ其旨ヲ記載シ以テ之ヲ證ス千八百七十四年十二月十日ノ法律第二十六條)

二 船舶ニ付キ先取特權ヲ有スル債主權

商法典第九十一條ニ據レハ左ニ記載シタル諸件ハ其記載ノ順序ニ從ヒ先取特權アリトス

第一 賣拂及ヒ代金ヲ分配シ得ル爲メニナシタル裁判費用及ヒ其他ノ費用

第二 引水税、噸税、船塲税、碇泊税、入船塲税

第三 船ノ入港シタル時ヨリ賣拂フニ至ル迄ノ管守ノ雇賃及ヒ其船ノ管守ニ付テノ諸費用

第四 船具及ヒ器具ヲ藏メ置キタル倉庫ノ賃賃

第五 船ノ最後ノ航行及ヒ其入港以來ノ船及ヒ船具器具ヲ修理スルコト付テノ諸費用

(以上五項ニ記載シタル債主權ハ最後ノ航行ヲ以來生スルモノナリ)

第六 最後ノ航行ニ於テ使用セラレタル船長及ヒ其他ノ乗込人ノ雇賃

第七 最後ノ航行中船ノ需用ノ爲メ船長ニ貸シタル金額及ヒ之ト同一ノ目的ノ爲メニ船長ノ賣却シタル商品ノ代金ノ償還

(以上二項ニ記載シタル債主權ハ最後ノ航海中ニ生スルモノナリ)

第八 船ノ未ダ航行ヲ爲サ、ル時ニ於テ賣主、物品供給者及ヒ造船ニ使用セラレタル工

丁ニ對シテ負擔シタル金額並ニ船ノ既ニ航海シタル時ニ於テハ其出帆前ニ物品供給工作工價ノ爲メ及ヒ修理飲食料船具ノ裝置、艤裝ノ爲メ各債主ニ對シテ負擔シタル金額

第九 船体船身船具器具及ヒ船ノ艤裝物ニ付キナシタル保險料ノ金額ニシテ最後ノ航行ノ爲メニ負擔シタルモノ

第十 船ノ賃借人ノ積入レタル商品ヲ引渡サ、ルコトノ爲メ又ハ船長或ハ乗組人ノ過失ニ依リ右商品ノ受ケタル運輸損害ノ償還ノ爲メ其賃借人ニ對シテ負擔シタル損害賠償(原註原、商法典第九十一條中ニハ十一項ヲ包含シタリ而シテ其第九項ハ船ノ出帆前典船賃借ノ金額ヲ掲ケタリト雖モ船舶ノ書入質ニ關スル千八百七十四年十二月十日ノ法律ヲ以テ之ヲ廢止シタリ)

(以上三項ニ記載シタル債主權ハ最後ノ航海前ニ生スルモノナリ)

第九十一條ノ各項ニ記スル各債主ハ代金不足ナル場合ニ於テハ其債主權ノ割合ヲ以テ相抗競シテ償還ヲ受ク可キモノトス而シテ第九十二條ニ於テハ債主ノ特權ヲ行フ爲メ作り又ハ差出ス可キ書類ヲ指定セリ

千八百七十四年十二月十日ノ法律ニ據レハ船ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル債主權ノ後其記入ノ順ヲ以テ償還ヲ受ク可シ

三 先取特權並ニ追取權ノ消滅

第八問 先取特權ハ第一ニ其擔保スル所ノ債主權ノ消滅ニ依テ消滅スルモノトス何トナレハ主タル

權消滅スル時ハ從タル權獨リ存スルノ理ナケレハナリ

又先取特權ハ各債主ニ屬スル追取ノ權ト同シク或ル特別ノ原因ニ依リ消滅スヘシ此件ニ付テハ裁判所ニ於テ船ノ賣却ヲナシタル時ト船ノ所有主隨意ニ之ヲ賣却シタル時トヲ區別セサルヲ得ス

○裁判所ニ於テノ賣拂

次卷ニ於テ説明スル所ノ法式ニ從ヒ裁判所ニ於テ船舶ヲ賣拂フタル時ハ追取ノ權利ハ消滅ス可キモノニシテ特權ヲ有スル債主ト之ヲ有セサル債主トヲ問ハス船ノ賣拂代金上ニ權利

ヲ行フモノトス(商法典第九十二條)

○隨意ノ賣拂

船ノ持主隨意ニ其船ヲ賣拂フタルキハ港内ニ於テ之ヲ賣拂フタルヤ又ハ航行中ニ之ヲ賣拂フタルヤヲ區別セサルヘカラス

第一 港内ニ於テ船ヲ賣拂フタル場合○此場合ニ於テハ其船ニ付テ特權ヲ有スルト有セ

サルトヲ問ハス債主ノ權利ハ總テ此等ノ債主ヨリ故障ヲ述フルコトヲ船買入主ノ名義ヲ用ヒ且ツ買取主ニ於テ其危險ノ責メニ任シ航行ヲ爲シタルキニアラサレハ消滅スルコトナシ(商法典第九十二條第三項)

船ノ航行ヲ爲スト看做スヘキモノハ即チ一港ヨリ出帆セシ一港ニ着シ而シテ其着港三十日ノ後タルノ證アルキ又ハ此港ヨリ出帆シ彼港ニ至ラスト雖モ六十日以上ノ時間ヲ經タル後前日出帆セシ港ニ歸リ來リシ時又ハ遠洋航海ノ爲メ出帆シ既ニ六十日以上ノ時間ヲ經タル時はレナリ(商法典第九十四條)

第二 航海中ニ船ヲ賣拂フタル場合○船ノ所有主航海中ニ其船ヲ賣拂フタル時ハ之カ爲メ其債主ノ權利ヲ害スルコトナシ依テ船ノ所有者ニ於テ假令ヒ其船ヲ賣拂タルモ債主ハ其質物ヲ保有シ其代金上代金ヲキキハ其船ニ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ但シ其權

利ヲ詐用シタル賣買ヲ無効ナラシムヘキ其權利ト抵觸スルコトナカルヘシ〔商法典
第百九十六條〕

第二卷 船ノ差押及ヒ賣拂自第百九十七條至第百二十五條

船舶ハ他ノ財産ノ如ク債主ノ請求ニ基キ裁判所ノ威力ヲ以テ差押ヘ之ヲ賣拂フコトヲ得可シ
且前文既ニ説明セシ如ク裁判上ノ賣拂ハ債主ノ追取權ヲ排除ス可シ〔商法典第百九十七條〕
然レモ立法者ハ既ニ出帆ノ用意ヲ爲シタル船舶ハ航海ノ爲メニ爲シタル負債ニ因ルノ外之
ヲ差押フルコトヲ禁セリ尙ホ此場合ニ於テハ負債主ヨリ保証人ヲ立テ以テ差押ヲ妨止スルコ
トヲ得ルナリ〔商法典第百十五條及ヒ第百三十一條參觀〕而シテ船舶ハ其船長ニ於テ出帆
ノ用意ヲナシ則チ下ノ第四卷ニ説明スル所ノ船長ノ携帶ス可キ書類ヲ用意シタルモ即チ
之ヲ用意シタルモノト看做スベシ今ヤ船舶ノ差押及ヒ賣拂ニ關スル諸法式ヲ左ニ講究セン
トス

一 船舶差押ニ關スル諸法式

船舶ヲ差押ヘントスルニハ先ツ債主ヨリ負債ヲ辨濟スヘキ旨ノ要決書ヲ送ルヘキモノトス
但シ其要決書ハ通常ノ負債ニ付テハ負債主(本人又ハ其住所)ニ之ヲ差送ルヘク先取特權
附ノ負債ニ付テハ船長ニ之ヲ差送ルヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ負債主ハ船ニシテ船長

ハ其船ノ代人タルヲ以テナリ〔商法典第百九十八條及ヒ第百九十九條〕

差押ハ執行令文ニ依ルニ非サレハ爲シ能ハサル所ノ要決書差送後二十四時ニ實行ス可ク
執行吏ハ第二白條ニ記シタル項目ヲ掲クル差押調書ヲ作り差押ヘタル船ノ管守人ヲ設ク
可シ

差押調書ノ寫書ハ之ヲ所有者ニ差送り召喚狀ハ差押地ノ民事裁判所ニ於テ交付ス然レモ若
シ船ノ所有者裁判所所在地ノ郡區内ニ住セサル時ハ送達狀及ヒ召喚狀ハ之ヲ船長自身ニ交
付ス船長不在ノ場合ニ於テハ所有者ノ名代人又ハ船長ノ名代人ニ交付ス可シ〔商法典第二
百一一條及ヒ第百四條〕

二 船舶賣拂ニ關スル諸法式

船舶賣拂ノ諸法式ハ船舶ノ噸數ニ從テ差異アリ
故ニ差押ノ目的物十噸以上ノ船ナルモ其賣拂ハ先ツ八日ヲ隔テ二次賣拂ノ宣揚及ヒ新聞
紙上ニ廣告ヲナシ後掛リ裁判官ノ面前ニ於テ糶賣スヘシ〔商法典第百二條、第百三條、第
二百四條、第百五條及ヒ第百六條〕
又差押ノ目的物ハルク〔船名〕シヤルウープ〔船名〕及ヒ其他十噸積若クハ十噸積以下ノ船ア
ルモ其糶賣ハ先ツ其旨ヲ三日間波戶場ニ公告シ且帆檣若シクハ他ノ見易キ場所ニ揭示シタ

ル後認延ニ於テナスヘシ但シ船差押ノ日ト賣拂日トノ間滿八日ノ猶豫アル可シ〔商法典第
二百七條〕

○若シ差押物件義務者以外ノ人ニ屬スルキハ所有者タル第三者ハ糶賣前ニ書記局ニ其旨ヲ
申出テ物件ト船トヲ分離スヘキ訴ヲ爲ス可シ否ヲサレハ其物品ノ取戻ヲナスノ權利ヲ失ヒ
唯其糶賣代金ヲ得ント請求スル權アルノミ此分離ノ訴ハ至急吟味ノ手續ニ從フ可キモノナ
リ〔商法典第二百十條及ヒ第二百十一條〕

○糶買ノ代金ハ二十四時間内賣主ニ仕拂ヒ又ハ商事裁判所ノ書記局ニ之ヲ預ク可シ〔商法
典第二百九條〕實際ニ於テハ直ニ賣主ニ其代金ヲ拂ハスシテ多クハ書記局ニ之ヲ預ケ置ク
モノトス何トナレハ船舶ヲ引當トシタル債主ハ糶賣アリシ日ヨリ三日内ニ糶買代金ノ仕拂
ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得可キヲ以テ廿四時間内ニ其代金ヲ賣主ニ仕拂フコトハ買主ニ安全
ヲ得セシメサレハナリ〔商法典第二百十二條〕船ヲ糶買シタル者二十四時間内ニ其代金ヲ賣
主ニ拂ハス又ハ書記局ニ之ヲ預ケサル時ハ更ニ一回ノ公告及ヒ揭示ノ手續ヲ爲シ其日ヨリ
三日ノ後ニ再糶賣ヲナスヘシ但シ糶賣ノ時其最高價ノ附直段以前ノ附直段ヨリ減少シタル
時ハ以前ノ糶買者ハ其直段ノ不足ヲ償ヒ且再糶賣ニ付キ要シタル諸費用並ニ其損失ヲ償フ
可シ〔商法典第二百九條〕

○糶賣ノ後其代金上ニ權利ヲ有スルトナス債主ハ前文ニ述ヘタル如ク代金ノ仕拂後三日故
障ヲ爲スヘシ若シ三日ノ期限經過スルキハ故障ハ之ヲ許サ、ルモノトス〔商法典第二百十
二條〕又故障申立人ハ他ノ又債主ハ差押ヲ受ケタル債主ヨリ要求ヲ受ケタル日ヨリ三日
内ニ其債主權ノ證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ若シ三日内ニ其證書ヲ差出サ、ル時ハ
其訴ヲ爲シタル債主ヲ加入セシメスシテ他ノ債主間ニ代金ヲ分配ス〔商法典第二百十二條〕
若シ債主中其賣拂フタル船ニ付キ先取物權ヲ有スルモノナク又新法ヲ以テ船ヲ書入質ニ爲
スコトヲ許シタル以來其船ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル者ナキニ於テハ各債主ハ其債主權ノ割
合ニ應シ代金ヲ配分ス可シ但シ其配分ヲ受クヘキ各債主ハ其順序ニ從ヒ元金利息諸費用等
ノ償ヲ受クルコトヲ得可シ〔商法典第二百十四條〕

第三卷 船ノ所有者自第二百十六條至第二百二十條

本卷ニ於テ法典左ノ諸件ヲ規定ス

- 第一 船長ノ爲シタル所爲ニ付キ船ノ所有者ノ責任
- 第二 船長ノ解傭ヲナス所有者ノ權
- 第三 數多ノ共有者ノ利益
 - 一 船長ノ爲シタル所爲ニ付キ船ノ所有者ノ責任

法律ハ船ノ所有者タルノ資格ト船ノ艦装人タルノ分限トナ一身ニテ兼帶スルモノト徹セリ然レ此二個ノ資格ハ之ヲ分別スルヲ得可ク而シテ之ヲ混同セサレテ要ス例ヘハ船長ヲ解僱スルノ權ハ獨リ艦装人ニ屬シ船ノ所有者艦装人ヲ兼テタル時ニアラサレハ決シテ其權ヲ有スルヲナシ

船ノ所有者タル艦装人ハ總テ船長ノ所爲ニ民事上責任ヲ帶ヒ船舶又ハ航行ニ關シテ船長ノ他人ト取結ヒタル約務ハ之ヲ擔當ス可キモノトス然リ而シテ船ノ所有者兼艦装人ノ責任ハ民法典ニ定ムル所ノ家長又ハ任用者ハ其僕婢又ハ使役ヲ受クル者其任ヲ受ケタル事件ニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ償ハサル可カラスト云フ責任ト殆ト同一ナリ(民法典第三百八十四條)然レ此商法典ニ定ムル船ノ所有者タル艦装人ノ責任ト民法典ニ定ムル家長又ハ任用者ノ責任トハ少シク差異アリ則チ家長及ヒ任用者ハ其僕婢又ハ使役ヲ受クル者ノ所爲ニ付テハ到底其責ヲ免カル、ヲ得スト雖モ所有者兼艦装人ハ其船ト船賃トヲ拋棄スルニ於テハ何時ニテモ其責ヲ免カル、ヲ得可キト是レナリ(原註)船ノ所有者兼艦装人其船及ヒ船賃ヲ拋棄スルニ於テハ總テ其責任ヲ免カル、ヲ得ルノ權能ハ恰モ羅馬法ニ於テ奴隸ノ主人又ハ物件ノ所有者ハ其奴隸又ハ物件ノ人ニ損害ヲ加ヘタル時奴隸又ハ物件ヲ拋棄シテ其責任ヲ免カル、ノ權能アリシト同一ナリ

原ト船ノ所有者兼艦装人其船ト船賃トヲ拋棄シテ其責任ヲ免カル、ノ權能ハ船長ノ爲シタル所爲即チ船長ノ犯罪及ヒ准犯罪ニノミ之ヲ適用シ船長ノ他人ト取結ヒタル契約ヨリ生スル義務ニ付テハ之ヲ適用スルヲ得サリシカ千八百四十一年六月十四日ノ法律ヲ以テ商法典第二百十六條ヲ改正シ爾來船長ノ爲シタル契約ヨリ生スル約務ニ就テモ船ト船賃トヲ拋棄シテ其責任ヲ免カル、ノ權能ヲ許可スルニ至レリ

義務相殺ノ名義ヲ以テ通常債主ノ船舶上ニ追取ノ權ヲ有スルモノハ全ク此拋棄ノ權能アルニ由レリ(商法典第九十條第二項)抑モ船舶ハ人類ト同視スルヲ以テ義務者ハ獨リ船舶ナリ

例外トシテ船長ニシテ船ノ所有者ヲ兼ヌルカ又ハ其共有者ヲ兼ヌル者ハ其船ト船賃トヲ拋棄シテ其責任ヲ免カル、ヲ得ス何トナレハ船長ハ自己ノ爲シタル所爲ニ付テハ到底責任ヲ免カル、ヲ能ハサレハナリ然レモ若シ船長船ノ所有者ニアラスシテ單ニ共有者タルキハ船ニ付テ其有スル利益ノ割合ニ應シ其義務ノ負擔ヲ減スルヲ得可シ(商法典第二百十九條)(原註)千八百七十五年ノ初メニ起草シタル商法典第二篇ノ諸條ノ改正案ハ港内ニ於テ船ノ覆没シタル場合ニ於テモ亦船ノ所有者兼艦装人ハ其船ト船賃トヲ拋棄シテ以テ船ノ覆没ニ付キ國家ノ費シタル費用又ハ其港ニ蒙ラシメタル損害ノ償ヲ免カル、ヲ得可シトナ

シ而シテ又船ノ所有者タル船長及ヒ共有者タル船長ト雖ヒ船長ノ過失ニ依テ船ノ覆没ヲ來シタル場合ヲ除キ同一ノ權能ヲ許與セントナセリ）
船長ノ所爲中ニハ其撰任シタル乗組員ノ所爲ヲ包含ス可キモノトス（商法典第二百三十三條）

船ノ所有者艦裝人ニ非サル時ハ何人ニ於テ船長ノ爲シタル所爲ニ付キ其責任ヲ負ヘキヤ輿論ニ據レハ艦裝人獨リ責任ヲ負フヘキモノトセリ然レハ艦裝人ハ船賃ヲ拋棄スルヲ得ルノミナラス又第三者ノ引當トナリタル船ヲモ拋棄スルヲ得可シ但シ艦裝人船ヲ拋棄シタルニ付キ拋棄ヨリ生スル所ノ損害賠償ヲ船ノ所有者ヨリ艦裝人ニ對シテ要ムルノ訴ヲ爲スハ格別ナリトス（原註競走ノ爲メ船ノ軍備ナシタル場合ヲ規定シタル所ノ商法典第二百十七條ハ船ノ所有者ノ競走ノ爲メ船ヲ軍備スルニ付キ差出シタル保證金ノ高ニ至ル迄ノ外ハ其乗組員ノ爲シタル犯罪及ヒ准犯罪ニ付テ其責任ヲ負モノニ非ストナセリ然レハ東洋諸國ト戰鬪ノ際巴里府ノ媾和條約中ニ競走ハ之ヲ廢ストノ項ヲ千八百五十六年四月十六日ノ法律ヲ以テ加タルカ故ニ同上ノ成規ハ今日ニ在テハ業已ニ徒法ニ屬セリ）

二 船長ヲ解備スル船ノ所有者ノ權利

船ノ所有者寧ロ艦裝人ハ船長ヲ解備スルヲ得而シテ船ノ所有者兼艦裝ハ書面ヲ以テ別段ノ契約ヲ爲シ置キタルニアラサレハ解備スルニ付キ船長ニ賠償ヲ爲スニ及ハス（商法典第二百十八條）然レハ解備セラレタル船長ハ船ノ共有者タリシ時ハ其船ノ共有權ヲ拋棄シテ其代金ノ償還ヲ他ノ所有者ニ要ムルヲ得可シ但シ其代金ハ所有者兼艦裝人ト舊船長即チ共有者トノ協議ノ上任シタル評價人又ハ裁判所ヨリ命シタル評價人ヲシテ之ヲ評價セシム可シ夫レ斯ノ如ク船長ニ其共有權ヲ棄テ、其代金ヲ得セシムル所以ハ法律ハ舊船長ヲシテ其船長ヲ信用セサリシ者ト共ニ強テ利益ヲ共ニセシムルヲ欲セサルニ在リ（商法典第二百十九條）

三 船ノ共有

船ハ數名ノ所有者ニ屬スルヲ得可シ而シテ其數名ノ所有者ノ船ニ於テノ所有權ノ部分ヲ名ケテ「キラ」ト云ヒ又ハ「ポルシヨ」ト云ヒ（部分ノ義）又其所有者ヲ名ケテ「キラテール」ト云ヒ又ハ「ポルシヨ」ト云フ（部分ヲ所有者ノ意）（原註千七百九十三年ノ法制ニ據レハ總テ外國人ハ其全部ト一部トヲ問ハス佛蘭西國所屬船ノ所有者タルヲ得ストナセリ然ルニ千八百四十五年六月九日ノ法律ハ佛蘭西人ニ於テ半部以上ヲ所有スル佛蘭西船ハ外國人ニ於テ所有スルヲ許セリ）
通常船ノ所有權ヲ二十四部ニ別ツモノトス

故ニ若シ數名ニテ一船ヲ共有スル時ハ法律ハ其所有者一般ノ利益ニ關スル處分ハ總テ所有者ノ多數決ニ因テ定ムルヲ欲セリ

第十一問 然レモ法律ハ亦海上貿易ノ利益ニ於テ普通法ノ變則タル數多ノ規則ヲ設ケリ左ニ其規則ヲ掲ク可シ

第一 議事ニ於テノ多數ハ人員ノ多數ニ因ラスシテ船價ノ半額以上ヲ表スル利益ノ部分ニ因ル可シ〔商法典第二百二十條第一項及第二項〕

第二 何人タリトモ共有ヲ耐受スルノ義務ナシト云フノ原則ニ反シ〔民法典第八百十五條及ヒ第一千六百八十六條〕船ヲ羅賣シ以テ共有ヲ解止セントスルニハ船價ノ半額以上ニ充ツヘキ船ノ所有主數人ヨリ申立ル時ニアラサレハ之ヲ許サス但シ書面ニ因ル反對ノ契約アル場合ハ此限ニアラス〔商法典第二百二十條第三項〕

第三 千八百七十四年十二月十日ノ法律ニ據レハ船ノ一部ノ書入質ヲ受ケタル債主ハ其受ケタル一部ニアラサレハ差押ヘ賣拂ヲサシムルヲ得スト雖モ若シ船ノ半部以上ノ書入質ヲ受ケタル債主ハ船ノ全部ヲ差押ヘ之ヲ賣拂ハシムルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ船ノ共有者ヲ立會ハシムルノ條件ニ於テス可シ〔民法典第二百二十五條〕

第四 千八百七十四年十二月十日ノ法律ニ據レハ共有物ヲ分派シ又ハ分派シ得サル物品ヲ羅賣シテ其代金ヲ分派シタルヨリ生スル所ノ効ニ關スル民法典第八百八十三條ノ變例トシテ遺物相續又ハ夫婦財產共通解除ヨリ生スル場合ヲ除クノ外總テ共有ノ場合ニ於テ未タ共有ヲ解除セサル前ニ在テ船ノ共有者ノ一名又ハ數名ヨリ船ノ一部ヲ書入質ト爲シタル時ハ其共有ヲ解除シ共有物ヲ分派シ又ハ之ヲ羅賣シテ其代金ヲ分派スルモ其書入質ハ依然トシテ存在スル者トス然レモ商法典第二百一條以下ノ規則ニ從ヒ裁判所ニ於テ共有物ヲ賣拂フタル時ハ船ノ一部ニ付キ書入質ノ權ヲ有スル債主ハ其書入質トシテ得タル船ノ一部ヲ賣拂フタル代金ヲ得ルノ權利アルノミ〔千八百七十四年十二月十日ノ法律第十八條〕

第四卷 船長(自第二百二十一條至第二百四十九條)
船長トハ船ヲ指揮シ及ヒ之ヲ支配スル者ヲ云ヒ沿岸航海ヲ爲ス所ノ小船ヲ指揮スル者ハ特ニ之ヲ名ケテ「メートル」又ハ「バトロ」〔共ニ船長ノ義ト云フ〕〔原註〕船長トハ羅馬ニ所謂「マシステル、ナヴ、ヒース」(船頭ノ義)ナルモノナリ時トシテハ船長ノ外ニ積荷ヲ監査シ船賃ヲ請取り及ヒ船ノ諸費用ヲ司トルノ任アル「シユペルカク」又「シユブレカルク」ヲ置クヲアリ而シテ之ヲ撰任スルノ權ハ荷主ニ屬シ荷主ノ特定名代人ナリ

船長ノ免狀ヲ得タル者又ハ海軍大臣ヨリ船長タルヲ免許シタル者ノ内ニ於テ船長ヲ撰任スルノ權ハ船ノ所有者タル艤裝人又ハ其所有者ニアラサル艤裝人ニ屬セリ

給料ヲ受ケテ船ヲ指揮スル名代人即チ船長ノ責任ハ至テ重シ故ニ其職務ヲ行フニ當リテハ輕過失ト雖モ必ス其責ニ任スヘキモノトス〔商法典第二百二十一條〕

船長商品ヲ請取リタル時ハ之カ負擔ヲナサ、ルベカラス故ニ其商品ヲ請取リシ證トシテ積荷目録ト稱スル認知書ヲ荷主ニ差出ス可シ〔商法典第二百二十二條〕而シテ船長ノ責任ハ抗拒ス可ラサル場合ノ爲メ損害ヲ受ケタルノ證ヲ舉グルニアラザレバ決シテ免カル、トナシ〔商法典第二百三十條〕

艤裝人ノ船長ヲ解備スル權アル所以ハ船長ハ艤裝人ノ財産ト船客ノ生命トヲ併セテ依託セラル、信用上ノ職務ヲ荷フニ在ルナリ

○船長ノ權利及ヒ義務
船長ノ權利及ヒ義務ハ船ノ出帆前ト航海中ト着船後トニ從テ各々差異アリ因テ其各場合ニ就テ之ヲ研究スベシ

一 出帆前船長ノ行フ可キ義務
船長ハ船ノ出帆前ニ水夫及ヒ其他ノ乗組員ヲ撰定シ之ヲ雇入レ乗組員ヲ作ルノ權利アリ但

シ其船ノ所有主ノ住居地ニ於テ之ヲ行フ時ハ所有者ト協議ヲ遂ケサル可カラス〔商法典第二百二十三條〕

第十二回 船長ハ荷物ヲ船ニ積入ル、前掛リ官吏ヲシテ其船ノ航海ニ堪ユルヤ否ヲ検査セシメ其調書ヲ商事裁判所ノ書記局ニ納メ調書ノ拔書ヲ請取リ〔商法典第二百二十五條〕且ツ左ニ記列スル處ノ書類ヲ船中ニ備ヘ置クノ義務アリ〔商法典第二百二十六條〕

第一 船ノ所有權ノ證書即チ船ノ構造又ハ讓受ヲ証スル證書
第二 稅關ヨリ下付スル所ノ佛蘭西船タルヲ証スル證書〔原註商船ニ關スル千八百六十六年五月十九日ノ法律ニ據レハ假令ヒ佛蘭西國ニ於テ構造セサル船ト雖モ一噸ニ付二法ノ稅ヲ拂フテ之ヲ佛蘭西船ト爲スヲ許セリ此稅ハ千八百七十二年ニ至リ更ニ増加シタリ〕

第三 乗組員ノ帳簿即チ船乗組人員ヲ証スル證書
第四 積荷目録即チ船ニ積入レタル商品ノ認定書
第五 船ノ借入證書
第六 船体ノ臨檢調書
第七 納稅証又ハ保證金ノ請取書〔原註〕或ル商品ニ付テハ出港稅ヲ賦課セリ但シ其稅額

ハ商品ヲ佛蘭西國中ノ此港ヨリ彼ノ港ニ運漕スル時ハ外國へ運漕スルニ比スレハ少額ナリトス故ニ商品ヲ佛蘭西國內ノ此港ヨリ彼港ニ運漕スヘキ旨ヲ官署ニ届出テ竊ニ之ヲ外國ニ運漕スルコトアルヲ以テ此詐欺ヲ防カシカ爲メ運送人ヲシテ外國へ輸出セサルノ保證金ヲ豫メ官署ニ納メシメ税關ヨリ其請取書ヲ運送人ニ下付ス而シテ此請取書ヲ名ケテ保證金ノ完納ニ付キ税關ヨリ渡ス証書即チ「アキヤードー、コウシヨント云フ」

第八 積荷明細書

第九 健康証書即チ船出帆スル地方ニ惡疫等アラサルコト及ヒ乗客並ニ乗組員ノ健康ナルコトヲ証明スル証書

第十 税關ヨリ下付スル船ノ通行券

以上數個ノ書類ノ外ニ尙ホ船長ハ航海中ニ爲シタル決定、船ニ付テノ收入又ハ支出及其他總テ船ノ積荷ニ關スル諸件或ハ計算ヲ爲シ又ハ訴訟ヲ起シ得ヘキ諸件ヲ記載スル帳簿ヲ設備スルノ義アリ此帳簿ハ日用帳簿ノ一種ニシテ之ヲ稱シテ航海日誌ト云フ〔商法典第二百二十四條及ヒ第二百二十八條〕

○遠洋航海〔按遠洋航海トハ南方ハ北緯三十度北方ハ北緯七十二度西方ハ巴里府ノ子午線

ヨリ西經十五度東方ハ東經四十四度ノ限域外ニ出ル航海ヲ云フ〔商法典第二百七十條參觀〕ノ場合ニ於テハ船長ハ豫メ送遣者ノ承諾書ヲ得ルニアラサレハ甲版上ニ荷物ヲ積ムコトヲ得ス何トナレハ荷物ヲ甲版上ニ積ム時ハ雨露又ハ海水等ノ爲メ必ス其積物ニ多少ノ損害ヲ蒙ラシムルヲ以テナリ〔商法典第二百二十九條〕

○船長ハ豫メ艙裝人ノ承諾ヲ得テ相當ノ艙賃ヲ拂フニアラサレハ自己ノ計算ノ爲メ船中ニ他ノ商品ヲ積入ル、コトヲ得ス但シ船長ト艙裝人ト別段ノ契約アル場合ハ此限ニアラス〔商法典第二百五十一條〕

○船長ハ船ノ所有者又ハ所有者ノ代權人ノ住所ノ地ニ於テ船ノ修理ヲナシ又ハ帆布、綱具及ヒ其他船ニ必要ナル諸物品ヲ買入レ又ハ其買入ヲ爲スカ爲メ船ヲ引當トシテ金額ヲ借入レ又ハ船ノ賃賃ヲナサントスルニハ豫メ船ノ所有者又ハ所有者ノ代權人ノ承諾ヲ得サルヘカラス〔商法典第二百三十一條〕然レモ船ノ所有者數名アリテ其所有者全體ノ承諾ノ上船ヲ賃賃シタル時ニシテ其所有者中ニ船ノ艙裝ニ必要ナル費用ノ出金ヲ肯セサル者アル時ハ船長ハ其者ニ費用ヲ出ス可キ要メヲ爲シタル日ヨリ二十四時間ヲ經裁判官ノ允許ヲ得テ其者ノ所有スル船ノ部分ヲ書入質ト爲シ以テ金額ヲ借入ル、コトヲ得可シ〔千八百七十四年十二月十日ノ法律ヲ以テ改正シタル商法典第二百三十三條〕

二 航海中船長ノ行フ可キ義務

船長航海中ハ成ルヘク船中ヲ離ル可ラス特ニ船ノ港灣又ハ河川ヲ出入スルキハ必ス自カラ船中ニ在テ船ヲ指揮セサル可ラス若シ船長其義務ニ背キ船及ヒ積荷ニ損害ヲ加ヘタル時ハ其責ニ任ス可シ〔商法典第二百二十七條及ヒ第二百二十八條〕

航海中ノ船修理又ハ飲食料ノ買入等ニ必要アル時ハ船長ハ相當ノ法式ヲ履ミ船及ヒ其船具ヲ引當ト爲シ〔原註船ノ所有者ハ其船及ヒ船賃ヲ拋棄スルニ於テハ總テ其義務ヲ免カル、ノ權能アリ故ニ貸主ハ普通ノ方法ニ依テ金額ヲ貸與スルヲ欲セスシテ積荷ヲ引當トシテ金額ヲ貸與スルヲ欲スルモノナリ何トナレハ貸主ニ於テ船及ヒ積荷ヲ引當トシテ金額ヲ貸與シタル時ハ決シテ損害ヲ蒙ルヲナシト雖モ若シ普通ノ方法ニ依テ金額ヲ貸與シ借主ニ於テ船及ヒ船賃ヲ拋棄スル時ハ大ニ損害ヲ蒙レハナリ〕或ハ其積荷ヲ質入シテ金額ヲ借入レ或ハ之ヲ賣拂フテ以テ其必要ナル丈ケノ金額ヲ入手スルヲ得可シ但シ船長ハ荷揚ノ地ニ到着シタル後其地ノ相場ニ從ヒ航海中ニ賣拂フタル荷物ノ代價ヲ償フハ此限ニアラス然レモ若シ荷主一致シテ途中ニ於テ其荷物ヲ船ヨリ揚ケ其荷物ヲ賣拂ヒ又ハ之ヲ質入スルヲ拒ムヲ得可シト雖モ荷主一致セサル時ニ於テ荷ヲ揚ケントスル荷主ハ自己ノ荷物ノ運賃ノ總高ヲ拂フ可シ〔商法典第二百二十四條、第二百三十六條及第二百九十八條〕

航海中船中ノ飲食料缺乏シタルニ際シ船中ニ飲食料ヲ所持スル者アル時ハ船長ハ乗組人中ノ重立タル者ノ意見ヲ聽キ其所持人ヲシテ強テ公衆ノ用ニ供セシムルヲ得可シ但シ船長飲食料ノ所持人ニ其代金ヲ辨償スルハ此限ニアラス〔商法典第二百四十九條〕

船長遠洋航海ヲ爲シ本國ニ歸港セントスル時ハ積荷ノ摸樣、商品ノ價額及ヒ借入レタル金高等ヲ艤裝人ニ告知セサル可ラス故ニ船長ハ外國港又ハ佛蘭西藩屬地ヲ出帆シテ歸港スルニ前テ以上ノ事件ヲ記載シテ其姓名ヲ自署シタル書面ヲ船ノ所有者又ハ其代權人ニ差送ル可シ〔商法典第二百三十五條〕

船ノ航海ニ堪ヘサルヲ法律上認メタル場合ノ外ハ船長ハ船ノ所有者ノ承諾ナクシテ船ヲ賣拂フヲ得ス縱令ヒ其賣拂ヲナストモ賣拂ハ無効タル可シ〔商法典第二百三十七條〕

航海ノ爲メ雇入ヲ受ケタル船長ハ必ス其航海ヲ遂ケサル可カラス若シ船長之ヲ遂ケスシテ船ノ所有者及ヒ荷主ノ爲メ費用ノ損失等ヲ加ヘタルトキハ之カ賠償ヲ爲ス可シ〔商法典第二百三十八條〕

若シ船長積荷ニ付キ得可キ利益ヲ配分ス可キ契約ニテ航海ヲ爲シタル時ハ自己一人ノ利益ノ爲メ其積荷ヲ賣拂フ可カラス但シ反對契約アル場合ハ格別ナリトス若シ反對契約ナクシテ船長自己一人ノ利益ノ爲メ積荷ヲ賣拂ヒ或ハ賣拂ハントシタル時ハ其違約ノ價トシテ船

長所屬ノ荷物ヲ他ノ荷主ニ與フ可シ(商法典第二百二十九條及ヒ第二百四十條)

船長ハ航海中如何ナル危難ニ遭遇スト雖モ官吏及ヒ乗組人ノ重立タル者ノ意見ヲ聽キタル上ニアラサレハ其船ヲ棄去ルヘカラス若シ此等ノ者ノ承諾ヲ得テ船長其船ヲ棄去ル時ハ船中ノ貨幣及ヒ貴重ナル商品ハ必ス之ヲ船ヨリ救出サ、ルヘカラス若シ船長一人身ヲ脱シテ危難ヲ免レ貨幣及ヒ商品ヲ救助セザリシ時ハ其賠償ヲナサ、ル可カラス但シ一旦船ヨリ救出シタルモ其貨幣及ヒ商品意外ノ變災ニ因テ滅盡シタル時ハ其責ニ任スルニ及ハス(商法典第二百四十一條)

○航海中己ムヲ得スシテ佛國ノ港灣又ハ外國ノ港灣ニ繫泊スルコトアル時ハ船長ハ其繫泊ノ原因ヲ佛國ニ於テハ商事裁判所商事裁判所ナキ地ハ治安裁判所ニ申述シ外國ニ在テハ佛蘭西領事官、領事官ナキ地ハ其地ノ官吏ニ之ヲ申述ス可シ(商法典第二百四十五條)
若シ外國ノ港灣ニ着船シタル時ハ船長ハ其到着ノ報告書ヲ佛蘭西領事ニ差出シテ到着出帆ノ期日並ニ積荷ノ摸樣及ヒ種類ヲ檢證シタル證書ヲ受取ル可シ(商法典第二百四十四條)
破船ノ場合ニ於テハ船長ハ自ラ其地ノ裁判官若シ其地ニ裁判官ナキ時ハ其他ノ官憲ニ破船ノ報告ヲナシ且自己ト共ニ存命シタル乗組人其地ニ在ル時ハ其者ヲ其報告ヲ證明セシメ其賸本ヲ取り置ク可シ(商法典第二百四十六條)○又裁判官ハ右報告ノ調査ヲナス爲メ乗組

人ヲ訊問シ乗客アルキハ亦之ニ訊問ヲナス但シ其他ニ證據トナルヘキモノアルキハ之ヲ取調フルコト抵觸スルコトナカルヘシ(商法典第二百四十七條)

調査ヲ經サル報告書ハ船長ノ利益ノ證トスルコト許サス及ヒ裁判所ニ於テ信證トナラス但シ其報告ヲ爲シタル地ニ船長ノミアルキハ此限ニアラス又何レノ場合ニ於テモ關係人ハ申立書ニ對シ反對ノ證ヲ舉グルコト得可シ(商法典第二百四十七條)(原註)船長ハ航海中司法警察官ノ職務、身分證書官吏ノ職務及ヒ公證人ノ職務ヲ行フモノトス即チ司法警察官トシテハ若シ船中犯罪人アル時ハ船長其調書ヲ作り追テ其犯罪人ヲ裁判所ニ引渡ス迄之ヲ取押ヘ置クコト又身分證書官吏トシテハ船中ニ出產若クハ死去アル時ハ其出產證書又ハ死亡證書ヲ作ルコト(民法典第五十九條及ヒ第八十六條)又公證人トシテハ船中ニテ贈遺ヲ爲ス者アル時ハ船ノ書記ト共ニ贈遺書ヲ作ルコト是ナリ(民法典第九百八十八條)

三 着船後船長ノ行フ可キ義務

船長ハ船ノ着港後二十四時間内ニ掛リ官吏ヲシテ其航海日誌ニ檢印セシメ且着港シタルニ付テノ報告ヲナス可シ(商法典第二百四十二條)

右ノ報告書ニハ船ノ出帆シタル場所、時日、船路、船ノ危難ニ遭ヒシコト、變亂アリシコト及ヒ其他航海中著ルシキ一切ノ模様ヲ記載シ之ヲ商事裁判所長ニ差出スヘシ商事裁判所ナキ地ニ於

テハ治安裁判所ニ之ヲ差出シ治安裁判官ヨリ速ニ之ヲ最寄ノ商事裁判所長ニ送附セシム可
シ但シ何レノ場合ニ於テモ其報告書ハ之ヲ商事裁判所ノ書記局ニ藏ム可シ〔商法典第二百
四十三條〕

危急ノ場合ヲ除クノ外船長ハ着船ノ報告書ヲ差出ス前船ヨリ積荷ノ陸揚ヲナス可カラズ若
シ船長擅ニ荷揚ヲ爲シタル時ハ非常告訴ヲ受ク可キモノトス〔商法典第二百四十八條〕

第五卷 水夫及ヒ乗組人雇入及ヒ其雇賃〔自第二百五十條至第二百七十二條〕

水夫及ヒ其他乗組人ノ雇入ハ必ス契約書ヲ以テス此雇入契約ニ依リ水夫並ニ乗組人ハ船長
ヨリ雇賃ヲ得テ使役ヲ受ク可キモノナリ

第一節 雇入契約書ノ體裁及ヒ條件

第十三間 水夫雇入契約ハ千六百八十一年ノ勅令ニ從ヒ必ス書面ヲ以テスルヲ要ス又船長及ヒ乗組人
雇入ノ契約ハ乗組人帳簿ニ記載スルヲ以テ常例トナスト雖モ亦他ノ書面ニ依テ之ヲ證スル
モ妨ナカル可シ〔商法典第二百五十條〕〔原註〕商法典ニ於テハ水夫ノ雇入ヲ證スルニ書面ヲ
要スルトノ明文ナカリシヲ以テ當時學者ハ證人其他ノ方法ヲ以テ之ヲ證スルヲ得可キ者ナ
リト論定セリ然レモ水夫ハ艤裝帳ヲ以テ其特權アルヲ證スルニアラサレハ之ヲ行フヲ得
得ス〔商法典第九十二條第四項〕

水夫ハ左ノ方法ニ因テ之ヲ雇入ル、ヲ得ヘシ

第一 一航海若干ノ金額ヲ以テ航海中ノ雇入

第二 航海中毎月俸若干ノ割ニテ限月ノ雇入〔原註〕水夫ヲ雇入ル、ニハ實際多クハ月雇
ノ方法ヲ以テス

第三 利益ノ一部分ヲ配當スル約束ニテノ雇入〔此雇入ノ方法ハ漁獵ニ付テ用フルノ最モ
多シ〕

第四 商品ノ運送ニ付キ送遣人ヨリ仕拂フ可キ船賃ノ一部ヲ給與スル約束ニテ雇入

以上第一項第二項ノ場合ニ於テハ水夫雇入契約ハ眞ノ貸賃契約ナリ何トナレハ水夫ニ於テ
其勞力ヲ貸賃スレハナリ

第三項第四項ノ場合ニ在テハ水夫雇入契約ハ會社契約ノ性質ヲ帶フ何トナレハ水夫ハ社員
ト同シク利益ノ配分ヲ受クルノ權利アレハナリ

第十四間 船並ニ船賃ハ水夫ノ其雇賃ヲ得ルニ付テノ引當タル可シ〔商法典第二百七十一條〕而シテ其
他水夫ノ雇賃ハ「コムミセル、デー、クラー、ス、」ノ承諾ニ依テ供給シタル雇賃又ハ食物及ヒ
衣類ノ爲メニアラサレハ之ヲ差押ユルヲ得ス

第二節 水夫雇入契約ノ不執行又ハ變更ノ原因

水夫雇入契約ハ種々ノ原因ニ基キ其全部又ハ一部ヲ其契約ノ如ク執行セス又ハ之ヲ變更スルヲアリ而シテ不執行又ハ變更ノ原因ニ三種アリ曰水夫ノ所爲曰雇主ノ所爲曰抗拒ス可ラサル力即チ是ナリ

一 水夫ノ所爲ニ因ル契約ノ不執行

正當ノ原因例ヘハ水夫ノ頑僻ナルカ又ハ其業ニ未熟ナルニ因リ到底之ヲ使用スルヲ能ハサル時ハ出帆ノ前後ヲ問ハス何時ニテモ船長ハ之カ解雇ヲナスヲ得可シ而シテ船ノ出帆前水夫ヲ解雇シタル時ハ船ヲ艤裝スル爲メ使役シタル時間ノ賃銀ノミヲ與ヘ又若シ航海中ニ解雇シタル時ハ之ヲ使役シタル時間ノ雇賃ノミヲ給與ス可シ但シ其歸路ノ旅費ハ之ヲ給與スルニ及ハス〔商法典第二百六十四條〕

二 船ノ所有者船長又ハ荷主ノ所爲ニ因ル契約ノ不執行

船ノ所有者船長又ハ荷主ノ所有ニ因リ水夫雇入契約ヲ執行セサルヲハ或ハ航海ヲ止メタルヲ或ハ正當ノ原因ナクシテ水夫ヲ解雇シタルヲ或ハ航海ノ日數ヲ延展シ又ハ之ヲ短縮シタルヲ等ニ因テ生ス可シ

○航海ノ停止

船ノ所有者船長又ハ荷主ノ所爲ヲ以テ船ノ未ダ出帆セサル前ニ其航海ヲ止メタル時ハ航

海中雇入契約ヲ爲シタルト月ノ雇契約ヲ爲シタルトヲ問ハス水夫ハ其船ノ艤裝ニ付キ使役ヲ受ケタル日數ニ準シテ其雇賃ヲ受取ルヲ得可ク若シ又水夫其雇賃ノ一部ヲ前拂トシテ受取リタル時ハ償トシテ之ヲ保有スルヲ得可ク未ダ之ヲ受取ラサル時ハ賠償トシテ一月分ノ備賃ヲ受取ルヲ得可シ既ニ船ノ出帆シタル後其航海ヲ止メタル時ハ航海中雇入ノ契約ヲ爲シタル水夫ハ雇賃ノ全部ヲ受取ルヲ得可ク又月雇ノ契約ヲ以テ雇入ヲ受ケタル水夫ハ既ニ使役ヲ受ケタル時間ノ雇賃ト其航海ヲ爲スニ付テノ見積リ日數ノ内其航海ヲ止メタルヨリ後ノ時間ノ雇賃ノ半額ヲ償トシテ受取ルヲ得可シ但シ船ノ出帆シタル後航海ヲ止メタル場合ニ於テハ水夫ハ航海中雇入ヲ受ケタルト月極メヲ以テ雇入ヲ受ケタルトヲ問ハス前ニ記シタル賠償ノ外更ニ其航海ヲ止メタル地方ヨリ出帆ノ港ニ至ル迄ノ旅費ヲ請求スルヲ得可シ然レモ船長船ノ所有者又ハ荷主ヨリ其水夫ヲ出帆シタル港ニ到ル可キ他ノ船ニ乗組マシメタル時ハ別ニ歸國旅費ヲ給與スルニ及ハス〔商法典第二百五十二條〕〔原註千八百六十年四月七日ノ勅令ニ據レハ過失ナクシテ解雇セラレタル水夫ハ其雇入契約ノ何ナルヲ問ハス歸國スルニ付テノ扶助ヲ官府ニ仰クノ權アリ又千八百七十五年八月二十五日大審院ノ判決ニ據レハ若シ國庫ヨリ歸國旅費ヲ扶助シタル時ハ官府ヨリ船ノ艤裝人ニ對シ之カ償還ヲ求ムルヲ得可ク而シテ其費用ハ船ヲ艤裝シタル港ヲ出帆シタル日ヨリ以來得

タル所ノ船賃ヲ以テ之ヲ拂ハシムルヲ得可シ

四百五十

○正當ノ原因ナクシテナス水夫ノ解雇

乗組人帳簿ノ成就後ニ至リ正當ノ原因ナクシテ解雇セラレタル旨ヲ證スル水夫ハ船長ニ對シテ損害賠償ヲ要ムルノ權アリ但シ船長其水夫ニ償金ヲ與ヘタル時ハ更ニ船ノ所有者ニ對シ之ヲ要ムルヲ得ス而シテ其損害賠償ノ額ハ航海中解雇セラレシ時ト出帆前ニ解雇セラレシ時トニ隨テ差異アリ例ヘハ出帆前ニ解雇セラレシ水夫ハ雇賃ノ三分ノ一ヲ償トシテ請取ルヲ得可シト雖モ航海中ニ解雇セラレシ水夫ハ雇賃ノ全額ト歸國旅費トヲ併受スルヲ得可シ又如何ナル場合ニ於テモ船長ハ外國ニ於テハ水夫ヲ解雇スルヲ得ス〔商法典第二百七十條〕

○航海日數ノ延展又ハ其短縮

故意ニテ航海日數ヲ延展シタル時ハ航海中雇入ヲ受ケタル水夫ハ其延展日數ニ準シテ其雇賃ヲ増加セシムルヲ得可シ〔商法典第二百五十五條〕
船ノ借入證書ニ定メタル地方ニ到ラサル前途中ニ於テ船長故意ニテ荷揚ヲナシ以テ航海ノ日數ヲ短縮シタル時ト雖モ航海中雇入レタル水夫ノ雇賃ハ決シテ之カ爲メ減少スヘカラス〔商法典第二百五十六條〕

航海日數ヲ延展シタル場合ト之ヲ短縮シタル場合トヲ問ハス月雇ノ契約ニテ雇入ヲ受ケタル水夫ハ現ニ其使役ヲ受ケタル日數ニ準シテ其雇賃ヲ請取ルヲ得可シ

○利益ノ一部ヲ與フヘキ契約又ハ船賃ノ一部ヲ與フヘキ契約ニテ水夫ヲ雇入レタル場合ニ於テ若シ航海ヲ止メ若クハ其日數ヲ延展シタル時ハ其之ヲ止メ又ハ之ヲ延展シタル者荷主ノ所爲ニ出テタルカ或ハ船ノ所有者ノ所爲ニ出テタルカ若クハ船長ノ所爲ニ出テタルカ之ヲ區別セサル可カラズ

若シ荷主ノ所爲ニ依リ航海ヲ止メ或ハ其日數ヲ延展シタル時ハ乗組人ハ其得可キ利益高又ハ船賃高ニ至ルマテノ金額ヲ其損害賠償トシテ申請ルヲ得可シ但シ其損害賠償ハ荷主ノ擔當ス可キモノトス

若シ船ノ所有者又ハ船長ノ所爲ニ因リ航海ヲ止メ或ハ其日數ヲ延展シタル時ハ乗組人ハ船ノ所有者又ハ船長ニ對シテ其損害賠償ヲ請求スルヲ得可シ〔商法典第二百五十七條〕

三 抗拒ス可ラサル力ニ因リ水夫雇入契約ノ不執行

抗拒ス可ラサル力ニ三箇ノ場合アリ即チ第一船舶及ヒ水夫ニ關係ナキ場合第二船舶ニ直接ノ關係アル場合第三水夫ノ身体ニ關スル場合はナリ

第一 船舶及水夫ニ關セサル抗拒ス可ラサル力ノ場合

四百五十一

船舶及ヒ水夫ニ關係ナキ抗拒ス可ラサル力ニ二種アリ其一ハ商業禁止其二ハ官命ニ依ル出帆差止

商業ノ禁止トハ政府ヨリ令シテ自國船ヲ或ル港ニ趣カシメサルヲ及ヒ外國船ヲ佛蘭西國ノ港内ニ入ラシメサルヲ云フ而シテ此令ハ兩國間ノ交戦又ハ傳染病流行ノ際ニ發スルナリ官命ニ因ル出帆ノ差止トハ自國船ト外國船トヲ問ハス佛蘭西政府所屬ノ港内ニ在ル船ヲシテ其出港ヲ禁スルヲ云フ

政府ニ於テ船ノ出港ヲ差止ムル所以ノ者ハ即チ一國ノ公安ニ關スルヲ以テナリ何チ以テ一國ノ公安ニ關スト云フカ曰若シ自國ト外國ト戰争ノ際自國ノ港内ニ在ル船ヲシテ自由ニ出入セシムル時ハ或ハ自國ノ機密ヲ敵國ニ告クルノ恐レアリ又自國ノ港内ニ在ル船ヲ自國ノ使用ニ供スルノ便益アルヲ以テナリ此差止ハ時トシテハ洋中ニ浮フ船舶ニ行フヲアリ船ノ出帆前ニ其船ヲ差向ケントスル地方ト商業ヲ爲スノ禁令アル時又ハ其船ノ出帆ノ差止メアル時ハ其水夫ハ月雇ナルト航海中ノ雇入ナルトヲ問ハス其船ノ艤裝ニ付キ現ニ使役ヲ受ケタル日數丈ケノ賃銀ニアラサレハ之ヲ請取ルヲ得ス(商法典第二百五十三條)

第十六節

航海中商業禁止ノ令アル時ハ水夫ハ其現ニ使役ヲ受ケタル時間ニ準シテ其雇賃ヲ請取ルヲ得可ク又官命ニ因テ出帆ヲ差止ラレタル時ハ水夫月雇ナレハ其差止時間中ハ雇賃ノ半額

若シ航海中ノ雇入ナレハ其差止時間ノ長短ニ係ハラス其雇入契約ニ定メタル雇賃ヲ受取ルヲ得可シ(商法典第二百五十四條)

利益ノ一部ヲ得可キ契約又ハ船賃ノ一部ヲ得可キ契約ニテ雇入レラレタル水夫ハ抗拒スヘカラサル力ノ爲メ或ハ航海ヲ差止メラレ或ハ航海ノ日數ヲ延展シ或ハ之ヲ短縮シタル時ト雖其損害賠償並ニ賃銀ノ増加ヲ申受ルヲ得ス(商法典第二百五十七條第一項)何トナレハ水夫ハ荷主等ト共ニ利益ヲ分配センカ爲メ航海ヲ爲シタルモノナレハ社員ト異ナルヲナク隨テ荷主等ト共ニ損耗ヲ擔當セサル可カラサレハナリ

第二 船ニ直接ノ關係アル抗拒ス可ラサル力ノ場合

船ニ直接ノ關係アル抗拒ス可ラサル力トハ則チ敵軍ノ爲メニ船ヲ捕拿セラレタルト暗礁ニ觸レ破船シタルト(ブリ)及ヒ暴風雨等ニ因リ船ノ覆没シタルト等ノ類ヲ云フ

船並ニ積荷ノ安全ヲシテ水夫又ハ乗組人ニ益セシムル爲メ法律ハ以上諸種ノ場合ニ於テ船並ニ其積荷ノ全部ヲ失フタル時ハ水夫ハ其雇賃ヲ得ント要ムルヲ得ス然レハ其雇賃ノ内前拂トシテ既ニ請取り費消シタル金額ハ之ヲ返還スルニ及ハストナセリ(商法典第二百五十八條)

船ノ一部ヲ救助シ得タル時ハ水夫雇入契約ノ方法ニ因テ區別ヲナサ、ルヘカラス故ニ若シ

航海中又ハ月雇ノ契約コテ水夫ヲ雇入レタル時ハ水夫ハ船及ヒ積荷ノ現存スル部分コ付キ其雇賃ヲ受取ルコトヲ得可シ然レモ若シ其存スル部分ヲ以テ其雇賃ニ充テ猶ホ不足アルカ又ハ積荷ノミ存シ船ノ全部消滅シタルハ水夫ハ其雇賃ノ不足ヲ船賃ノ中ヨリ受取ルコトヲ得可シ〔商法典第二百五十九條〕若シ又船賃ノ一部ヲ與フ可キ契約ニテ水夫ヲ雇入レタルハ水夫ハ船長ノ受取ル可キ船賃ノ割合ヲ以テ船賃ノ内ヨリ其雇賃ヲ請取ルコトヲ得可シ〔商法典第二百六十條〕

右ノ如ク航海中ノ契約ニテ水夫ヲ雇入レタル場合及ヒ月雇ノ契約コテ之ヲ雇入レタル場合ハ法律ニ於テ既ニ規定シタリト雖モ獨リ積荷ヲ賣拂ヒ其利益ノ一部ヲ得可キ契約ニテ水夫ヲ雇入レタル場合ハ未タ之ヲ規定セス然レモ此場合ノ如キモ實際之ナシトセス因テ余輩ハ少ハラン氏ノ說ニ從ヒ若シ現存スル積荷ヲ賣拂ヒ利益ヲ得タル時ハ水夫ハ其利益ノ一部ヲ請取ルコトヲ得可キモノナリト決定セサルヘカラス

又水夫ハ其雇入契約ノ如何ト場合ノ如何トヲ問ハズ破壞シタル船舶並ニ覆没シタル積荷ヲ救助シタル時ハ其之ヲ救助シタルニ付テノ賃銀ヲ請取ルコトヲ得可シ何トナレハ水夫ハ其破壞シタル船舶及ヒ其覆没シタル積荷ヲ救助スルニハ幾分ノ費用ヲ要スレハナリ而シテ水夫ハ其救助シタル船舶及ヒ積荷ニ付テ其賃銀ヲ得ルノ先取特權アリトス〔商法典第二百六十條〕

一 條

第三 水夫ノ身体ニ關スル抗拒ス可ラサルカノ場合

水夫ノ身體ニ關シテ抗拒ス可ラサルカトハ即チ水夫ノ疾病水夫死亡及ヒ水夫ノ俘虜等是ナリ

○水夫ノ疾病

水夫船ノ出帆前疾病ニ罹リタル時ハ其雇賃ヲ受取ルコトヲ得ス然レモ航海中ノ過失ナクシテ疾病ニ罹リシ時ハ普通法ノ變例トシテ其雇賃ヲ請取ルノミナラス船費ヲ以テ治療ヲ受クルコトヲ得可ク〔商法典第二百六十六條〕又若シ途中ニ於テ上陸ヲ命セラレタル時ハ歸國ノ旅費ヲ船費中ヨリ請取ルコトヲ得可シ

○水夫ノ創傷

水夫船中ニ在テ職務ヲ行フニ當リ創傷セシ時ハ其雇賃ヲ受ケ且船費ヲ以テ治療ヲ受クルコトヲ得〔商法典第二百六十二條〕而シテ其治療費ハ水夫專ラ船ノ爲メニ創傷ヲ被リシ時例ヘハ船ニ在テ常ニ行フ所ノ職務ヲ爲シタル時ハ船ノミニテ之ヲ擔當スヘク若シ又船及ヒ積荷ノ爲メ創傷セシ時例ヘハ敵兵或ハ海賊ト戰爭スル際ハ船及ヒ積荷ノ兩者ニテ之ヲ擔當ス可シ〔商法典第二百六十三條〕

氷夫船長ノ許可ヲ得ヌシテ上陸シ創傷セシ時ハ自費ニテ其治療ヲ爲ス可ク又船長ハ其水夫ヲ解雇スルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テ其水夫ハ使役ヲ受ケタル時間ノ雇賃ノミヲ請取ルノ權アリ〔商法典第二百六十四條〕

○水夫ノ死亡

氷夫航海中死去シタル時ハ先ツ雇入契約ノ方法ヲ區別セサル可カラス

若シ月雇ノ契約ニテ水夫ヲ雇入レタル時ハ其死亡ニ至ル迄ノ雇賃ヲ其相續人ニ給與ス可シ

若シ航海中ノ契約ニテ水夫ヲ雇入レタル時ハ往路ニテ死亡シ又ハ船ヲ差向ケタル港ニ碇泊中死亡シタル場合ニ於テハ雇賃ノ半ヲ其相續人ニ給與ス可ク歸路ニテ死去シタル場合ニ於テハ其雇賃ノ全額ヲ其相續人ニ給與ス可シ

若シ利益ノ一部又ハ船賃ノ一部ヲ與フ可キ契約ニテ水夫ヲ雇入レタル時ハ其積荷ヲ賣拂フテ得タル利益又ハ其死亡ノ前後ニ拘ラス其得タル船賃ノ内ニテ水夫ノ得可キ割前ノ全額ヲ相續人ニ給與ス可シ

然レモ水夫船ヲ防守シ敵兵ト戰フテ死亡シタル後若シ其船安全ニ着港シタル時ハ其雇人契約ノ如何ニ拘ラス其航海中ノ雇賃ノ全部ヲ其相續人ニ給與ス可シ但シ此場合ニ於テ船ヲ失

フタルモハ死亡シタル水夫ノ雇賃ヲ其相續人ニ給與スルニ及ハス何トナレハ船長及ヒ機裝人ハ總テ其義務ヲ免ルレハナリ〔商法典第二百六十五條〕

○水夫ノ俘虜

水夫船中ニ在テ敵兵ノ俘虜トナリ奴隷トセラレタル時ハ其俘虜トナリタル日ニ至ルマテノ雇賃ヲ請取ルコトヲ得可シ然レモ船ノ所有者荷主又ハ船長ニ對シ奴隷ヲ免ル可キ贖金ヲ要ムルコトヲ得ス何トナレハ其奴隷トナリシハ一身上ニ係ル不幸ナレハナリ〔商法典第二百六十六條〕

然レモ水夫若シ船用ニテ海上ニ趣キ又ハ上陸シテ捕虜セラレ奴隷ト爲リタル時ハ其雇賃ノ總高ヲ請取ルコトヲ得且ツ其船ノ安全ニ着港シタル時ハ奴隷ヲ免ル、ノ贖金ヲ請取ルコトヲ要ムルヲ得可シ〔商法典第二百六十七條〕而シテ其贖金ハ若シ船用ニテ水夫ヲ海上ニ趣カシメ又ハ上陸セシメタル時ハ船ノ所有者之ヲ擔當ス可ク若シ船ト積荷トノ兩用ニテ水夫ヲ海上ニ遣ハシ又ハ上陸セシメタル時ハ船所有者ト荷主トニテ之ヲ分擔當ス可シ〔商法典第二百六十八條〕但シ其贖金額ハ六百法ト定メ其取立方法並ニ其用法ハ政府俘虜救贖規則中ニ定メタル法式ニ從テ之ヲ爲ス可シ〔商法典第二百六十九條〕(原註)總テ水夫ノ雇賃、治療及ヒ救贖ニ關スル規則ハ之ヲ船ノ乗組人ニ適用スルト同一ニ士官ニモ亦之ヲ適用ス〔商法典第

二百七十二條)然レモ 俘虜ニ關スル商法典第二百六十六條乃至第二百六十九條ノ規則ハ之ヲ士官ニ適用スルコト得ス)

第六卷 船舶入契約船ノ賃貸又ハ船ノ借入(自第二百七十三條至第二百八十條)

第十七問

本卷及ヒ本卷ノ意ヲ演義シタル次卷即チ第七卷第八卷ハ船ノ賃貸契約ノ事ニ係ルモノナリ

大洋ニ船於テ賃貸スル時ハ其賃貸契約ヲ稱シテ「シヤルト、バルチャー」(原註)シヤルト、バルチャートハ殊ニ船舶ノ賃借ヲ證明スル爲メ作ル所ノ證書ヲ云フ而シテ右ノ證書チ「シヤルト、バルチャー」(シヤルト、バルチャー)ナル語ハ羅甸ノ「シヤルター、バルチャー」ヨリ來ル「シヤルター」トハ紙ノ義ニシテ「バルチャー」トハ分離スルノ意ナリト稱スル所以ハ往時ニ在テハ紙若クハ羊皮紙ニ其契約ヲ記載シ之ヲ其中央ヨリ二個ニ裁斷シ結約者各自其一個ヲ保有シ後チ其契約ヲ證明シ及ヒ其執行ヲ請求セントスル時各自其保有スル所ノ證書ヲ差出シ之ヲ合シテ以テ證トセシモノナリ)又ハ「アツフレイトマン」ト云ヒ地中海ニ於テノ船ノ賃貸ハ稱シテ「ノリスマン」ト云フ船ヲ賃貸スル者ヲ稱シテ「フレイトウール」(貸主)ト云ヒ之ヲ賃借スル者ヲ稱シテ「アツフレイトウール」(借主)ト云フ又大洋ニ於テハ船賃ノコトヲ稱シテ「フレイト」ト云ヒ地中海ニ在テハ之

ヲ稱シテ「ノリ」ト云フ

一 船賃貸契約ノ體裁及ヒ條件

船ノ賃貸ハ証書ヲ以テ之ヲ証ス而シテ其証書ニハ船名、噸數、船長ノ姓名、貸主及ヒ借主ノ姓名、荷積ノ場所及ヒ日時、荷揚ノ場所及ヒ日時、船賃、船ノ全部又ハ一部ヲ借入、船ノ到着遲延シタル時差出スヘキ償金額等ヲ記載スルモノトス(商法典第二百七十三條)荷船及ヒ荷揚ノ時間(荷積及ヒ荷揚ノ時間)「シウール、ド、スタリー」又ハ「ウール、ド、プランシユ」ト云フ即チ船ノ借主船長ヲシテ船ニ積込マシムル爲メ商品ヲ海岸迄運送スル時間又ハ荷船主ノ着港後船長ヨリ商品ヲ請取ル可キ時間ナリ)ヲ別段契約シテ定メ置カサル時ハ其地ノ習慣ニ從テ之ヲ定ム(商法典第二百七十四條)但シ地方ハ大抵十五日ヲ以テ荷積並ニ荷揚ヲ爲スヲ以テ習慣トス故ニ其期日ヲ經過シタル時ハ貸主ハ借主ニ對シ損害賠償(此損害ノ償ヲ稱シテ「シユレスタリー」ノ費用ト云フ「シユレスタリー」トハ契約若クハ習慣ニ依テ定メタル日限ヨリ餘分ニ要シタル日時ノ義ナリ例ヘハ十日ト定メタルニ二十日ヲ要シタルトノ如キ即チ其十日ノ餘分ヲ云フ)ヲ請求スルノ權アリ

通常船ノ賃貸契約ヲ證スル證書ヲ稱シテ「シヤルト、バルチャー」(船賃貸契約書)ト云フ船ノ賃貸契約積荷目録(商法典第二百八十六條)若クハ航海船ニ積込ミアル商品ハ貸主及ヒ借主双

方ノ契約ヲ執行スヘキ保證ニ充テタルモノナリ

○或ル事件ハ船ノ賃貸契約ノ解除或ハ變更ヲ誘引スルコトアリ其場合ハ左ノ如シ

船ノ出帆前ニ其赴カントスル國ト貿易禁止ノ布告アル時ハ船ノ賃貸契約ハ貸主及ヒ借主ニ損害賠償ヲ爲サスシテ之ヲ解除スルコト得而シテ荷積及ヒ荷揚ノ費用ハ借主ノ擔當スヘキモノトス(商法典第二百七十六條)

然レモ船ノ出帆ハ抗拒ス可ラサル力例ヘ官ノ命令ニ依リ一時之ヲ差正メラレタル時ノ如キハ船ノ賃貸契約ハ依然トシテ存シ出帆遲延ヲ原因トシテ互ニ損害賠償ヲ要ムルコト得ス航海中一時抗拒ス可カラサル力ノ爲メ其航海ヲ差止メラレタル時ノ如キモ亦然リ以上ノ場合ニ於テ荷主ハ船ノ航海停止中自費ヲ以テ荷揚ヲナスコト得ルト雖モ荷主ハ再ヒ其荷物ヲ船ニ積入ル、歟然ラサレハ船長ニ對シ相當ノ價ヲ爲サ、ル可カラサルナリ(商法典第二百七十八條)

又戰鬪ノ爲メ船ノ赴カントスル港ト往來梗塞シタル時ハ船長ハ其赴カントスル港ノ最寄ノ港ニ船着ヲナス可シ但シ船長ハ荷主ヨリ他ノ港ニ着船ヲナス可カラサル依頼ヲ受ケタル場合ハ此限ニアラス然レモ他ノ港ニ着船スル時ハ航海日數ヲ餘計費ヤシタル割合ニ應シ船賃ノ増額ヲ要ムルコト得可シ

積荷目録及ヒ船賃ヲ記スル次ノ二卷ニ於テ船ノ賃貸契約ノ結果タルヘキ諸種ノ義務ヲ論究ス可シ(原註)若シ船ノ所有者兼艙裝人約束シタル商品ノ船積並ニ運送ヲ謝絶シタル時ハ船長ハ船ノ借主ニ對シテ之カ責任ヲ負フヘキヤボチエー氏ノ反對論アルニ係ハラズ輿論ニ於テハ之ヲ非決セリ何トナレハ船長ハ一身上ノ義務ヲキ船ノ所有者ノ代人ナレハナリボワステール氏ノ説)

第七卷 積荷目録(自第二百八十一條至第二百八十五條)

第十九問 積荷目録トハ船長其運送ノ爲メ荷主ヨリ商品ヲ請取タルノ證トシテ荷主ニ差出ス所ノ認知書ヲ云フ(商法典第二百二十二條)

積荷目録ニハ人物及ヒ場所ニ關スル指定ヲ記載ス即チ其記載スヘキモノハ

第一 荷主ノ姓名、荷物受取人ノ姓名住所及ヒ船長ノ姓名住所

第二 船名、船ノ噸數、荷物ノ性質分量及欄外ニ荷物ノ記號番號及ヒ船賃額

第三 船ノ出帆ノ地名及ヒ着船スヘキ場所ノ地名(商法典第二百八十一條)

又時トシテハ積荷目録中ニ運送スヘキ時間及ヒ到着ノ遲延又ハ荷物ノ破損滅盡ニ際シ償フヘキ金高ヲ記載スルコトアリ

積荷目録ハ指圖タルコトアリ所持人拂タルコトアリ又記名タルコトアルモノナリ(商法典第二百

八十一條

第二十問 積荷目録ハ商法引渡ノ證書ニ用ヒ及ヒ其所持人ニ商品ノ占有權ヲ移スコトヲ得又質入ノ權ヲ其讓受人ニ移スノ用ニ供スルコトヲ得可シ蓋シ讓受人ハ其占有ノ機械タル船長ニ依テ商品ヲ占有スレハナリ(原註)此積荷目録ニハ賣主ヨリ買主ニ手形ヲ添フ即チ此手形ヲ稱シテ目録手形ト爲ス場合ナリ)

第二十一問 各積荷目録ハ少クモ正本四通ヲ作り一通ハ商品ノ交付ヲ證スル爲メニ荷主ニ渡シ○一通ハ

荷物受取人ニ渡シ商品受取ヲ請求スルノ用ニ供ス○一通ハ船長ノ手許ニ置キ約定通ノ船賃ヲ請求スルノ用ニ供ス○一通ハ船ノ艤裝人ニ渡シ之ヲ以テ船長ノ船賃ノ計算及ヒ其他船長ノ責任ニ屬スヘキ事件ノ決算ヲ爲サシムルノ用ニ供スルモノナリ(原註)積荷目録ニハ印紙ヲ貼用スヘシ即チ船長ノ手許ニ存シ置ク積荷目録ニハ二法ノ印紙ヲ貼用ス其佛蘭西國ノ此港ヨリ彼港ニ到ル可キ沿岸航海ニ付テハ一法ノ印紙ヲ貼用スルヲ以テ足レリトス其他三個ノ積荷目録ニハ無稅印紙ヲ貼用ス可シ(千八百七十二年三月三十日ノ法律第三條乃至第七條迄)而シテ右稅銀ハ「モビール」印紙ト稱スル印紙ヲ貼用ス(千八百七十二年五月廿五日ノ法律第四條若シ此規則ニ違犯シタル時ハ荷主荷物請取人、船長及ヒ艤裝人ハ各五十法ノ罰金ニ處セラル可シ(千八百七十二年三月三十日ノ法律第六條))

船ニ商品ヲ積込ミタルヨリ二十四時内ニ荷主及ヒ船長ハ右四通ノ正本ニ署名ヲナス可シ又荷主ハ船ニ積込ミタル商品ノ稅銀請取書ヲ同二十四時内ニ船長ニ渡ス可シ(商法典第二百八十二條)

適法ニ積荷目録ヲ作りタルキハ法律ハ之ニ大信憑力ヲ付與ス依テ積荷目録ハ啻ニ積荷ニ關係アルモノニ對シテ證據トナルコトヲ得ルノミナラス又第三者就中海上保險人ニ對シ證據タルコトヲ得可シ(商法典第二百八十三條)

積荷目録ニハ運送スヘキ物品ノ種類又ハ品柄ヲ記載ス可シト雖モ之カ爲メニ船長ハ其記載シタル種類又ハ品柄ノ果シテ其記載通りナルヤ否ヤニ付キ擔保ノ責ニ任ス可キモノニ非ス但其物品ノ性質及ヒ分量ニ付テ船長其責ニ任スルノミ故ニヴハレン氏ノ言ノ如ク積荷目録ハ内部ノ品柄即チ人目ニ觸レサル品柄ニ關シテハ船長ヲシテ約務ヲ擔當セシムルモノニアラサルナリ

同一ノ積荷ニ付キ積荷目録ノ間ニ相違アル時ハ其目録ニ荷主又ハ其仲買人ノ手ニ成リシモノナレハ船長ノ手許ニ存スルモノヲ以テ正確トナス又此場合ニ於テ荷主又ハ荷物請取人ヨリ差出シタル積荷目録モ亦船長ノ作りタルモノナレハ之ヲ正確ノモノト爲スヲ得(商法典第二百八十四條)而シテ此二個ノ積荷目録ノ間ニモ亦相違アル時ハ他ノ證據ノ方法ニ依テ

之ヲ證セサル可カラス何トナレハ此ノ如ク二個ノ積荷目録ノ船ニ相違アル場合ニ於テハ此ヲ信シ彼ヲ信セサルノ道理ナケレハナリ

船長ハ商品ヲ其請取人ニ引渡シテ以テ其者ヨリ積荷目録ノ正本ヲ請取ル可ク殊ニ其目録指圖又ハ所持人拂ナルキハ之ヲ請取ルヲ注意ス可シ又何レノ場合ニ於テモ仲買人又ハ荷物請取人ハ船長ノ求メニ從ヒ請取タル商品ノ請取書ヲ渡ス可シ若シ仲買人又ハ荷物請取人ニ於テ請取書ヲ差出サ、ル時ハ船長ニ對シ總テノ費用並ニ損害賠償ヲナシ加フルニ歸帆ノ運延ニ關スル損害ヲ賠償ス可シ(商法典第二百八十五條)

○船長ハ運送人ト同シク商品請取人ニ於テ異議ナク商品ノ請取リ(商法典第四百二十五條)及ヒ船ノ到着後一年ノ時効ヲ以テ責任ヲ免カル、ヲ得可シ(商法典第四百三十三條)

第八卷 船ノ借貸(自第二百八十六條至第三百十條)

第二十二 船ノ借貸額ハ一航海ニ付キ何程ト定メ又ハ一ヶ月ニ付キ何程ト定メ(原註)船ヲ月借シタル時ハ其船賃ハ船ノ出帆シタル日ヨリ之ヲ拂フモノトス但シ反對ノ契約アル場合ハ此限ニアラス(商法典第二百七十五條)

又ハ若干ノ期限間何程ト定ムルカ如キ種々ノ方法ヲ以テ之ヲ契約スルヲ得可シ又積荷ノ斤目或ハ積荷ノ噸數(原註)アーヅルニ於テハ船賃ハ一(メートル)立方ノ面積又ハ七百キログラムノ目方即チ商品ノ一(メートル)立方ノ目方ニ依テ之ヲ定メホルドゥーニ於テハ千

「キログラム」ノ目方ニ相當スル一(メートル)四十四「サンチメートル」ノ面積ヲ以テ之ヲ定ム」或ハ積荷若干ニ付キ何程ト定メ契約スルヲ得可シ

船ハ其全部又ハ一部ヲ賃貸スルヲ得可ク又ハ或ル條件ニ依テ之ヲ賃貸スルヲ得可シ面シテ其條件ノ如キ素ヨリ種々アルヘシト雖モ一例ヲ舉クレハ逐次ニ所々ヨリ荷物ヲ取集メ之ヲ船ニ積込ニ至ク積積ヲ終リタル後ニアラサレハ船長ニ於テ出帆ヲ爲サ、ル旨ヲ契約スル時ノ如キ是ナリ而シテ此場合ヲ稱シテ拾集ニ從テ船積ニスルト云フ(商法典第二百八十六條)

法典ハ船賃ノコトヲ記スルニ際シ其賃借人ノ權利及ヒ義務ト船賃ノ仕拂ニ付キ船長ニ附與シタル特權トヲ規定セリ

一 船ノ賃借人ノ權利

船ノ賃借人ハ船借入契約ニ定ムル所ニ從ヒ船ヲ享有シ及ヒ商品ヲ運送スルヲ船長ニ請求スルノ權利ヲ有ス

船ノ賃借人船ノ全部ヲ賃借シタル時ハ即チ船ノ全部ヲ享有スルノ權利アリ故ニ船ノ賃借人船ノ全部ニ積入ル、ニ足ルヘキ荷物ヲ船ニ積入レサル時ト雖モ船長ハ船ノ賃借人ノ承諾ヲ

得ルコアラサレハ他ノ荷物ヲ積入ル、コトヲ得ス若シ其承諾ヲ得テ充分ノ荷積ヲ爲スカ
爲メ他ノ荷物ヲ積入レタル時ハ其荷物ノ船賃ハ悉皆船ノ賃借人ノ所得タル可シ(商法典第
二百八十七條)

若シ船長船ノ賃借人ニ對シ船ノ大サニ付過實ノ申述ヲナシタルニ依リ船ノ賃借人ニ於テ其
船ニ積入ル、コト能ハサル夥多ノ荷物ヲ取集メタル時ハ賃借人ハ船長ニ對シ損害賠償ヲ求ム
ルノ權利ヲ有ス然レモ其事船長ノ誤解ニ出テ而シテ其誤算船ノ噸數ノ四十分一以下ナル時
カ又ハ掛リ官吏ノ取調ヘタル噸數ノ保證狀ニ據リシ時ハ船長ハ船ノ賃借人ニ對シテ損害賠
償ヲナスノ義務ナカル可シ(商法典第二百八十九條及ヒ第二百九十條)

第廿四問

船ノ出帆前又ハ航海ノ途中又ハ到着ノ港ニ於テ船長ノ所爲ニ依リ船ヲ滞留セシメ又ハ遲延
セシメタル場合(商法典第二百九十五條)又ハ航海中船長ノ所爲ニ依リ又ハ其過失ニ因テ船
ヨリ荷揚ヲナスコトアル時ハ船ノ賃借人ハ船長ニ對シテ損害賠償ヲ要ムルノ權利ヲ有ス(商
法典第二百九十二條)

二 船ノ賃借人ノ義務

船ノ賃借人ノ主タル義務ハ約束シタル船ノ賃借料ヲ仕拂フニ在リ故ニ船ノ賃借人ハ其義務
ヲ辨濟スルニ足ル丈ケノ荷物ヲ積入レサル可カラス

第廿五問

法律ハ船ノ賃借人ノ賃料ヲ仕拂フノ義務ヲ或ハ増加シ或ハ減少シ或ハ消滅セシム可キ種々
ノ場合ヲ規定セリ

因テ其種々ノ場合ヲ論究セントスルニハ船ノ賃借人ノ所爲ト抗拒シ能ハサル力又ハ天災ノ
場合トヲ區別セサル可カラス

其一 船ノ賃借人ノ所爲

船ノ賃借人ノ義務ハ自己ノ所爲ヲ以テ免カル、コト能ハサルヲ以テ原則トナス依テ船ノ賃借
人ハ必ス契約ノ法律ヲ履踐セサルヘカラス

故ニ船ノ賃借人船ノ借入契約書ニ記シタル丈ケノ荷物ヲ積入レサル時ト雖モ其船賃ノ
全額ヲ拂ハサル可カラス但シ自己ノ荷物船ノ借入契約書ニ記シタル數ニ充タサル時他ノ荷
物ヲ以テ其不足ニ充テ其荷物ノ運送賃即チ船賃ヲ受取り以テ契約書ニ記載シタル船賃ノ仕
拂ヲナスハ妨ケナシトス

若シ又之ニ反シテ船ノ賃借人船ノ借入契約書ニ記シタルヨリ更ラニ多額ノ荷物ヲ積入レタ
ル時ハ船ノ借入契約書ニ記載シタル賃銀ノ割ニ應シテ更ラニ其餘分丈ケノ荷物ノ賃銀ヲ拂
ハサル可カラス(商法典第二百八十八條)又定期内ニ幾許ノ荷物ヲ積入ル、コトアラハ出帆ス
ヘキ約束ニテ船ヲ賃借セシ時ハ其賃借人ハ船ノ出帆前ニ船賃ノ半額ヲ仕拂フニ於テハ既ニ

船ニ積入レタル荷物ノ荷揚ヲナシ之ヲ引取ルヲ得然レ此場合ニ於テハ荷積費、荷揚費
他ノ荷物ノ積直シ費並ニ出帆遅延ノ償等ヲ賃借人ニ於テ擔當ス可シ(商法典第二百九十一
條)

右ノ如ク船ノ賃借人ノ所爲ニ依リ船ノ借入契約ヲ解除シタルニ拘ハラズ船ノ賃借人ナシテ船
賃ノ全部ヲ拂ハシメサル所以ハ蓋シ船ノ貸主ハ直ニ別荷物ヲ船ニ積入ル、コアルカ故ナリ
若シ航海中船ノ賃借人荷揚ヲナシタルキハ船賃ノ全部ト其荷揚ヲナスニ付キ他ノ荷物ノ積
直シ費トヲ擔當セサル可カラス(商法典第二百九十三條)

若シ船ノ賃借人航海往返ノ借入ヲナシタルキハ縱令ヒ其歸路ニ荷物ヲ積込ムコトナク又ハ些
少ノ荷物ヲ積込ミタルキト雖モ船賃ノ減額ヲ求ムルヲ得ス必ス往返ノ船賃ヲ拂フ可シ
又何レノ場合ヲ問ハズ船ノ賃借人ハ自己ノ所爲ニ因リ出帆前又ハ航海中又ハ到着ノ港ニ於
テ船ヲ滞留セシメル船ハ其遅延ニ付テノ賠償ヲナス可シ(商法典第二百九十四條)

○若シ契約ヲナサスシテ擅ニ船ニ荷物ヲ積込ミタル者アル時ハ船長ハ其者ヲシテ荷物ヲ積
込ミタル場所ニ其荷物ヲ陸揚ケセシメ又ハ同種類ノ荷物ニ付キ仕拂フ可キ最貴價ノ船賃ヲ
拂ハシムルノ權利ヲ有ス(商法典第二百九十二條)

若シ船ノ出帆後右荷物ノ積込ミアルコト船長發見シタル時ハ直ニ其荷物ノ陸揚ヲナサシム

ルコト得スト雖モバレン氏ノ說ニ依レハ若シ右荷物ヲ船ニ積入レタルカ爲メ船ニ不相當
ノ船積トナリシ時ハ船長ハ第一ニ到着シタル港ニ於テ其荷物ヲ陸揚セシムルヲ得可シ

其二 抗拒ス可ラサルカ又ハ天災ノ場合

抗拒ス可ラサルカ又ハ天災ニ二種アリ即チ其或ル抗拒ス可ラサルカ又ハ天災ノ場合ハ船賃
ノ義務ニ毫モ影響ヲ及ボスコトナシ其二ハ或ハ其義務ノ區域ヲ變更シ或ハ之ヲ全ク消滅セシ
ム

船ノ賃借人ニ於テ船長ニ船賃ヲ拂フヘキ義務ニ毫モ影響ヲ及ボサ、ル事變トハ即チ船ノ賃
主及ヒ借主共同ノ利益ノ爲メ積荷ヲ賣拂又ハ之ヲ海中ニ投棄スルコト是ナリ

○商品ノ強制賣拂

航海ノ途中船ニ在リテニ飲食料ヲ得ル爲メ又ハ船ヲ修理スル爲メ又ハ其他必要ナルコトアリ
テ船長ニ於テ己ムヲ得ス船ニ積入レアル商品ヲ賣拂フタル場合ニ於テハ船ノ賃借人ハ荷揚
地ノ相場ニ從ヒ其賣拂フタル商品ノ代價ノ償ヲ船長ニ求ムルノ權利アルヲ以テ其商品ニ付
テ船賃ノ總額ヲ拂ハサル可ラス又商品ノ賣却后其船滅盡シタル時ハ船ノ賃借主ハ船長ニ對
シ商品ノ賣拂代金ヲ請求スルコト得ルヲ以テ其商品ニ付テノ船賃ノ總額ヲ仕拂ハサル可ラ
ス但シ右二箇ノ場合ニ於テ船ノ所有者ハ其所有船ヲ拋棄シテ義務ヲ免カル、コト得可シ然

レ若シ船ノ所有者船ヲ抛棄シタルカ爲メ賣拂ヒ又ハ質入シタル商品ノ所有者ニ損害ヲ加ヘタル時ハ賣拂フタル商品ノ代價、安着シタル商品、商品ヲ買拂ヒ又ハ質入シタル後救助シ得タル商品等ニ其金高ニ應シテ配當ス可シ(千八百四十一年六月十四日ノ法律ヲ以テ改正シタル商法典第二百九十八條)

○投荷

公共ノ安全ノ爲メ若干ノ商品ヲ海中ニ投棄シタル時ハ其投棄セラレタル商品ノ所有者ハ總テ船ニ關係アル者及ヒ投棄セサル商品ノ荷主ヨリ投荷ノ代價ノ賠償ヲ受クルヲ以テ其投棄シタル商品ノ運賃ハ後ニ説明スル如ク船長投棄シタル商品ノ損害賠償ニ與カルカ爲メ之ヲ船長ニ與フ可キモノトス(商法典第三百一條)

○船ノ賃借人ヨリ船長ニ船賃ヲ拂フヘキ義務ノ區域ヲ變更シ或ハ之ヲ消滅セシムヘキ所ノ事變トハ船ノ修理、船ノ航海ニ堪ヘサルコト、商業ノ禁止官令ニ依リ航海ノ差止船ノ沈没淺瀬又ハ暗礁ニ船ヲ乗上ケタルコト敵船又ハ海賊ノ爲メ捕拿セラレタルトス

○船ノ修理及ヒ其航海ニ堪ヘサルコト

船長航海中ニ船ヲ修理セサル可ラサルハ船ノ賃借人ハ其船ノ修理ニ付ノ延引ヲ忍耐シ又ハ契約シタル船賃ノ全部ヲ仕拂フ可シ若シ又船ヲ修理スルコト能ハサル場合ニ於テハ船長ハ

他ノ船ヲ借入レサル可ラス若シ他ノ船ヲ借入ル、コト能ハサルハ船ノ賃借人ハ途中迄ノ船賃ヲ拂フ可シ且船ノ賃借人ニ於テ出帆ノ時已ニ船ノ航海ヲ爲スニ堪ヘサルコトヲ證スル時ハ一切船賃ヲ拂フニ及ハサルノミナラス船長ニ對シ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得可シ又船ノ賃借人ハ船ノ出帆前掛リ官吏ノ検査證書アル時ト雖モ船ノ航海ニ堪ヘサルノ證ヲ舉グルノ妨ケトナルコトナカル可シ(商法典第二百九十六條及ヒ第二百九十七條)

○商業ノ禁止

船ノ未タ出帆セサル前其到ラントスル國ト商業ヲナスノ禁令アリシ時ハ船ノ賃借人及ヒ賃借人ハ互ニ償ヲ要メスシテ船賃借契約ヲ解除スルコトハ前文既ニ之ヲ説明セリ(商法典第二百七十六條)然レモ既ニ出帆シタル後即チ航海ノ途中ニ於テ右ノ禁令アリテ荷物ヲ積込ミタル儘ニテ歸港シタル時ハ假令ヒ往返共ニ船ヲ賃借シタル時ト雖モ船ノ賃借人ハ往路ノ船賃ノミヲ船長ニ拂フヲ以テ充分ナリトス(商法典第二百九十九條)

○官命ニ依ル船ノ航海ノ差止

船ノ未タ航海ヲ爲サ、ル前官命ニ依リ其船ノ航海ヲ差留メタル時ハ船ノ賃借人及ヒ賃借人ハ互ニ償ヲ求ムルコトナク其禁令ノ解除ヲ俟タサル可カラサルコトハ前文既ニ之ヲ説明シタリ(商法典第二百七十七條及第二百七十八條)然レモ船已ニ出帆シ航海ノ途中ニ於テ其航海ヲ

差止メラレタル時ハ其船ノ借入航海中ノ約束ナレハ其航海停止中ハ船賃ヲ拂フニ及ハスト
雖モ月借ノ約束ナレハ航海停止中ト雖モ乗組人ノ食料及ヒ雇賃ハ之ヲ意外ノ損費ト看做シ
積荷ノ全部ト船及ヒ船賃ノ半ヲ以テ之ヲ償ハサル可ラス〔商法典第三百條第四百條及ヒ第
四百一條〕

○船ノ破壊淺瀬又ハ暗礁ニ乗上ケタルコ敵船又ハ海賊ノ爲メニ捕拿セラレタル
船ノ破壊シ又ハ淺瀬若クハ暗礁ニ乗リ上ケ之カ爲メ積荷ヲ失フタル時又ハ海賊或ハ敵船ノ
爲メ積荷ヲ掠奪セラレタル時ハ船ノ賃借人ハ其船賃ヲ拂フニ及ハス既ニ之ヲ拂ヒ置キタル
時ハ船長ハ之ヲ拂戻サ、ル可カラス但シ之ヲ拂戻サ、ル契約ヲ豫メナシ置キタル時ハ此限
ニアラス〔商法典第三百二條〕

然レモ船ノ沈没シタルニ因リ失フタル積荷ヲ救助シ得タル時又ハ敵船ノ爲メ掠奪セラレタ
ル積荷ヲ贖戻シタル時ハ船長ハ其救助シ又ハ贖戻シタル積荷ニ付テハ掠奪セラレ又ハ破船
シタル場所ニ至ル迄ノ船賃ヲ船ノ賃借人ヨリ受取ルヲ得可ク又其積荷ヲ嘗テ輸送セント
期シタル港ニ送り届ケタル時ハ其船賃ノ全額ヲ受取ルヲ得可ク何レノ場合ニ於テモ船ノ
賃借人ハ積荷ヲ救助シ又ハ之ヲ贖戻スニ付テノ費用ヲ船長ト分擔スルハ勿論ナリトス〔商
法典第三百三條〕而シテ其分擔ノ方法ハ到着シタル港ニ於テノ積荷ノ價額中ヨリ費用ヲ引

去リタル殘高ト船ノ價額ノ半額ト船賃ノ半額トノ割合ニ准シテ之ヲ割付ナヌモノトス然
レモ氷夫ハ其雇賃中ヨリ右ノ費用ヲ分擔スルニ及ハス故コ氷夫ノ雇賃ハ費用分擔金中ニ入
ラサルモノナリ〔商法典第三百四條〕

○流出

船長ヨリ積荷ヲ送達ス可キ場所へ遲延ナク送達シタル時ハ荷主ハ其積荷ノ性質ノ不良ニ因
リ又ハ意外ノ事變ニ因テ其價ヲ減シ若シクハ卑惡トナリシ時ト雖モ之ヲ拋棄シテ船賃仕拂
ノ義務ヲ免カル、ヲ得ス故ニ船ノ賃借人ハ必ス船長ニ對シテ船賃ノ總額ヲ拂ハサル可カラ
サルヲ以テ原則トナス

然リト雖モ例外トシテ酒油蜜其他ノ流動物樽ヨリ流出シテ空虛トナリ又ハ殆ント空虛トナ
リタル時ハ船ノ賃借人ハ其空樽ヲ拋棄シテ以テ其船賃ヲ拂フノ義務ヲ免カル、ヲ得可シ
〔商法典第三百九條及ヒ第三百十條〕何トナレハ仮令ヒ其輸送セント期シタル場所へ到着ス
ルモ樽ハ積荷ノ從ニシテ眞ノ積物ニアラス此場合ノ如キハ畢竟空樽ヲ其儘ニ運送シタルハ
船長ノ過失ト看做サ、ル可ラサレバナリ

三 船賃仕拂ノ擔保

第廿六問 船賃ハ荷揚ヲナシタル時ニアラサレハ之ヲ要ムルヲ得ス何トナレハ積荷請取人積物ノ有

様ヲ檢スルニ必要ナレハナリ又船長ハ荷物ヲ船ニ留メ置クヲ得ス但シ船賃ヲ請取ルニ至ル迄其荷物ヲ他人ニ附託スルハ此限ニ在ラス〔商法典第三百六條〕

然レモ荷物請取人ニ於テ荷物ノ請取ヲ拒ミ又ハ之ヲ請取ルニ付キ争ヲ生シタル場合ニ於テハ運送人ニ付テ設ケタル規則ニ據リ〔商法典第百六條〕船長ハ裁判所ニ依テ船賃ニ充ツル丈ケノ荷物ヲ賣拂ヒ殘餘アル時ハ之ヲ他人ニ附託スルヲ得若シ又荷物ノ全部ヲ賣拂フモ猶ホ船賃ノ仕拂ニ不足ヲ生スル時ハ船長ハ更ラニ荷主ニ對シテ不足仕拂ノ請求ヲナスノ權利アルモノトス〔商法典第三百五條〕

第廿七問

他又船長ハ民法典第二百一十二條ノ原則ニ基キ運送シタル荷物ヲ請取人ニ引渡シタル日ヨリ起算シ十五日間ハ其荷物ヲ他人ノ手ニ渡サ、レハ其賃船ニ付キ其荷物上ニ先取特權ヲ有スルヲ得〔商法典第三百七條〕又右十五日ノ期限内ニ荷主又ハ荷物請取人分散ヲナシタル時ハ其船賃及ヒ意外ノ損費ヲ拂受ケル爲メ他ノ債主ニ先ツノ特權ヲ有ス可シ〔商法典第三百八條〕〔原註〕若シ船長ノ先取特權ニ付キ許與シタル十五日ノ期限ヲ經過シタル時ト雖モ猶ホ航海ヲ爲シ終リタルヨリ一年後時効トナル可キ船賃ヲ求ムルノ訴訟ヲ起スノ妨ケトナルヲナカル可シ〔商法典第四百三十三條〕

船長ノ特權ハ運送人ノ特權ノ如ク荷物ヲ受取人ニ引渡シタルニ依テ即チ消滅スルモノニ非

サルヲ注意ス可シ是レ畢竟法律ノ船長ニ押置ノ權ヲ與ヘサル結果ナリトス

商法略論典船契約及ヒ保險ノ部問題

- 第一 問 典船契約トハ何ソヤ
- 第二 問 典船契約ノ逐次ノ適用トハ如何ナルモノナリシヤ
- 第三 問 如何ナル點ニ於テ典船契約ノ功用ハ船舶書入質ニ關スル千八百七十四年ノ法律ニ依テ更改セラレタルヤ

-
- 第四 問 契約ヲ證スル證書即チ典船契約書ハ指圖手形タルヲ得ルヤ
- 第五 問 貸主ノ先取特權ノ保存ニ付テ必要トスル法式如何
- 第六 問 典船貸借ノ引當トナルヲ得可キ目的物トハ何ソヤ
- 第七 問 借入ノ引當トナルヲ得サル物件トハ何ソヤ
- 第八 問 借入ハ其借入レタル物件ノ價額ヲ超過スルキハ如何
- 第九 問 貸主ノ擔保トハ何ソヤ及ヒ貸主ノ順序如何
- 第十 問 船舶ニ關シテハ書入質ヲ許ス千八百七十四年ノ法律以後如何ナル區別
ヲナサ、ル可ラサルカ

- 第十一問 定料保險ト共濟保險トノ間ニ如何ナル差異アリヤ
- 第十二問 海上保險契約ノ一般ノ性質トハ何ソヤ
- 第十三問 保險契約書ノ記載如何
- 第十四問 保險契約書ハ如何ナル體裁ヲ有スルヤ
- 第十五問 如何ナル物件ハ保險セラル、トテ得ルヤ
- 第十六問 既得船賃ノ保險ヲナシ得ルヤ
- 第十七問 保險セラル、トテ得サル物件トハ何ソヤ
- 第十八問 如何ナル方法ニテ禁制法ヲ脱シ得ルヤ
- 第十九問 暫時ノ保險契約トハ何ソヤ及ヒ契約書ニ故ラニ記載セサル効如何
- 第二十問 危險ノ時期トハ何ソヤ
- 第二十一問 契約者双方ノ重ナル義務トハ何ソヤ
- 第二十二問 如何ナル場合ニ於テ保險人ハ危險ヲ免ル、ヤ
- 第二十三問 如何ナル場合ニ於テ保險人ハ危險ノ一部分ノミヲ擔當スルヤ
- 第二十四問 如何ナル時ニ於テ無危險ハ契約ヲ無効トナスカ
- 第二十五問 一時間ニ「リユエ」半トハ何ソヤ

- 第二十六問 約款ヲ以テ前問推測ノ効ヲ免レ得ルヤ
- 第二十七問 大變災ト小變災トヲ區別スル利益如何
- 第二十八問 運輸損害ノ訴權ハ委棄ニ優ルコアリヤ
- 第二十九問 委棄トナルヘキ大變災ノ場合如何
- 第三十問 如何ナル條件ニ於テ委棄ナスコヲ得ルカ
- 第三十一問 委棄ハ如何ナル方法ニテ組成スルヤ及ヒ其効如何
-
- 第三十二問 典船貸借ト保險契約トノ重ナル差異如何
-
- 第三十三問 運輸損害トハ何ソヤ及ヒ保險ノ點ニ於テ第一ニ費用上ノ運輸損害及ヒ物質上ノ運輸損害第二ニ真正ノ運輸損害及ヒ大變災ノ二箇ヲ區別スルノ利益如何
- 第三十四問 契約者ノ負擔ス可キ點ニ於テ如何ナル方法ニテ之ヲ區別シ得ルヤ
- 第三十五問 大運輸損害即チ共通ノ運輸損害トハ何ソヤ及ヒ單純ノ運輸損害即チ特別ノ運輸損害トハ何ソヤ

- 第三十六問 單純即チ特別ノ運輸損害ノ重ナル場合如何
- 第三十七問 船舶衝突ノ場合ニ關スル特別規則トハ何ソヤ
- 第三十八問 運輸損害ノ訴權ニ於テノ法律上ノ免責トハ何ソヤ及ヒ如何ナル條件ニ於テ投荷ハ之ヲ爲スカ
- 第三十九問 如何ナル物件カ運輸損害ノ補償ニ分担スルカ
- 第四十問 如何ナル價額ニ付キ船舶及ヒ船賃ノ負担スルカ
- 第四十一問 海上事件ニ付テノ重ナル時効如何
- 第四十二問 海上事件ニ特別ナル不受理ノ理由トハ何ソヤ

第九卷 典船契約(自第三百一十一條至第三百三十一條)

第一問

典船契約ハ羅馬法ニ於テハ [Mantium foenus 及ヒ projectio pecuniae]ト名稱スル者ニシテ特種ノ貸借契約ナリ此契約ニ因テ貸主ハ航海ノ危険ヲ冒シ若シ貸借契約ノ目的タル物件滅盡スルニ於テハ何等ノ要求ヲモ爲サ、ルヘキヲ約諾シ而シテ若シ船舶安全ニ航海ヲ果タスニ於テハ貸主ハ貸借元金ノ外ニ多少高貴ナル利息ヲ要求スルノ權利ヲ貯存ス此利息額ハ無制限ノ者ニシテ之ヲ名ケテ海上得益ト云フ

ウラン氏曰此契約ヲ名ケテ *Contrat à la grosse aventure* 冒險貸借契約ノ義ト云ヒ又畧シテ *Contrat à la grosse* 同上ノ義ト云フ何トナレハ貸主ハ金額ヲ失フノ危険ヲ冒シ以テ其金額ヲ現實僥倖ニ任スレハナリト

典船契約ハ保險契約ノ如ク一箇ノ委運契約ナリ委運契約ノ事ハ載テ民法第九百六十四條ニ在リ

第二問

典船契約ハ引續キテ様々ノ適用ヲ受ケタリ左ニ之レヲ陳センニ

- 第一 最初ニ在テハ人ハ船舶ノ構造費及ヒ艙裝費ニ充用シ若シクハ積荷買入ニ充用スヘキ金額ヲ借入レ船舶若クハ積荷ヲ以テ借入金辨濟ノ抵當トナセリ即チ金額借入ハ抵當トセラレタル物件ノ爲メニ及ヒ抵當トセラレタル物件ニ付テ同一時ニ之ヲ爲

セリ其後ニ至リテハ人ハ既ニ構造シタル船舶ニ關スル或ル使用又ハ既ニ獲得シタル積荷ニ關スル或ル使用ニ充ツヘキ金額ヲ借入レタリ是レ取モ直サス物件ニ借入ヲ爲ス者ニシテ物件ノ爲メニ爲ス者ニ非ルナリ仍テ典船契約ハ既ニ成立スル質物ニ就テ爲ス所ノ貸借契約タルニ過キス而シテ貸主ハ典セラレタル物件ノ占有ヲ以テ担保セラレヌシテ一箇ノ先取特權ヲ有セリ(商法典第九十一條九項及ヒ第九十二條七項)

第二 終リニハ船長ハ船舶解纜ノ後航行ノ間ニ或ハ冒險契約ヲ以テ或ハ他ノ契約ヲ以テ(商法典第九十一條七項及ヒ第二百三十四條)船舶ニ關スル需要ノタメ若クハ積荷ニ關スル需要ノタメ金額ヲ借入レタリ此借入ハ一箇ノ先取特權ヲ以テ担保セラレタリ而シテ此先取特權ハ質ノ意ニ根基セヌシテ保全ノ意ニ根基セリ此ヲ以テ此先取特權ハ前項ノ先取特權ノ上ニ位セリ

第三問

千八百七十四年十二月十日ノ法律ニテ船舶ノ書入ヲ進許セシテ以テ解纜前ノ典船契約ノ第一適用ハ他ノ物件ニ付テハ兎モ角モ船舶ニ關シテハ其目的ヲ失フニ至レリ然レモ航行間ノ典船契約ハ猶ホ頗ル實際ニ行ハル、モノトス何トナレハ船舶ノ所有者ハ船長ノ取結ヒタル契約ニ付キ船舶及ヒ積荷ヲ拋棄シテ以テ其義務ヲ免カル、ヲ得ルヲ以テ所有者其者ニ對シ

テ直ニ契約ヲ望求スルヲ得サル所ノ貸主ハ此場合ニ於テハ船舶ノ外他ノ質物ヲ有セサルカ故ニ單純ノ貸借契約ヲ爲スヲ欲セサレハナリ

一 典船契約ニ付テノ必要ナル
法式及ヒ條件

典船契約ハ或ハ法式ニ關シ或ハ基本ニ關シテ定マリタル規則ニ從フ

○契約ノ法式

典船契約ハ書面ヲ以テ證認セサルヲ得ス然レモ吾人カ一般ニ認許スル所ニ因レハ書面ハ人證ヲ除却センカ爲メ唯々之ヲ必要トスルニ非ス仍テ自白及ヒ宣誓ヲ以テ契約ノ成立ヲ證スルヲ得ヘキナリ百五十法以下ニ付テハ人證モ亦締約者ノ間ニ於テノミ之ヲ許スヘキナリ

書面ハ公證人證書タルヲ得又ハ私印證書タルヲ得ルナリ之ヲ名ケテ典船證書ト謂フ
典船證書ニハ下ノ諸件ヲ記載ス貸借シタル元金及ヒ海上得益トシテ約定シタル金額○貸借ノ抵當トナリタル物件○船舶ノ名號及ヒ船長ノ氏名○貸主及ヒ借主ノ氏名○或航行ノタメ貸借ヲ爲シタルヤ否ノ事○何航行ノタメ又何時間ノタメ貸借ヲ爲セシヤノ事○辨濟ノ時期(商法典第二百一十一條)

第四問 典船証書ハ差圖ニ於ケル者タルヲ得從テ裏書ヲ以テ取引スルヲ得ルナリ此場合ニ於テハ其取引ハ他ノ指圖手形ノ取引ト同一ノ効チ生ス然レモ辨濟ノ抵保ハ海上得益ノ上ニ推及ホスヲ無シ但シ此事ニ付テ別段ノ約定アル時ハ此限ニ在ラサルナリ(商法典第三百十三條及ヒ第三百十四條)

第五問 若シ佛蘭西ニ於テ貸借ヲ爲スルハ貸主ハ貸借ヲ証明スル證書ヲ其日附ヨリ十日内ニ商事裁判所ノ書記局ニ於テ登記セシムルヲ要ス若シ外國ニ於テ貸借ヲ爲スルハ第二百三十四條ニ循ヒ乘組人中ノ重立ナル者ノ調書ヲ以テ借入ノ必要ナルヲ證明スルヲ要シ且ツ佛蘭西領事又ハ佛蘭西領事在ラサルモ其地ノ裁判官カ借入ノ事ニ付キ允可ヲ與フルヲ要ス此等ノ法式ハ貸主カ辨濟ニ充テラレタル物件ノ上ニ有スル所ノ先取特權ノ保全ノ爲メニ必要ナリトス(商法典第三百十二條)

○契約條件

借主ハ船舶又ハ積荷ニ付キ利害ノ關係ヲ有セサル可ラス然ラサレハ借入ハ賭博タルニ過キサル可シ故ニ原則ニ於テハ借入ハ貸主ノ抵保ニ充テタル物件ノ所有者ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス然レモ法律ハ船舶ノ解纜前若シハ航行間ニ借入ヲ爲スヲ船長ニ許セリ船長若シ解纜前ニ艤裝人住居ノ地ニ於テ借入ヲ爲スルハ艤裝人ノ公正ノ認許アルヲ必要トシ又ハ貸借證書ニ艤裝人ノ干渉アルヲ必要トス然ラサレハ貸主ハ唯々船舶ニ於テ及ヒ船舶借賃ニ於テ船長ニ屬シ得可キ部分ニ付テノミ訴權ヲ有スヘシ然レモ若シ船舶所有者ニシテ船体ノ修理及ヒ飲食料ノ爲メ其負担額ヲ供給シ以テ催促ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間内ニ船舶ヲシテ用ヲ爲スニ至ラシメサルモ其所有者ハ有効ニ義務ヲ負フ可キ者トス(商法典第三百二十一條及ヒ第三百二十二條)○既ニ言ヒシ如ク航海間ニ在テハ船長ハ乘組人中ノ重立ナル者ノ證明シタル必要ノ場合ニ於テ且ツ其地ノ裁判官ノ允可ヲ得テ借入ヲ爲スヲ得ルナリ吾人カ因テ以テ借入ヲ爲スヲ得ル所ノ物件トハ航海ノ危險ニ遭遇ス可クシテ且ツ金額ヲ以テ評價シ得ヘキ者ヲ云フ故ニ生命若クハ自由權ヲ抵當トシテ借入ヲ爲スヲ得サルナリ

第三百十五條ノ法文ニ因レハ借入ハ左ノ物件ヲ抵當トシテ爲スヲ得

第六問

- 一 船體及ヒ船身
- 一 船具及ヒ器具
- 一 艤裝物及ヒ飲食料
- 一 積荷(或ハ噸量)

借入ハ船舶及ヒ積荷ヲ併セテ抵當トシ又ハ之ヲ各別ニ抵當トシ若クハ船舶又ハ積荷(即チ船體又ハ噸量)ノ或ル定マリタル部分ヲ抵當トシテ爲スヲ得ルナリ

一般ニ船體及ヒ船身ヲ抵當トシテ爲シタル貸借ニハ船具艙裝物及ヒ飲食料ヲ抵充ス(商法典第二百二十條)

立法者ハ或ル定マリタル物件ニシテ借入ニ抵充スルヲ得サル者ヲ指定セリ即チ現在成立セサル物件ヲ以テ借入ヲ爲スコトハ之ヲ禁セリ特ニ左ノ者ヲ以テスルヲ禁ス

第七回 一 得ヘキ船舶借賃又ハ商品ニ付キ希望シタル利得(商法典第二百十八條)ヲ以テ爲ス借入

二 水夫カ給料又ハ雇賃ヲ以テ爲ス借入(商法典第二百十九條)水夫既ニ其給料又ハ雇賃ノ全額ヲ受取ルヘキヲ確保セラレタルキハ最早船舶及ヒ積荷ノ安全ニ利害ノ關係ヲ持セサルヲ以テ從テ彌々其給料又ハ雇賃ヲ抵當トシテ借入ヲ爲スヲ禁セサル可カラルナリ

右二箇ノ場合ニ於テハ貸借ハ無効タルヲ以テ貸主ハ元金ノ辨濟ヲ得ルノ權利アルノミニシテ何等ノ利息ヲモ要求スルヲ得ス而シテ元金ノ辨濟ハ假令ヒ變災アル場合ニ於テモ之ヲ貸主ニ爲サ、ルヲ得サルナリ

第八回

貸主ハ其元金ニ付テ危險ヲ受クルヲ以テ其辨濟ニ充テラレタル物件ノ上ニ少クモ元金ト相償フヘキ抵保ヲ有セサル可ラス故ニ借額ハ抵當トセラレタル物件ノ價額ヲ超過スルヲ得ス若シ物件ノ價額以上ノ借入ヲ爲シタルキハ法律ハ借主ノ惡意ナリシト否ヤコ付キ差別ヲ爲セリ

若シ借主惡意ナリシキハ貸主ハ無効ヲ認求スルヲ得而シテ此無効ハ貸主ノ利益ノ爲メニノミ成立ツモノトス仍テ貸主ハ船舶ノ安全ニ着到セシ場合ニ於テハ契約ヲ有効ト做シ以テ元金及ヒ海上得益ヲ要求スルノ權ヲ有スヘク又變災アル場合ニ於テハ契約ヲ無効ト做シ以テ元金ノ辨濟ヲ爲サシムルノ權ヲ有スヘキナリ(商法典第二百十六條)

借主若シ善意ナリシキハ契約ハ有効ナリトス然レモ其有効タルコトハ借入ニ充テタル物件ニ付テ爲シ又ハ約定シタル評價ニ從ヒ其物件ノ價額ニ至ル迄ニ限レリ借入レタル金額ノ剩餘ハ通常ノ利息ヲ付シテ之ヲ辨濟ス故ニ此超過額ニ付テハ恰モ單純ナル貸借アリシニ過キサルナリ(商法典第二百十七條)

二 典船契約ノ効

貸主ハ貸借ニ充テタル物件ノ滅尽若クハ損壞ヲ來サシムルコトアルヘキ危險又ハ變災ヲ擔當ス而シテ貸主ハ唯々海上ノ變災ヲ担任スルノミ仍テ其担任ハ左ノ件々ニ推及ホサ、ルモノ

一 地上ニ卸シタル商品ノ掠奪ノ如キ地上ノ危険

一 船舶ノ腐敗商品ノ悪質等ノ如キ物件ノ固有ノ瑕瑾ヨリ生スル損害

一 借主又ハ其雇人ノ所爲ヨリ生スル損害〔商法典第三百二十六條〕

又船舶カ貸借ヲ爲スニ至ラシメタル航行以外ノ航行ヲ爲シタルキ若クハ拒抗ス可ラサルカノ場合ニ在ラズシテ商品ヲ他ノ船舶ニ積入レタルキハ貸主ハ危険ヲ担任セサルヘキナリ〔商法典第三百二十四條〕

約定アラサル場合ニ於テハ危険ハ船舶、機装物、船具、飲食料ニ關シテハ船舶ノ解纜セシ日ニ始マリテ船舶ノ差向港又ハ差向地ニ投錨セシ日ニ終リ商品ニ關シテハ其船舶ニ積入レラレタル日又ハ船舶ニ運搬スル爲メ小艇ニ積入レラレタル日ニ始マリテ地上ニ荷卸セシ日ニ終ルモノトス〔商法典第三百二十八條〕

危険ノ問題ヲ斯ノ如ク定メテ而シテ二箇ノ場合ノ生スルコトアルヘシ

第一 貸借ニ充テタル物件無難ニテ到着セリ此場合ニ於テハ貸主ハ元金及ヒ海上得益ヲ要求スルコトヲ得

第二 貸借ニ充テタル物件全部若クハ一部滅盡セリ此場合ニ於テハ若シ滅盡ノ全部ニ係

ルキハ貸主ハ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得ス〔商法典第三百二十五條〕若シ滅盡ノ一部ニ係ルキハ貸主ハ救留メタル物件ニ相當シテ貸渡シタル金額ノ一部ヲ要求スルコトヲ得故ニ難破船ノ場合ニ於テ若シ物件ノ救留メラレタルキハ借入レタル金額ノ辨濟ハ救留ノ費用ヲ扣除シ救留メテ契約ニ抵充シタル物件ノ價額ニ迄之ヲ減少ス〔商法典第三百二十七條〕例ヘハ三百法ノ積荷ヲ抵當トシテ一百法ヲ借入レタリト假定センニ若シ積荷ノ三分一ヲ救留メタルキハ貸主ハ貸渡シタル金額ノ三分一ナラデハ要求スルコトヲ得ス

難破船ノ場合ニ於テハ積荷ヲ抵當トシタル貸主ハ借主カ借入レタル金額ノ額ニ至ル迄物件ヲ船舶ニ積入レタル旨ヲ證明セシ以上ニ非サレハ滅盡ヲ担任セサルヘシ〔商法典第三百二十九條〕夫然リ何トナレハ貸主ハ借主カ辨濟ニ充テタル商品ニ付キ危険ヲ受クヘキ限度ニ於テノミ其貸金ニ付キ危険ヲ受クヘケレハナリ

貸主ハ共通ノ運輸損害ノミナラス單純ナル運輸損害ヲモ担任ス但單純ナル運輸損害ニ付キ反對ノ約定アルキハ此限ニ非サルヘシ此等ノ事ハ後ニ運輸損害ノ事ヲ論スル時ニ當リ之ヲ研究スヘキナリ〔商法典第三百三十條〕

三 貸主ノ擔保

第九問

貸主ハ元金及ヒ海上得益並ニ地上利息トシテ貸借ニ充テタル物件(船舶又ハ積荷)ニ從ヒ多
少狹廣ナル先取特權ヲ有ス

船體及ヒ船身ニ就テ貸借ヲ爲シタルキハ先取特權ニ屬スル物件ハ船舶、艙裝物、船具、綱具、飲
食料及ヒ獲得シタル船舶借賃ヲ包含ス

積荷ニ付テ貸借ヲ爲シタルキハ積入レタル一切ノ商品ヲ以テ先取特權ニ充ツ又若クハ船舶
ノ特別ナル物件若クハ積荷ノ特別ナル物件ニ就テ貸借ヲ爲スキハ先取特權ハ唯々其特別ノ
物件ノ上ニノミ生シ且ツ唯々其物件ヲ抵當トシタル割合ヲ以テ生スルナリ(商法典第三百
二十條)

貸主ノ先取特權ハ質取債主ノ特權ト相類似スル者アリ唯々其相異ナル所ハ貸主ハ先取特權
ニ充テタル物件ヲ占有セサルニアリ

我輩曰ヘリ法律カ佛蘭西ニ於テ爲シタル貸借契約ニ付テハ登記ノ法式ヲ必要トシ(商法典
第三百十二條)外國ニ於テ爲シタル貸借契約ニ付テハ乘組人中ノ重立チタル者ノ調書及ヒ
裁判官ノ允可ヲ必要トスル(商法典第二百二十四條)ハ貸主ノ先取特權ヲ保全セント欲スル
ニアリト

引續キテ借入ヲ爲シタル場合ニ於テハ最後ノ借入ヲ以テ常ニ優等ニ位ス因テ最後ノ航海ノ

タメニ貸付シタル金額ハ以前ノ航海ノ爲メニ貸付シタル金額ニ先ノシテ辨濟セラレ又航海
間ニ貸付シタル金額ハ出帆前ニ貸付シタル者ニ先ノシテ辨濟セラル而シテ唯一ノ航海間ニ
數多ノ借入ヲ爲シタルキハ最後ノ借入ハ常ニ之レヨリ以前ノ借入ヨリ先キニ辨濟セラル、
ナリ(商法典第二百二十三條)

○船舶ニ就テノ先取特權ニ關スル制限

第十問

船舶ニ關スル事ニ付テハ千八百七十四年十二月十日ノ法律ヲ以テ船舶ノ書入ヲ認可セシカ
故ニ出帆前ノ典船契約ニ於テノ貸主ニ許與シタル先取特權ハ之ヲ廢セリ此先取特權ノ原則
ハ之ヲ保維スルト同時ニ書入質ヲ廢滅スルニ非サルヨリハ之ヲ保維スルヲ能ハサルナリ是
則千八百七十四年ノ法律ノ理由説明書ニ謂フ所タリ實ニ若シ艙裝者カ出帆前ニ特權ノ負債
主權ヲ生セシメ以テ書入質權ヲ排除スルヲ得ルトセハ書入質權ハ最早安全ヲ與ヘサルヘ
シ故ニ千八百七十四年ノ法律ヲ以テ出帆前ニ貸借ヲ爲ス時ニ當リ船舶ヲ抵當トシテ金額ヲ
貸付シタル者ノ先取特權ニ關スル商法典第九十一條第九十二條第七項ヲ廢セ

故ニ要スルニ先取特權ハ最早最後ノ航海間ニ商法典第二百二十三條ニ從ヒ爲シタル貸借ノ
タメニナラテハ成立セサルナリ(商法典第九十一條第七項)若シ最後ノ航海間ニ數多ノ借

入ヲナセシキハ最後ノ借入ハ是レヨリ以前ノ借入ヨリ先キニ辨濟セラレ何トナレハ最後ノ借入ハ之ヲ先ツ所ノ借入ノ質物ヲ保全セシカ故ナリ然レモ種々ノ借入ニシテ唯一ノ變災ノ恢復ニ關係スル者ハ其日附ノ相異ナルニ係ハラス之ヲ同等ニ置カサル可ラス(商法典第百九十一條末項)

唯一ノ船舶ニ就キ又ハ唯一ノ積荷ニ就テ同一時ニ一箇ノ典船貸借及ヒ一箇ノ保險契約有ルコアルヘシ此事アルカ爲メニハ借入レタル金額ハ船舶又ハ積荷ノ價額ト平等ナラサルコトヲ假想セサル可カラス何トナレハ商法典第三百四十七條ニ從ヘハ典船契約ヲ以テ借入レタル金額ヲモ又從テ其辨濟ニ充テタル物件ヲモ保險スルコトヲ得サレハナリ此場合ニ於テ若シ難破船アリテ而シテ救留メラレタル或ル物件アルキハ危險ヲ擔當スルノ方法ハ如何

商法典第三百三十一條ノ決定スル所ニ據レハ救留メラレタル物件ノ所得ハ貸主ト保險人トノ間ニ貸主ハ其元金ニ付キ保險人ハ其保險額ニ付其相互ノ利益ニ割合ヒ之ヲ分配ス但シ商法典第百九十一條ニ定メタル先取特權ト抵觸スルコト無カルヘキナリ

此決定ハ千六百八十一年ノ法令ト反對セリ該法令ニ依レハ貸主ハ救留メラレタル物件ニ付キ保險人ニ先ンシテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有セリ

右ニ陳スル所ヨリシテ下ノ結果ヲ生ス即チ船舶ハ一百萬法ノ價額ニシテ五十萬法ノ典船貸

借ト五十萬法ノ保險契約ヲ爲シ而シテ救留メラレタル物件ノ價額モ五十萬法トスルキハ貸主及ヒ保險人ハ各々救留メラレタル物件ノ價額ノ半額即チ二十五萬法ヲ受収スヘキナリ救留メラレタル物件ノ價額ヲ貸主ト保險人トノ間ニ割合ヒテ分配スルコトハ船舶ノ出帆前ニ貸借ヲ爲シタル時ハ其理解シ易キノミ然レモ若シ貸借ヲ航海中ニ爲シタル時ハ(此場合ハ書入質ニ關スル千八百七十四年ノ法律ノ頒布以還往々ニシテ是アリ)此分配ハ其理アルヲ見サルナリ今其場合ヲ假想センニ一百萬法ノ價額ノ船舶ガ一百萬法ニ保險セラレタルニ航海中船舶ヲ修理スルノ必要アリテ之ヲ爲サンカ爲メ五十萬法ヲ借入レタリ然ルニ船舶ハ難破ニ會ヒ而シテ救留メラレタル物件ハ五十萬法ノ價額ナリ因テ救留メラレタル物件ノ價額ハ商法典第三百二十七條ニ從ヒ之ヲ保險人ヨリ先キニ貸主ニ附與セサル可ラサルヘシ何トナレハ借入ハ保險セラレタル物件ヲ保全センカ爲メ爲シタルカ故ニ保險人其者ノタメニ之ヲ爲セリト看做スヘシ即チ保險人ノ利益ノタメニ借入ヲ用立ツル者ナリ此論決ハ商法典第百九十一條第七項ヲ以テ航海間ニ爲シタル借入ニ付テノ先取特權ヲ保險人ノ先取特權ヨリ優等ニ置キタル以上ハ彌々之ヲ採用セサル可ラサルナリ(商法典第百九十一條第十項)

第十卷 保險(自第三百三十二條至第三百九十六條)

保險契約ハ一箇ノ委運契約ニシテ變災ヨリ生スル損害ニ付キ被保者ニ賠償ヲ爲スヲ以テ其

目的トスル者ナリ

保險契約ノ起源ハ近代ニ在リテ保險契約ハ第十五世紀ニ磁針器ノ發明及ヒ亞米利加洲ノ發見ノ後ニ世ニ行ハル、トナレリ

古代ノ人ハ冒險貸借契約ナラテハ知ラサリキ(原註)保險契約ノ起源ハ耶蘇宗門カ冒險貸借契約ヲ禁制セシメ原因スルモノ、コトシ蓋ダシ耶蘇宗門ハ冒險貸借契約ヲ利息付ノ貸借契約ノコトゾ高利貸借ト觀定セリ千二百二十年羅馬法王グレゴワール七世ノ答辨書參觀

保險ノ方法ハ最初之ヲ海上ノ變災ニ適用セシニ前世紀ノ中頃ヨリシテ頗ル進歩シ千七百五十四年ニ於テ或ル會社ハ火災ニ對シテ家屋ヲ保險スルノ允許ヲ得千七百八十二年ニ於テハ人命保險會社ノ創立ヲ觀タリ

今代ニ至テ保險ハ甚太シキ進歩ヲ究メ凡ソ危險ノ目的タルヲ得ル者ハ盡ク保險ノ干涉スル所トナリテ下ノ諸件ヲ保險スルコトナレリ即チ海上變災火災電洪水家畜ノ死亡人ノ死亡分散等ノ如キ是ナリ

保險ヲ別チテ定料保險、共濟保險トセリ

定料保險トハ保險人カ被保人ノ辨濟スル所ノ保險料ト名クル若干金額ヲ受収シ以テ物件ノ

受クヘキ危險ヲ擔當シ若シ豫察ノ事變果シテ生スルニ於テハ若干ノ賠償ヲ拂フヘキヲ約諾スル保險ヲ云ヒ共濟保險トハ同シキ危險ニ遭フアテントスル數多ノ人カ某々ノ事變アリテ損害ヲ受クルコトアラハ各自ノ利害關係ニ割合ヒ其損害ニ付キ相互ニ担保スルコト云フ一我輩ハ定料保險ト共濟保險トヲ比照シ以テ左ノ差異ヲ示スコト得ルナリ

第十一問

第一 定料保險ニハ唯々契約者双方アルノミ即チ一方ハ保險人ニシテ若シ某々ノ事變果

シテ生スレハ若干ノ賠償ヲ爲サンコトヲ約スル者ナリ他ノ一方ハ被保人ニシテ危險ノ代價即チ保險料ヲ辨濟センコトヲ約諾スル者ナリ

共濟保險ニハ右ニ反シテ常ニ多人數アリ而シテ其多人數ハ相互ニ相保シテ保險人ノ役目ト被保人ノ役目ヲ同一時ニ勤ムル者ナリ

第二 定料保險ニ於テハ被保人ハ分明ニシテ確定ナル損失ヲ爲シ何等ノ事アルニ拘ハラズ定マリタル金額ヲ辨濟ス

共濟保險ニ於テハ管理費トシテ賦金ヲ支辨スルハ別段ナレトモ損失ニ至テハ其有無其高ニ於テ未必ノ者ナリ被保者ハ同一時ニ保險人ナルカ故ニ或ル變災アラサル以上ハ義務者タラサルナリ而シテ其負債ノ金額ハ豫メ定マラス何トナレハ其金額ハ損害ノ輕重ニ從テ自ラ異ナレハナリ

第三 定料保險ニ在テハ保險人ハ商業ヲ爲ス何トナレハ保險人ハ投機ヲ試ミ利得ヲ得
 一ヲ企圖スレハナリ又何トナレハ保險人ハ其受収セル保險料ノ高ノ其辨濟スル
 アルヘキ賠償ノ高ヲ超過セシヲ希望スレハナリ
 其濟保險ニ在テハ商業ナル者アルヲ見ス何トナレハ社員中何人モ利益ヲ翹テ俟タ
 サレハナリ

千八百六十七年會社ニ關スル法律制定以來凡ソ會社ハ無名會社ト雖モ政府ノ允許ヲ俟タス
 シテ之ヲ創立スルヲ得ルハ我輩ノ能ク知ル所タリ此制規ハ保險會社ニモ適用スルヲ得
 ヘキナリ但シ之ニ付二箇ノ制限アリ即チ左ノ如シ

- 第一 生命保險會社ハ其定料タルト共濟タルトナ問ハス(トントン)會社ノ如ク政府ノ允
 許ヲ受ケ政府ノ監察ヲ受ケサルヲ得ス
- 第二 其他ノ保險會社ハ政府ノ允許ナクシテ創立スルヲ得ルト雖モ其創立ノ條件トシ
 テ行政規則ニ定メタル制規ヲ遵奉セサルヲ得ス(千八百六十七年七月二十四日制
 定會社ニ關スル法律第六十六條)

我輩ハ此ニ唯々海上保險及ヒ定料保險ノ事ヲ研究セシノミ是レ商法典カ注意ヲ怠ラサリ
 シ所ノ者タリ而シテ商法典カ海上保險ノ爲メニ設定セル原則ハ地上保險ニモ大概適用スル

一ヲ得ルナリ

海上保險ニ關スル商法典ノ規則三款中ニ包含ス而シテ此三款ハ左ノ件々ヲ記載ス

- 第一款 保險契約 其法式 其目的
- 第二款 保險人及ヒ被保險人義務
- 第三款 委棄

此商法典ノ區別ニ從テ研究セントス

第一款 保險契約、其法式、及ヒ其目的
 海上保險契約トハ或ル契約ニシテ甲者乙者ニ對シ保險料ト名クル報酬ヲ得テ海上ノ危險ニ
 遭遇スルノ慮アル物件ノ受クルアルヘキ損害ニ付キ其乙者ニ賠償ヲ爲ス一ヲ約諾スル契
 約ヲ云フ

一 保險契約ノ一般ノ性質

第十二節 保險契約ハ被保險人ノ方ニ在テハ元來豫防ノ契約ナリ即チ損失ニ付テ被保險人ヲ擔保スル爲メ
 ノ手段ニシテ被保險人ニ利得ヲ確保スル爲メノ手段ニ非サルナリ
 被保險人ハ保險セラレタル物件ノ受クルアルヘキ危險ヲ避ケン一ヲ企圖スルモノニシテ其
 資産ヲ保存セント欲スルモ之ヲ増加セント欲スル者ニ非サルナリ故ニ保險ハ被保險人ニ取テ

ハ一箇ノ保存ノ所爲ナリ而シテ保存ノ所爲ハ唯々管理スルノ能力ヲ必要トスル而已

保險人ハ之ニ反シテ被保人ノ辨濟スル所ノ或ル定マリタル金額ヲ受收シ以テ航海ノ危險ヲ負擔シ其受收セシ保險料以上ノ金額ヲ支辨スルノ恐レヲ有スル者ニシテ利得ヲ爲スカ損失ヲ爲スカノ運ニ任スル者ナリ故ニ保險契約ハ保險人ニ取テハ投機ノ所爲ナリ又商事上ノ所爲ナリ而シテ投機ノ所爲商事上ノ所爲ハ商事上義務ヲ負フノ能力ヲ必要トスル者ナリ

保險契約ハ一點ニ在テハ被保人カ其物件ヲ豫防セント欲スル所ノ危險ニシテ保險人カ己レニ負擔センコトヲ承諾スル所ノ危險ヲ假想シ他ノ一點ニ在テハ保險契約ハ被保人ノ爲メニハ損失ヲ担保スルノ手段ニシテ決シテ利得ヲ爲スノ手段ニ非サルノ原則ヨリシテ法律ハ數多ノ結果ヲ演繹セリ後ニ此結果ノ適用及ヒ開陳ヲ見ルヘシ而シテ今我輩ハ此數多ノ結果ヲ保險契約ヲ支配スル一般ノ規則中ニ式定スルコトヲ得ルナリ一般ノ規則即チ左ノ如シ

第一 保險ハ賭博ノ類タル可ラス保險ヲ爲スニハ必スヤ保險セラレテ危險ニ遭遇スルノ恐アル物件有ラサル可カラズ故ニ被保人ハ船積ノ證ヲ立テサルヲ得ス之ヲ再言スレハ船舶ニ積入レタル物件ノ景狀ヲ證セサルヲ得サルナリ

第二 保險契約ハ元來委運ノモノタルヲ以テ物件カ既ニ滅盡セシニ因ル乎若クハ物件カ契約ヲ爲シタル時ハ業既ニ安全ニ到着セシニ因テ最早危險ナル者有ラサリシニ於

テハ之ヲ取結フコトヲ得サルナリ然レモ若シ結約者双方善意ナリシニ於テハ契約ハ有効タルヘクシテ其總テノ効果ヲ生スヘシ

第三 唯々失ハントスルノ危險アル物件ノミナ保險スヘク決シテ希望シ得ル所ノ利得ヲ保險スルヲ得ス(原註)人ハ凡ソ人ノ失ハントスルノ危險アル物件ヲ保險スルヲ得ルナリ往昔ニ在テハ被保人ニ負ハシムルニ保險セラレサル或ル財産ヲ有スルノ義務ヲ以テセリ是レ被保險人ヲシテ其財産ノ中何等ノ者トシテ失フ所ナキ様ニ注意セシメンカ爲メナリ

第四 人ノ失ハントスル危險アル物ノ價額ヨリ更ニ低價ヲ以テ保險スルヲ得ルモ更ニ高價ヲ以テ保險スルコトヲ得ス何トナレハ保險契約ハ被保人ニ取テハ一箇ノ賠償契約タルニ過キサレハナリ

第五 唯一ノ物件ハ其全價額ニ就キテ數多ノ保險ヲ爲スノ目的物タルヲ得ス

第六 被保人カ爲ス所ノ故意ノ隱秘、僞妄ノ陳述保險契約書ト積荷目録トノ差異等ノ如キ凡ソ危險ノ想像及ヒ査定ヲ弱小ナラシムル者ハ保險契約ノ無効ノ原由タルヘシ抑モ保險契約ハ元來善意ノ契約ナリ

二 契約ノ法式

保險契約ハ書面ヲ以テ陳述セサル可ラス然レモポチエー氏ノ説ニ從ヒ書面ハ人證ヲ排斥スル爲メ唯々證據トシテ之ヲ必要トスト論定セサル可ラス仍テ保險契約ハ自白又ハ宣誓ヲ以テ之ヲ證スルヲ得ヘキナリ

保險契約ヲ證スル書面ヲ稱シテ「Police of assurance」即チ保險契約書ト云フ若シ結約者カ最初ニ爲シタル約款ヲ補増シ若クハ更改セント欲スルキハ「Avenant」即チ保險契約訂正證書ナル者ヲ記認シ（原註）「エメルジョン氏其著述ノ「保險及ヒ冒險貸借論」ニ曰ク保險契約訂正證書ハ下ノ件々ヲ記スル者ナリ即チ「結約者ハ某日以來既ニ認メタル保險契約書ヲ或ハ校正セリ或ハ更改セリ或ハ取消セリ」ト記認スル者ナリト」

保險契約書ハ或ハ結約者躬ラ之ヲ作り或ハ之ヲ商業世話人ノ紹介ヲ以テ作り或ハ公證人ノ媒介ヲ以テ作ル（商法典第七十九條）

第十三問 商法典ノ定ムル所ニ據レハ（商法典第二百二十二條）保險契約書ニハ左ノ件々ヲ記スル者トス

一 契約ヲ爲シタル日ノ日附並ニ午前若クハ午後ノ附記○抑モ日附ハ契約ヲ爲ス時ニ保險セラレタル物件ノ滅盡若クハ到着ヲ被保人又ハ保險人カ既ニ知りタリシヤ否ヲ知ランカ爲メ（商法典第二百六十五條以下）又何者カ最後ノ保險ニシテ數多ノ保

二 險アリテ保險セラレタル物件ノ價額ヲ超過スル場合ニ於テ取消サルヘキ者タルヤヲ知ランカタメニ（商法典第二百五十九條緊要ナル者タリ）

三 結約者ノ姓名及ヒ身分、殊ニ保險ヲ爲サシムル者ノ姓名住所及ヒ所有者ナルヤ又ハ仲買ナルヤノ身分
船舶ノ名又ハ指定

四 船長ノ姓名（原註）ルウアレ即チ亞細亞西岸ノ地亞米利加ノ海岸及ヒ世界ノ其他ノ地ニ於テ歐洲ニ向ケテ荷積ヲ爲セシカ故ニ何船ニ物品ヲ積入レシヤヲ詳知セサルキト雖モ何船ニ荷積セシヲ問ハス之ヲ保險セシムルヲ得ルナリ而シテ後チニ保險ノ屬スル船舶ヲ指定スル書面ヲ「Avenant d'application」ト名ツク

五 商品ヲ積入レ又ハ積入ルヘキ地
船舶ノ出發シタルヘキ又ハ出發スヘキ港、船舶ニ積荷スヘキ又ハ船舶ヨリ荷卸スヘキ港、船舶ノ入ルヘキ港、

六 七 保險セシメタル商品又ハ物件ノ性質價額又ハ評價額商法典第三百二十七條ニ從ヒ歐洲ニ向ケテ世界ノ他ノ部分ニ於テ爲シタル積荷ニ付テハ別段ナリ
八 危險ノ始マリ及ヒ終ルヘキ時期

九 保險ヲ爲シタル程度ノ金額

十 保險料

十一 若シ之ヲ約定セシキハ訟争アル場合ニ於テ結約者ハ仲裁人ノ裁判ニ従フ事(原註) 結約者カ其訟争ヲ仲裁人ノ裁判ニ付スルヲ約束スル契約ヲ名ケテ「Clause compromissoire」即チ仲裁約條ト云フ仲裁約條ハ保險ノ事件ニ付テハ之ヲ爲スヲ明ニ允許セラレタリ然レモ千八百五十六年ノ法律ヲ以テ會社員間ノ訟争ニ關シテ強制仲裁々判ヲ廢セシ以來ハ會社ニ關スル事件ニ付キ之ヲ爲スヲ允許セラル、ヤ否ニ付テハ議論頗ル紛々タリキ而シテ學者大概此約條ハ會社ノ事件ニ付テハ有効タラスト論定セシヨハ我輩既ニ之ヲ言ヘリ

其他一般ニ結約者カ約條シタル條件(原註)保險契約書中ニ記入スル約款ハ所々ノ港ニ從テ相異ナレリ然レモ千八百七十三年巴里ニ會合シタル保險人ノ會議ニ引續キテ二箇ノ一定ノ規則ヲ決定セリ即チ一箇ハ船體ニ就テノ保險ニ關スル者ニシテ他ノ一箇ハ噸量ニ就テノ保險ニ關スル者タリ此二箇ノ規則殊ニ船體ノ保險ニ關スル規則ハ佛蘭西ノ過半ノ港ニ於テ採用セラレタリ 保險契約書ニハ空白ヲ置クヲ得ス

保險契約書ハ多クハ無記名ノ者ナリ而シテ時トシテハ記名ノ者モアリ又世人ハ其約束ノ者タルヲ得ルヲ認許スト雖モ商法典ニハ此事ニ付キ更ニ定ムル所アルヲ見ス 唯一ノ保險契約書ニシテ數多ノ保險ヲ記スルヲ得而シテ若クハ保險セラレタル商品ノ異別ナルヲ若クハ保險料ノ高ノ異別ナルヲ若クハ保險人ノ異別ナルヲ問ハサルナリ(商法典第三百二十三條(原註)保險契約書ニハ面積ノ印稅ヲ科ス(千八百五十年六月五日ノ法律)其他總テノ海上保險契約書ニハ保險料ノ全額ニ就テ百法ニ付キ五十「サンチム」ノ稅ヲ科ス(千八百七十一年八月二十三日ノ法律第六條)此收稅アルカ故ニ登記ノ方式ハ無費用ニテ之ヲ行フ)

三 契約ノ目的

保險契約ノ目的ニ關スル規則ハ重モニ保險セラレ得ヘキ物件又ハ保險セラレ得ヘカサル物件ニ付キ保險物件ノ陳述及ヒ評價ニ付キ危險ノ時期ニ付キ定ムル者タリ

○保險セラレ得ヘキ物品

既ニ言ヘルカ如ク保險契約ハ被保人ノ爲メニハ損失ヲ担任セシムルノ手段ニシテ得益ヲ爲スノ手段ニ非サルヲ以テ此契約ノ結局スル所失フノ危險ニ遭遇スルノ恐レアル物件ヲ保險セシムルヲ得ルニ在リテ希望シ得ル所ノ得益ヲ保險セシムルヲ得ルニ在ラサルナリ

保險ハ船舶又ハ其積荷ニ就テ爲スヲ得之ヲ再言スレハ船體又ハ噸量ニ就テ爲スヲ得ルナリ

第十五問 商法典第三百三十四條ノ法文ニ從ヘハ保險ハ左ノ件々ヲ以テ目的トナスヲ得ルナリ

- 一 空虛ナルト積荷シタルト、船具ヲ裝置セルト、裝置セサルト一艘ナルト他船ヲ伴ヒタルトニ拘ハラズ船舶ノ船體及ヒ船身
 - 二 船具及ヒ器具
 - 一 織裝物
 - 一 飲食料
 - 一 冒險シテ貸付セシ金額
 - 一 航海ノ危險ヲ受クル積荷ノ商品及ヒ其他總テ代金ニ評價スルヲ得ヘキ物件又ハ有價物(原註海上保險ノ事項ニ於テ人ノ生命ヲ保險スルヲ得ル乎千六百八十一年ノ勅令ヲ以テ此保險ヲ禁セリ而シテ吾人一般ニ商法典第三百三十四條ノ終末ノ法文ハ暗ニ此禁令ヲ含蓄スト論定セリ但此禁令ハ實際人ノ許ス所トナラサリキ然レモ吾人ハ千六百八十一年ノ勅令ニ從ヒ人ノ自由ヲ保險シ得ルヲ認許セリ)
- 保險ハ右ノ物件ノ全部若クハ一部ニ付テ爲スヲ得又物件ヲ合併シ若クハ之ヲ各別ニシテ

爲スヲ得ルナリ(商法典第二百二十五條)

被保人ハ保險料即チ保險ノ費額ヲ保險セシムルヲ得又保險料ノ保險料ヲモ保險セシムルヲ得ルナリ(商法典第二百四十二條)故ニ例ヘハ被保人カ保險料百法ニ付キ十法ノ割ヲ以テ百法ノ價額ヲ保險セシムル時變災アル場合ニ於テハ取モ直サズ百法ノ金額ヲ受收スヘシ然レモ被保人ハ保險料ノ名義ニテ拂込ミタル十法ノ金額ニ付テハ安心スル所無カルヘシ此ニ於テ被保人ハ此十法ナル保險料ヲ百ニ付キ十ノ割ニテ即チ一法ヲ以テ第二ノ保險人ニ保險セシメ變災ノ場合ニ於テ此第二保險人ヨリ十法ヲ受收スヘシ然リ而シテ被保人ハ保險料ノ保險料ナル此一法ニ付テハ尙ホ未タ安心セサルヘシ仍テ被保人ハ此一法ヲ百ニ付キ十ノ割ニテ則チ十「サンチーム」ヲ以テ第三ノ保險人ニ保險セシムルヲ得ルナリ斯ノ如ク順次ニ保險ヲ爲サシムルモ變災ノ場合ニ於テ被保人ノ受クル危險ハ始ント微々タル者ナルヘシ又被保人ハ最モ簡單ナル手續ヲ用テ一切ノ損失ヲ豫防スルヲ得ルナリ即チ被保人カ一人ノ保險人ニ保險料及ヒ保險料ノ保險料ヲ保險セシムルト是ナリ此場合ニ於テハ被保人ハ若シ保險物件ノ安全ニ到着スルニ於テハ更ニ巨額ノ保險料ヲ拂ハンコトヲ約諾シ保險人ハ若シ變災アルニ於テハ保險料ヲ扣除スルコトモ無ク又之ヲ留置スルコトモ無クシテ保險セラレタル金額ノ全額ヲ辨濟センコトヲ約諾スルモノトス

保險人モ亦其順番ニ於テ更ニ他ノ保險人ナシテ其受クヘキ危險ヲ全部ナリ一部ナリ保險セシムルヲ得ルナリ再保險料ハ保險料ニ比スレハ更ニ多額ナルコトアリ或ハ更ニ少額ナルコトアリ(商法典第三百四十二條)

○保險セラレ得サル物件

第十七問 人ハ失フノ危險ニ露サレタル物件ヲ保險セシムルヲ得ルモ希望シ得ル所ノ利益ヲ保險セシムルヲ得スト云フ原則ヨリシテ保險契約ハ左ノ件々ヲ目的トスルコトヲ得サルノ結果ヲ生ス

一 船舶ノ上ニ存在スル商品ニ付キ得ヘキ船舶借賃ヲ保險スルヲ得ルナリ實ニ(商法典第三百二條ニ因レハ變災ノ場合ニ於テハ前拂シタル船舶借賃ハ還給セサルヘキ旨ヲ要約スルコトヲ得ルナリ此場合ニ於テハ船舶借賃ヲ前拂ヒスル者ニ取テハ失フノ危險アリトス依テ此船舶借賃ヲ保險セシムルヲ得ルナリ其他機裝人ハ既得ノ船舶借賃ヲ保險セシムルヲ得ヘシ何トナレハ機裝人ハ委棄ノ場合ニ於テ之ヲ失フコトアルヘケレハナリ○英吉利、和蘭、合衆國ニ在テハ得ヘキ船舶借賃ニ付キ實際保險ヲ行フ佛蘭西ニ在テハ此保險ヲ禁スル法律ヲ免カレンカ爲メ荷主ニ變災ノ場合ト雖モ船舶借賃ヲ拂フヘキヲ約諾セシメ以テ其費用ニテ此船舶借賃ヲ保險セシム

第十六問

- 一 商品ニ付テ希望シタル利益(原註實際ニ於テハ法律ヲ免カレンカ爲メ百ニ付キ十ノ割合ニテ商品ノ評價額ヲ増加ス)
 - 一 水夫ノ雇賃抑モ水夫ヲシテ船舶ノ安全ニ付テ利益セシメント欲スルニ於テハ彌々水夫ノ雇賃ヲ保險セシムル可カラス況ンヤ滅盡破壊難難船ノ場合ニ於テハ此雇賃ヲ拂フヲ要セサルニ於テナヤ(商法典第二百五十八條)
 - 一 冒險契約ヲ以テ借入レタル金額、何トナレハ此金額ハ借主ノ危險ニ於テ在ラサレハナリ(原註然レモ貸付シタル金額ヲ其危險ヲ受クル貸主ノ利益ニ於テ保險スルコトヲ得ルナリ(商法典第三百三十四條)
 - 一 冒險契約ヲ以テ貸付シタル金額ノ海上得益(商法典第三百四十七條)
- 會社ハ右等ノ禁制ニ拘ハラズ名譽保險契約ト名ツクル保險契約ヲ以テ商法典ガ保險スルコトヲ禁スル物件ヲ保險スルコト往々ニシテ是有リ名譽保險契約ト名ツクル所以ハ其契約ノ履行ハ之ヲ約諾者ノ名譽及ヒ好意ニ任スルカ故ナリ而シテ法律ノ宣告スル無効ハ之ヲ避クルコトヲ得ス何トナレハ此無効ハ公安ニ關スル理由ニ根基スレハナリ(原註千八百七十五年一月ヲ以テ提出セラレタル法律草案ハ下ノ件々ヲ保險スルコトヲ總テノ關係人ニ許セリ即チ爲スヘキ船舶借賃、商品ニ付テ希望シタル利益水夫ノ雇賃冒險契約ヲ以テ貸付シタル金額ノ海上

上得益是ナリ

我輩ハ將サニ海上ノ危險ヲ受クル物ノ高ヨリ更ニ少額ヲ以テ之ヲ保險スルヲ得ルモ更ニ多額ヲ以テ之ヲ保險スルヲ得サルヲ研究セントス

○保險セラレ、物件ノ陳述及ヒ評價

既ニ言ヒシ如ク保險契約書ニハ保險セシムル商品又ハ物件ノ性質、價額、評價額ヲ記セサル可ラヌ〔原註〕商品ナルウツノ市場亞非利加ノ海岸及ヒ世界ノ其他ノ部分ニ於テ歐洲ニ向ケテ積入レタルキハ之ヲ其性質及ヒ其種類ヲ指定セスシテ保險スルヲ得ルハ本文ノ例外ナリトス○一般ニ積入レ得ヘキ總テノ商品ニ就キ或ル金額ヲ保險セシムルヲ往々ニシテ之レ有リ斯ル時ニハ未定ノ保險契約書ヲ作り而シテ保險ノ効ハ唯々訂正書ヲ以テ逐次ニ爲シタル物料ノ陳述アルニ從テ自ラ生スルノミ此訂正書ハ保險セラレタル物件ヲ確詳ナラシムル者タリ

保險セラレタル物件ノ評價ニ付キ詐欺アル場合及ヒ假設若クハ變造アル場合ニ於テハ保險人ハ物件ノ審査及ヒ評價ノ手續ヲ爲サシムルヲ得ルナリ但シ其他民事上若クハ刑事上ノ訴訟ト相抵觸スルヲ無カルヘキナリ〔商法典第三百二十六條〕

凡ソ物件ニシテ其代價カ契約中書ニ外國ノ貨幣ヲ以テ約定セラレタル者ハ其約定セラレタ

ル貨幣カ保險契約書ノ調印ノ時ニ於ケル相場ニ從ヒ佛蘭西ノ貨幣ニテ價スル代價ニ直積リセラレ、ナリ〔商法典第三百二十八條〕

若シ商品ノ價額カ契約書ヲ以テ定メラレサルハ〔斯ル時ニ於テハ〕保險契約書ノ直積リシタル者ト反對シテ保險契約書ハ直積リセラレサル者ト云フ其價額ハ勘定書又ハ帳簿ヲ以テ證明セラル若シ勘定書又ハ帳簿在ラサルキハ荷積ノ時ト其場所トニ於ケル時價ニ從テ評價ヲ爲ス但シ船中ニ積入ル、迄ニ拂ヒタル税金及ヒ費用ハ其評價中ニ算入スルモノトス〔商法典第三百二十九條〕

若シ物ト物トノ交換ノミニ依テ商業ヲ爲ス國ヨリノ歸路ニ於テ保險ヲ爲シ而シテ保險契約書ニ商品ノ評價ヲ爲サ、ルキハ交換ニ於テ與ヘタル商品ノ價ニ據テ其保險ヲ規定ス但運送ノ費用ヲ其價額ノ加入スルモノトス〔商法典第三百四十條〕

船長ノ指令スル船舶ニ其船長ノ計算ノ爲メ積入レテ保險セシメタル商品ノ滅尽シタル場合ニ於テハ船長ハ保險人ニ其商品ノ買入ヲ證明シ且ツ乗組人中重立チタル者二名ノ調印シタル積荷目錄ヲ差出スヘシ〔商法典第三百四十四條〕

第十九問 佛蘭西ニ於テ保險セラレタル商品ヲ外國ヨリ持來ル乗組人及ヒ旅客ハ其積入ヲ爲シタル地ニ於テ佛蘭西領事ノ手中ニ其積荷目錄ヲ渡シ置ク可シ若シ領事ノ在ラサルニ於テハ之ヲ重

立チタル佛蘭西商人若クハ其地ノ裁判官ノ手中ニ渡シ置ク可シ(商法典第二百四十五條)
 保險契約ハ元來善意ノ契約タリ仍テ凡ソ被保人ニ在テ其陳述ス可キ事ヲ隱秘シ又ハ虛妄ノ
 陳述ヲ爲シ及ヒ總テ保險契約書ト積荷目録トノ間ニ相違アリテ危險ヲ其實ヨリ更ニ小弱ナ
 ル者ト思ハシメ又ハ危險ヲ受クル其物ヲ變更セシメタルキハ保險契約ヲ取消ス陳述スヘキ
 キ事ノ隱秘虛妄ノ陳述ハ又相異カ保險セラレタル物件ノ損害又ハ滅盡ニ影響ヲ及サ、リシ
 場合ニ於テモ其保險ヲ無効ナリトス(商法險第二百四十八條)

○危險ノ時期

保險ハ平時又ハ戰時若クハ船舶ノ航行前又ハ航行後ニ之ヲ爲スヲ得ヘク又往復ニ付キ又ハ
 往復中ノ一方ニ付キ若クハ航行時間ノ全部ニ付キ又ハ定限シタル時間ニ付キ之ヲ爲スヲ得
 ヘク又海川及ヒ舟ヲ通スヘキ運河ニ依レル總テノ航行及ヒ運送ニ付キ之ヲ爲スヲ得ヘ
 シ(商法典第二百三十五條)

第二十問 若シ保險契約書ニ保險ノ時期ヲ規定セカリシ時ハ其危險ハ冒險貸借契約ノ爲メ商法典第三
 百二十八條ニ定メタル時期ニ始マリ及ヒ終ルモノトス之ヲ再言スレハ危險ノ時期ハ船體ニ
 關シテハ船舶ノ出帆セシ日ニ始マリテ船舶ノ差向ケラレタル港又ハ地ニ卸碇シ又ハ繫止セ
 ラレタル日ニ終リ噸量即チ商品ニ關シテハ之ヲ船舶ニ積入レ又ハ之ヲ船舶ニ運搬スル爲メ

小艇ニ積入レタル日ニ始マリテ之ヲ陸揚ケスル日ニ終ルナリ(商法典第二百四十一條)(原
 註佛蘭西ノ保險契約ニ依レハ危險ハ商品ヲ船舶ニ積ミ懸リタル時ヨリ始マリテ船舶カ其
 差向地ニ卸碇シ又ハ繫止セラレタル日ヨリ十五日ノ後ニ至テ終ルモノトス)

若シ船長カ積荷ヲ補充シ又ハ交換スル爲メ噸箇ノ港ニ入ルノ自由(市場ニ立寄ルノ權能)ヲ
 有スルキハ保險人ハ其保險シタル物品ノ船中ニ在ル時ノミ其物品ノ保險ヲ爲ス者トス但シ
 之ニ反スル契定アルキハ別段タルヘシ(商法典第二百六十二條)

若シ保險人カ危險ノ未ダ終ラサル時ニ當テ分散ヲ爲シタルキハ被保人ハ保證人ヲ立ツヘキ
 又ハ契約ヲ取消スヘキヲ訟求スルヲ得○保險人モ被保人ノ分散ヲ爲セシ時ハ右ニ同
 シキ權利ヲ有ス(商法典第二百四十六條)

第二款 保險人及ヒ被保人ノ義務

一 保險人ノ義務

第二十一問 保險人ハ其擔任スル事變ニ因テ生スル滅盡及ヒ損害ニ付キ被保人ニ賠償ヲ爲サ、ル可
 ス

二 保險人ノ責任

商法典第二百五十條ニ從ヘハ保險人ハ左ノ件ニ付キ責ニ任ス

風波、難船、暗礁、沙江ノ乗揚、意外ノ衝突、止ムヲ得サルニ出テタル航路、航行船舶ノ變易、投荷、火災、捕拿、掠奪、或國ノ命令ニ因レル差留、交戰宣告、敵ノ復讐、及ヒ一般ニ其他總テノ海上ノ事變ニ因テ保險セラレタル物件ノ上ニ生シタル滅失及ヒ損害
保險人ハ左ノ件々ニ付キ責ニ任セス

- 一 被保人ノ所爲但シ之ニ反スル約定アルニ拘ハラサルナリ(商法典第三百五十一條)
- 一 所有者船舶賃借人又ハ荷主ノ所爲及ヒ過失ヨリ生シタル損害(商法典第三百五十二條)
- 一 船舶指令者ノ詐欺ノ名ヲ以テ知ラレタル船長及ヒ乗組人ノ讀職及ヒ過失、但シ之ニ反スル約定アルキハ別段タルヘシ(商法典第三百五十三條(原註)路易第十五世路易王ノ勅令ヲ見ルニ鼠ヲ捕ヘシムル爲メ若干ノ猫ヲ乘船セシメント欲セシモノ、如シ保險人ハ此事ニ關シテ船長ノ懈怠ニ付キ自ラ責ニ任セサルヤ明カナリ)
- 一 物件ノ固有ノ瑕瑾ニ因テ生シタル損敗減少滅尽(商法第三百五十二條)
- 一 引水税、曳船税、水先案内税ノ如キ航行ノ通常ノ費用並ニ船舶及ヒ商品ニ課セラレタル税ノ總テノ種類(商法典第三百五十四條(原註)實際ニ於テ保險契約書ニハ先ツ平時ノ保險ト戰時ノ保險トヲ區別ス平時ノ危險ハ保險人之レヲ當然担保シ戰時

ノ危險ハ明約アルニ非サレハ之ヲ担保セス保險契約ハ一般ニ船舶指令者ノ詐欺ヲ担保ス)

○保險人ノ爲スヘキ賠償

保險人カ被保人ニ賠償ヲ爲スニ付キ履行スヘキ義務ハ契約ノ文面ニ從ヒ多少廣狹アルヘシ
保險ハ無制限タルヲ得又ハ被保人ノ要求シ得ル所ノモノ、最上額タル或ル定マリタル金額ニ限定セラレ、トヲ得ルナリ
故ニ例ヘハ保險人ハ船舶ノ出發ノ時ニ有價物ヲ保險スルヲ得ルノミナラス航行間ニ爲スヲアルヘキ費用ヲ豫察シテ之ヲ保險スルヲ得ヘシ即チ保險人ハ被保人ノ損失ヲ受クヘキ総テノモノヲ保險スルヲ得ルナリ

第二十二問

保險人ノ責任ニ付キ數箇ノ制限ヲ設ク而シテ保險人ハ或ハ保險ニ付キ全ク責ヲ免カレ或ハ唯々保險ノ一部分ニ付キ責ニ任ス

保險人ハ左ノ場合ニ於テハ全部ニ付キ保險ノ責ヲ免カル

- 第一 性質ニ因テ格別ノ損敗又ハ減少ヲ受クヘキ商品(例ヘハ麥又ハ鹽ノ如キ物)若クハ流出シ易スキ商品ヲ保險契約書中ニ指定セサル時但シ被保人カ保險契約書ニ署名

スル時ニ當リ其積荷ノ性質ヲ知ラザリシキハ別段タルヘシ(商法典第三百五十五條)

第二 若シ被保人ノ方ニ詐欺詐害アリシニ於テハ保險セラレタル金額カ保險セラレタル物件ノ價額ヲ超過スル時(商法典第二百五十七條)此場合ニ於テハ所謂ユル保險人ノ利益ノ爲メニ保險契約ノ解除アル者ナリ保險人ハ之ニ因テ危險ヲ避ケテ而シテ保險料ハ猶ホ之ヲ要求スルノ權利ヲ保存ス(原註)若シ保險人カ架空ノ申述タルヲ知了シテ之ヲ承諾セシキハ契約ハ若クハ其目的ナキニ因リ(民法典第千八百八條)若クハ其賭博ニ類スルニ因リテ(民法典第千九百六十五條)絶對的無効タリ而シテ保險人ハ何レノ場合ニ於テモ保險料ヲ存留スルヲ得ス)

第三 物件カ既ニ其總テノ價額ニ付キ一箇ノ保險ノ目的トナリシ時此場合ニ於テハ其後ノ保險ハ無効ト觀定セラレ保險人ノ利益ノ爲メ保險契約ノ解除アリトス而シテ其後ノ保險ノ成立スルノ理ナキカ故ニ其責ヲ免カレタル其後ノ保險人ハ賠償ノ名義ヲ以テ保險セラレタル金額ノ百ニ付半ヲ要求スルノ權利ヲ有ス(商法典第三百五十九條)

第四 保險ヲ爲シタル時間ノ終了ノ後(商法典第三百六十二條)

第五 航行ヲ短縮スルキハ保險契約ノ総テノ効果ヲ其儘成立セシムト雖モ之ニ反シテ被保人カ保險契約書ニ指定セシ地ヨリ更ニ遼遠ノ地ニ船舶ヲ送リタルキ(商法典第三百六十四條)

第二十三 保險人ハ左ノ場合ニ於テハ唯々一部分ニ付テノミ保險ヲ担当ス

第一 一部ノ減尽ノ場合此場合ニ於テ若シ積入レタル物件カ保險セラレタル金額ノハ高ト同シキ價額ヲ有スルニ於テハ保險人ハ唯々被保人ノ受ケタル損害ノ限度ニ在テノミ其責ニ任ス而シテ若シ數多ノ保險人カ該金額ヲ各自其或ル定マリタル部分ニ付テ保險セシトキハ其保險人ハ各自ノ關係高ニ割合ヒテ其賠償ヲ爲スヘキナリ(商法典第三百六十條)

第二 保險セラレタル物件ノ價額ヨリ以下ノ金額ニ付キ保險ヲ爲シタル場合、何トナレハ被保人ハ其差高ニ付テハ己レ躬ヲ保險人タレハナリ故ニ若シ百法ノ價値アル物件カ八十法ヲ以テ保險セラレタリトセン歟保險人ハ其半分ノ減盡ノ場合ニ於テハ唯四十法ヲ辨濟スルノミ(商法典第三百七十一條)

第三 右ノ場合ニ反シ保險セラレタル物件ノ價額ヨリ以上ノ金額ニ付キ保險ヲ爲シテ而シテ被保人ノ方ニ詐欺モ詐害モアラザリシ場合、此場合ニ於テハ保險人ハ唯々其

物件ニ付キ爲シ又ハ約定シタル評價ニ從ヒ其物件ノ價額ニ充ツル迄ノミ其責ニ任
 ス而シテ保險人ハ剩餘ノ價額ノ保險料ヲ受取セスト雖モ百ニ付半ノ賠償ヲ要求ス
 ルノ權利ヲ有ス何トナレハ被保人ノ方ニ過失アレハナリ〔商法典第三百五十八條〕

第四 別々ニ保險セラレタル商品カ之ヲ積入ル、爲メニ指定セラレタル若干ノ船舶ニ積
 入レテレサリシ時此場合ニ於テハ保險人ハ指定セラレタル總テノ船舶ノ滅失ニ拘
 ハラス唯々積荷ヲ受ケタル船舶ノ各箇ニ付キ保險シタル金額ニ付テノミ責ニ任シ
 且ツ保險ノ取消サレタル金額ノ百ニ付キ半ヲ受取ス〔商法典第三百六十一條〕

二 被保人ノ義務

第二十一
問ノ二

被保人ノ重ナル義務ハ保險料ヲ拂フニ在リ
 然レモ危險料ハ保險ノ代價タルカ故ニ假令ヒ被保人ノ所爲ニ出ルト雖モ船舶ノ出帆以前ニ
 航行ヲ止メタルモ被保人ハ保險料ヲ拂フヲ要セス然ルニ保險契約ハ此場合ニ於テ保險人
 ノ所爲ニ因ルヲ無クシテ取消サル、ヲ以テ保險人ハ賠償ノ名義ニテ保險セラレタル金額ノ
 百ニ付キ半ヲ要求スルノ權利ヲ有ス〔商法典第三百四十九條〕

往復ノ爲メニ保險ヲ爲シ而シテ船舶ノ其最初ノ差向地ニ到達シタル上ニテ歸路ノ積荷ヲ爲
 サス又ハ不充分ナル積荷ヲ爲シタル時ハ或ル限度ヲ以テ保險料ヲ減殺ス此場合ニ於テハ保

險人ハ唯々約定シタル保險料ノ割合ヲ以テ其三分ノ二ノミヲ受取ス但シ之ニ反スル約束ア
 ルモ別段タルヘシ〔商法典第三百五十六條〕

被保人ハ保險料ヲ拂フノ義務ノ外左ノ義務ヲ負フ

第一 保險セラレタル物件ノ受ケタル事變ヲ保險人ニ通報スヘキ事〔商法典第三百七十
 四條及ヒ第三百九十條〕

第二 變災ヲ證明シ及ヒ變災ヲ受ケタル物件ノ量高及ヒ價額ヲ証明スルヲ〔商法典第三
 百八十三條〕

○保險人及ヒ被保人ノ義務ノ上ニ無危險ノ影響

原理ニ於テハ保險契約書ニ署名スル時ニ當リテ眞個ノ保險アルニ非サレハ保險契約ハ成立
 セサルモノトス

然レモ假想ノ保險アルモ結約者ノ義務ヲ生セシムルニ足ル仍テ保險セラレタル物件ノ滅
 盡ノ後又ハ其安着ノ後ニ善意ヲ以テ一箇ノ保險ヲ契約セシキハ此保險ハ有効タルヘシ

第二十四 問
 保險契約ノ無効ハ結約者カ既ニ危險アラサルヲ知リタリト云フ證據ニ關スル者タリ之ヲ
 再言スレハ保險人ニ在テ保險ハセラレタル物件ノ安全ニ到着シタリシヲ知リ被保人ニ在
 テハ其滅盡シタリシヲ知レリト云フ證據ニ關スル者タリ

法律ハ此事ニ付キ一箇ノ推測ヲ設定シ結約者未タ保險契約書ニ署名セサル前既ニ保險セラレタル物件ノ滅盡若クハ到着ヲ知ルヲ得タリト云フ一事ヲ以テ契約ノ無効ヲ宣告ス(商法典第三百六十五條)

第二十五 問 若シ一時ゴトニ「ミリアメートル」ノ四分ノ三ヲ計算シテ滅盡若クハ到着ノ消息カ契約書署名ノ地ニ達スルヲ得タリトノ證アルキハ此推測ハ成立ツ者トス(商法典第三百六十六法條)律ハ斯ノ如クシテ消息カ毎時「リユウ」半ノ距離ヲ通過シタリト假定スル者ナリ故此推測ヲ名ケテ毎時「リユウ」半ノ推測ト云フヲ得ヘキナリ

第二十六 問 此推測ヲ避クルノ手段ハ隨分習慣ニ於テ行ハル、所ノ一箇ノ條款ヲ契約書中ニ記入スルニ在リ而シテ此條款ハ善キ消息若クハ悪キ消息ニ付キ保險ヲ爲ス旨ヲ約定スル者ナリ此場合ニ於テハ契約書署名以前ニ保險人ノ到着ヲ知リ被保人カ滅盡ヲ知リタルノ証アルニ非サレハ契約ヲ取消サス(商法典第三百六十七條)

若シ保險人ニ對シテ此証アルキハ保險人ハ約定シタル保險料ノ二倍ノ金額ヲ被保人ニ辨濟セサル可カラズ若シ又被保人ニ對シテ此証アルトキハ被保人ハ二倍ノ保險料ヲ保險人ニ辨濟セサル可ラス但シ保險人又ハ被保人ノ中ニテ此証ヲ立テラレタル者ハ懲治上ノ起訴ヲ受クヘシ(商法典第三百六十八條)

第二款 委棄

保險人ナシテ責任ヲ約束セシムルヲ得ル事變ハ或ハ大變災タルコトアリ或ハ大變災ノ性質ヲ有セシテ小變災ト名ツクヘキ事變タルコトアリ(商法典第三百六十九條及ヒ第三百七十一條)

第二十七 問 大變災ト他ノ事變トヲ區別スルヲ要スル處ノ觀點二箇アリ

第一 大變災ノ場合ニ於テハ被保人ハ下ノ選擇權ヲ有ス即チ或ハ保險人ヲシテ約定ノ金額ノ全額ヲ己レニ辨濟セシメ以テ保險セラレタル物件ヲ委棄スル乎或ハ運輸損害ノ訴權ニ依テ其受ケタル損害ニ割合ヒタル賠償ヲ請求スル乎ノ選擇ヲ爲スノ權利是レナリ

此他ノ場合ニ於テハ被保人ハ委棄ヲ行フヲ得ス而シテ唯々運輸損害ノ訴權ヲ有スルノミ

第二 大變災ノ場合ニ於テハ運輸損害ヲ免カル、旨ノ條款アリト雖モ保險人ハ其責ヲ免カレズ而シテ被保人ハ常ニ委棄ト運輸損害ノ訴權トヲ擇取スルヲ得ルナリ(原註)一般ニ委棄ハ被保人ニ取テ一層利益アリ然レモ運輸損害ノ訴權ハ下ノ諸點ニ於テ更ニ優レリトス第一時効ノ點即チ運輸損害ノ訴權ニ付テハ時効ハ五年ニシテ

委棄ニ付キテハ六ヶ月乃至十八箇月ナリ(商法典第二百七十三條及第四百三十二條)第二結果ノ點即チ被保人ハ運輸損害ノ訴權ニ於テハ救留メラレタル商品ノ運送賃ヲ留置スルモ委棄ニ於テハ之ヲ拋棄セサルヲ得ス(商法典第二百八十六條)

此他ノ場合ニ於テハ運輸損害ヲ免カル、旨ノ條款アルキハ保險人ハ共通ノ運輸損害ニ關スルト特別ノ運輸損害ニ關スルトチ問ハス總テノ責任ヲ免カル(商法典第四百九條)

運輸損害ニ關スル規則ハ次卷ノ目的トスル所タリ我輩ハ此ニ委棄ノ事項ヲ研究スルニ止マル者ナリ

委棄トハ被保人カ保險セラレタル物件ノ上ニ有スル權利ヲ保險人ニ拋棄シ保險人チシテ要約シタル金額若クハ保險セラレタル物件ノ價額ヲ全部辨濟スルノ責ニ任セシムル所ノ契約ナニ云フ

委棄ハ保險契約ノ質ニ反スル者ノ如シ何トナレハ委棄ハ保險人ニ滅失シタル物件ニ付キ賠償ヲ爲スノ義務ヲ負ハシムルノミナラス保存セラレタル物件ヲ保險人ニ強テ獲得セシメ以テ其價額ヲ辨濟スルノ義務ヲ負ハシムルカ故ナリ

此拋棄ノ權能即チ委棄ハ海上ノ事件ニ付テハ變災ヲ免カレタル物件ノ景狀及ヒ價額ニ關シ

テ爭論訴訟ヲ避ケンカ爲メ法律ノ允許スル所ノモノタリ運輸損害ヲ算定スルニ付テハ關係人動モスレハ頗ル多數ナル以テ爭訟ハ從テ更ニ之ヲ避ケサルヘカラサルナリ

委棄ハ保險人ノ爲メ甚タ損失アル者タルヲ以テ法律ハ委棄ヲ生スルコトアルヘキ事變ト委棄ヲ爲スニ付キ守ルヘキ條件ト委棄ヨリ生スル効トヲ規定セリ

一 委棄ヲ生スルコトアルヘキ事變

委棄ヲ生スルコトアルヘキ大變災ノ場合ハ商法典第二百六十九條ニ之ヲ揚載セリ該條ニ豫定セル事變左ノ如シ

第二十九問

一 掠奪

一 難船

一 暗礁暗沙ニ乗上ケテ船舶ノ破損スル事

一 海上ノ事變ニ因テ船舶ノ航行ス可ラサル事

一 或國ノ命令ニ因レル差留

一 保險セラレタル物件ノ滅盡若クハ損敗但其滅盡又ハ損敗ノ少クモ四分ノ三タル時

委棄ヲ生スル所ノ此等ノ場合ニ下ノ一箇ノ場合ヲ附加セサル可カラス即チ通常ノ航行ナルト遠路ノ航行ナルトニ從テ船舶ノ出帆以後一箇年又ハ二個年ヲ經過シテ消息ナキ時はナリ

何トナレハ此場合ニ於テハ滅盡ノ推測セラル、カ故ナリ〔商法典第三百七十五條〕

委棄ノ總テノ場合ハ原則ニ於テハ船舶ト積荷トニ於テ共通ノ者ナリ

然レモ船舶ノ航行ス可ラサル場合ニ於テハ左ノ區別ヲ爲サ、ル可ラス

船舶ノ航行ス可ラサル事ハ船體ニ關スル保險ヲ終ル者ニシテ被保人ハ船舶ノ委棄ヲ爲ス

ヲ得ルナリ

商品ニ關シテハ法律ハ委棄ヲ避クルノ目的ヲ以テ商品ノ運送ヲ行フ爲メ及ヒ商品ヲ其差向

地ニ到達セシムル爲メ必要ナル處分ヲ規定セリ

此事ニ付テハ船長ハ商品ヲ其差向地ニ運送スル爲メニ他ノ船舶ヲ得ルニ付キ總テノ盡力ヲ

爲サ、ル可ラス〔商法典第三百九十一條〕船長カ他ノ船舶ヲ得タルニ於テハ保險人ハ商品ノ

到達シテ之ヲ荷卸スルニ至ル迄引續キテ危險ヲ擔任ス〔商法典第三百九十二條〕其他保險人

ハ其保險シタル金額ニ充ツル迄運輸損害、荷卸ノ費用、倉庫貯藏ノ費用、再度積入レノ費用、船

舶借賃ノ剩餘額及ヒ其他總テ商品ヲ救ヒ留ムル爲メニ爲シタル保險ヲ負担セサル可ラス

〔商法典第三百九十三條〕

船長カ第三百八十七條ニ定ムル期限内ニ商品ヲ更ニ積テ之ヲ其差向地ニ運送スル爲メノ船

舶ヲ見出スヲ得サル時ニ非サレハ被保人ハ其商品ノ委棄ヲ爲スヲ得ス〔商法典第三百

九十四條

委棄ノ總テノ場合ニ於テハ他ノ總テノ偶然ノ事故ノ場合ニ於ケル如ク被保人ハ其受ケタル

報告ヲ三日間ニ保險人ニ通達スヘシ〔商法典第三百七十四條第三百八十七條第三百九十條〕

此外ニ法律ハ委棄ノ影響ニ對シテ保險人ヲ保護スル爲メニ二三ノ規則ヲ設ケタリ法律ハ保

險人ノ利益ノ爲メ事務管理ノ所爲ヲ命令ス

故ニ例ヘハ難破船ノ場合又ハ暗礁暗沙ニ乗上ケテ船舶ノ破損スル場合ニ於テハ被保人ハ難

破ニ會ヒタル物件ヲ救留ムルニ勉勞セサル可ラス而シテ其救留ノ費用ハ被保人ノ確言ニ

從ヒ救留メラレタル物件ノ價額ニ充ツル迄之ヲ被保人ニ給與スルモノトス〔商法典第三百

八十一條

法律ハ船舶ノ航行ス可ラサル旨ノ申立ヲ避ケンカ爲メ暗礁暗沙ニ乗上ケタル船舶ヲ再ヒ引

出シテ之ヲ修復シ之ヲシテ其航路ヲ繼續スルノ景狀ニ復スルヲ得セシメサル時ニ非サレハ

委棄ヲ爲スヲ被保人ニ許サス但シ此場合ニ於テハ法律ハ其乗上ケノ爲メニ生シタル費用

及ヒ運輸損害ノ償ヲ保險人ニ對シテ要求スルノ權利ヲ被保人ニ貯存セシム〔商法典第三百

八十九條

或ル國ノ命令ニ因レル差留ノ場合ニ於テハ差留メラレタル物件ノ差留解除ヲ得ンカ爲メ或

ハ單獨ニテ或ハ保險人ト協力シテ總テノ盡力ヲ爲サ、ル可ラス(商法典第三百八十八條)
掠奪ノ場合ニ於テ被保人若シ保險人ニ其報告ヲ爲スヲ能ハサルキハ被保人ハ保險人ノ差圖
ヲ俟タスシテ物件ヲ贖戻スヲ得ヘシ而シテ被保人ハ其爲シタル贖戻ノ約定ヲ保險人ニ通
知スルヲ得ルヤ直ニ之ヲ通知セサル可ラス(商法典第三百九十五條)

此場合ニ於テハ保險人ハ贖戻ノ約定ヲ自己ノ計算ニ引受クル乎若クハ之ヲ拋棄スルノ選擇
權ヲ有ス保險人ハ贖戻約定ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間ニ其選擇ヲ被保人ニ告知セ
サル可ラス若シ保險人其贖戻約定ヲ自己ノ計算ニ引受クル旨ヲ陳述シタル時ハ猶豫ナク其
關係ノ割合ヲ以テ契約ノ文面ニ從ヒ其贖金ノ辨濟ヲ分担ス可シ而シテ保險人保險契約ニ從
ヒ引續キテ航行ノ危險ヲ担任ス若シ又保險人其贖戻約定ヲ拋棄スル旨ヲ陳述シタルキハ保
險人ハ其贖戻サレタル物件ニ付キ何等ノ物ヲモ得ント主張スルヲ得スシテ其保險シタル
金額ノ辨濟ヲ負担スヘシ若シ保險人右ニ記シタル期限内ニ自己ノ選擇ヲ告知セサルキハ其
贖戻ノ利益ヲ拋棄セシ者ト看做ス(商法典第三百九十六條)(原註此ニ注意スヘキハ保險契
約ハ委棄ノ場合ヲ制限スルコト是レナリ委棄ハ實ニ保險人ニ大ナル損害ヲ與フル者ナリ)

二 委棄ノ條件

第三十間 委棄ハ一部分ニ付テ爲スヲ得ス又未必條件ヲ以テ爲スヲ得ス

委棄ハ保險及ヒ危險ノ目的タル物件ノ上ニノミ之ヲ推及ホス者トス然レモ救留メラレタル
商品ニ付テノ船舶借賃ハ之ヲ前拂ニ爲シタルキト雖モ委棄ノ部分ニ加フ(原註前ニ此點ニ
付テハ運輸損害ノ訴權及ヒ其算定ヲ以テ更ニ優レル者トスト、云リ)此船舶借賃ハ保險人
ニ屬スルモノトス但シ航海ノ危險ヲ冒シテ金額ヲ貸付シタル者ノ權利、雇賃ニ付テノ水夫
ノ權利及ヒ航行間ニ爲シタル費用及ヒ費額ト相抵觸スルヲ無カルヘシ(商法典第三百八十
六條)

委棄ハ未タ航行ヲ始メサル前ニ之ヲ爲スヲ得ス(商法典第三百六十九條第三百七十條)之
ヲ再言スレハ保險ノ未タ發始セサル前ニ之ヲ爲スヲ得ス而シテ委棄ハ法律ニ定メタル期
限内ニ之ヲ爲スヘシ若シ此期限内ニ爲サ、ルキハ失權ノ罰アリトス此期限ハ距離ニ從テ或
ハ六ヶ月ナルコトアリ或ハ一ケ年ナルコトアリ或ハ十八ヶ月ナルコトアリ而シテ此期限ヲ起算スルニ
ハ或ハ滅盡ノ消息ヲ受ケタル時ヨリシ(商法典第三百七十二條)或ハ消息ノ絶止以後(通常
ノ航行ニ付テハ六ヶ月又遠路ノ航行ニ付テハ一ケ年)或ル定マリタル時間ノ修了セシ時ヨ
リス(商法典第三百七十五條及ヒ第三百七十六條)(原註千八百五十四年六月十四日ノ法律
ヲ以テ改正セラレタル商法典第三百七十七條ニ據レハ下ニ定ムル限界以外ニ爲シタル航行
ヲ遠路ノ航行ト看做ス一南ハ北緯三十度一北ハ北緯七十二度一西ハ巴里子午線ノ經度十五

度一東ハ巴里子午線ノ經度四十四度

委棄ノ期限ハ被保人ノ利益ノ爲メ定メタル者ナルヲ以テ被保人ハ期限ノ利益ヲ拋棄スルヲ得テ而シテ變災ノ消息ヲ被保人ニ通知スル証書ヲ以テ委棄ヲ爲スヲ得ルナリ〔商法典第三百七十八條〕然レモ或國ノ命令ニ因ル差留及ヒ船舶ノ航行スヘカテサルノ場合ニ於テハ被保人ハ必ス第三百八十七條ニ定メタル期限ノ終了ヲ俟タサル可ラス何トナレハ此等ノ場合ニ於テハ期限未タ終了セサル以前ニ委棄ノ原由ノ止息セサルヲナキヲ保セサレハナリ〔商法典第三百九十條及第三百九十四條〕

被保人ハ委棄ヲ爲スニ當リ其爲シ又ハ爲サシメタル總テノ保險ヲ申述シ又其指圖シタル保險ヲモ申述シ且ツ船舶ニ付キ若シハ商品ニ付キ航海ノ危險ヲ冒シテ借入レタル金額ヲ申述ス可シ若シ之ヲ申述セサルモハ委棄ノ日ヨリ經過スルヲ始ムヘキ辨濟ノ期限ヲ被保人ニ於テ右ノ申述ヲ通知セシムル日ニ至ル迄停止スヘシ而シテ若シ其申述ノ詐欺ニ出テシモハ被保人ハ保險ノ總テノ效果ヲ失フ〔商法典第三百七十九條及ヒ第三百八十條〕

三 委棄ノ方法及ヒ効

第三十一 委棄ヲ爲サント欲スル被保人ハ委棄ヲ受諾ス可キ旨及ヒ保險セラレタル金額ヲ辨濟スヘキ旨ノ催促ヲ被保人ニ爲シ以テ之ニ其意思ヲ通報ス〔商法典第三百七十八條〕

被保人ハ辨濟ノ訴ヲ爲ス前ニ荷物積入及ヒ滅盡ヲ證明スル證書ヲ被保人ニ送達スヘシ保險人ハ其證明書ノ事實ニ反スル旨ヲ申立ツルヲ許サル而シテ保險人ハ被保人ノ申立テタル事實ニ反スルノ證書ヲ舉クルヲ許サルト雖モ被保人ヨリ保證人ヲ立ツルニ於テハ保險人其保險シタル金額ノ假リノ辨濟ヲ爲スヘキノ言渡ヲ受クル事ヲ停止セズ保證人ノ責務ハ四年ノ後ニ消滅スルモノトス〔商法典第三百八十二條及ヒ第三百八十四條〕

第一 委棄ノ時期ヨリシテ取消ス可ラサル方法ヲ以テ保險セラレタル物件ノ所有權ヲ移轉ス而シテ被保人ハ船舶ノ歸着ヲ口實トシテ保險セラレタル金額ヲ辨濟スルヲ免カル、ヲ得ス〔商法典第三百八十五條〕

第二 保險契約書中ニ辨濟ノ時期ヲ定メサルニ於テハ保險人ハ必ス委棄ノ通報ノ日ヨリ三箇月内ニ賠償額ヲ辨濟セサル可ラス〔商法典第三百八十二條〕

○冒險貸借契約ト保險契約トノ比照

冒險貸借契約ハ保險契約ニ先ニシテ世ニ出テタリ而レモ保險契約ハ冒險貸借契約ノ中ニ萌芽セシ者タリ故ニ吾人ハエメルシヨン氏カ此二箇ノ契約ハ二兒兄弟ナリト言ヒシノ理アルヲ知ルナリ

此二箇ノ委運契約ハ頗ル相密着シテ數多ノ點ニ於テ相類似スル者ナリ即チ下ノ如シ、冒險
貸主及ヒ保險人ハ同様ナル危険ヲ受クル者ナリ○冒險借主及ヒ被保人ハ利益ヲ爲サント欲
スルニ非スシテ損失ヲ避ケント欲スル者ナリ○冒險貸借及ヒ保險ハ希望シ得ル所ノ利益ニ
適用スルヲ得スシテ危険ヲ受クヘキ物件ノ價額以上ノ金額ニ付キテ之ヲ爲スヲ得ス○此
二箇ノ契約ハ申述隱秘ノ理由ニ依テ無効トセラル○此契約ハ孰レモ書面ヲ以テ證明ス
然リ而シテ數多ノ差異アリテ冒險貸借契約ト保險契約トチ分別ス即チ左ノ如シ

第三十二
問

第一 冒險貸借契約ニ在テハ借主ハ或ル金額ヲ支辨シテ其義務ヲ履行シ借主獨リ義務
ヲ未來ニ負フ故ニ契約ハ現實ニシテ片務ノ者ナリ○保險契約ニ在テハ保險人カ約
定シタル險保料ヲ受收シ以テ賠償額ヲ未來ニ辨濟スルノ義務ヲ負フ故ニ契約ハ承
諾上ニテ双務ノ者ナリ

第二 物件ノ滅盡ハ借主ノ義務ヲ消滅セシム○而シテ之ニ反シテ被保人ノ爲メニ賠償額
ノ債權ヲ生セシム

是ニ因テ變災ノ場合ニ於テハ借主ハ訴訟ヲ起スノ權利ナクシテ而シテ被保人ハ其
受クヘキ賠償ヲ要求スル爲メ原告人ノ地位ヲ占ムルノ結果ヲ來タス

第三 借主ハ物件カ安全ニ到着スル時ニ非サレハ元金ヲ返還シ併セテ海上得益ヲ辨濟ス

ソヲ要セス○被保人ハ之ニ反シテ常ニ保險料ヲ辨濟セサルヲ得ス假令ヒ物件ノ滅
盡スル時ト雖モ猶ホ之ヲ辨濟セサルヲ得サルナリ

是ニ因テ未來ニ負債セル海上得益ハ常ニ保險料ヨリ更ニ巨額ニシテ而シテ何等ノ
事變ニ拘ハラズ之ヲ要求スルヲ得ルノ結果ヲ來タス實ニ冒險貸借ハ元金ヲ立替ヘ
テ而シテ何等ノ物ヲモ受取ルヲ得サルノ危険ヲ受クルカ故ニ何等ノ物ヲモ支辨セ
スシテ而シテ被保人ヨリ常慣ニ於テ前次ヲ辨濟スル所ノ保險料ヲ常ニ確カニ受取
ル所ノ保險人ニ比スレハ更ニ請フ處ノモ、ノ多カラサルヲ得サルナリ

借主ハ變災ノ場合ニ於テ何等ノ辨濟ヲモ爲サ、ルヲ以テ從テ冒險借入ニ付キ更ニ
重キ代價ヲ負擔セサル可ラス被保人ハ前拂ヲナシテ保險人ハ總テノ場合ニ於テ保
險料ヲ受取ルノ權利ヲ有スルヲ以テ從テ保險契約ハ更ニ被保人ニ利益多カラサル
可ラサルナリ〔原註〕故ニ或ル國ノ法律ニ於テ殊ニ和蘭ノ法律ニ於テハ船舶借賃ノ
保險ヲ許シテ船舶借賃ニ付テノ冒險貸借ヲ禁セリ何トナレハ借主ハ變災ノ場合ニ
於テ何等ノ辨濟ヲモ爲スニ及ハサルヲ以テ契約ニ利害ノ關係ヲ持セサルノ多キニ
過クレハナリ〕

故ニワラン氏ハ此二箇ノ契約ヲ比照シテ下ノ說ヲ爲セリ曰ク

予カ此二箇ノ契約ノ間ニ見出ス所ノ差異ハ保險契約ナキキハ一大商業ヲ企起スル
ヲ得サルヘク而シテ保險貸借ヲ爲スキハ二年若クハ三年ノ間一大商業ヲ繼續ス
ルヲ得サルヘシト謂フニ在リト

右等ノ差異ニ因テ觀ルキハ如何セハ保險契約ハ之ヲ產出シタル冒險貸借契約ヲ凌駕シテ自
ラ進歩セシヤチ明知スルニ足ル(原註)右等ノ差異ノ外尙ホ我輩ハ下ノ差異アルヲ觀察ス
ルヲ得ルナリ 第一 冒險貸主ハ單純ノ運輸損害ニ付キ責ヲ免カル、ヲ得ルモ共通ノ運輸
損害ニ付テ義務ヲ免カル、ヲ得ス(商法典第二百三十條)〇之ニ反シテ保險人ハ運輸損害
ヲ免カル、旨ノ條款ニ因テ共通ナルト特別ナルトヲ問ハス總テノ運輸損害ニ付キ責ヲ免カ
ル、ヲ得但シ委棄ヲ開始スル場合ニ於テハ別段タルヘシ 第二 保險セラレタル物件ノ
價格ヲ超過スル或ル價格ヲ以テ二箇ノ保險ヲ別々ニ爲シタルキハ第二ノ保險ハ其超過額ニ
付キ取消ヲ受ク〇之ニ反シテ一箇ノ保險契約及ヒ一箇ノ冒險貸借契約アリテ孰レモ保險セ
ラレタル物件ノ價額ヲ超過スルキハ保險ハ假令ヒ冒險貸借ヨリ前ニ爲シタリト雖モ冒險貸
借ノ爲メニ取消ヲ受ク何トナレハ保險ハ一箇ノ約束タルニ過キヌシテ冒險貸借ハ既ニ執行
シタル契約ナレハナリ)

第十一卷 運輸損害(自第二百九十七條至第四百九條)

法律ハ下ノ諸件ヲ運輸損害ト看做ス(原註)運輸損害ナル語ハ往昔ニ在テハ荷主ノ持高ニシ
テ航行ノ或ル税金ノ辨濟ヲ補償スル所ノ者ヲ指稱セリ我輩既ニ研究セシ如ク吾人ハ今日猶
ホ此意味ヲ以テ船舶貸借契約ニ於テ層々或負擔ヲ要約シ而シテ此場合ニ於テ吾人ハ唱道シ
テ荷主ハ船舶貸借ノ外ニ例ヘハ運輸損害及ヒ船長エノ贈給ノ百ニ付キ十ヲ負擔スヘキ者ナ
リト謂フ)第一 合併シテ又ハ別々ニ船舶及ヒ商品ノ爲メニ爲シタル總テ非常ノ費額 第
二 商品ノ積入及ヒ船舶ノ出帆ヨリ船舶ノ歸着及ヒ商品ノ荷卸ニ至ル迄商品ニ生シタル總
テノ損害(商法典第二百九十七條)法律ハ斯ノ如クニシテ費用上ノ運輸損害及ヒ物質上ノ運
輸損害ヲ認許(原註)保險契約書ニ費用上ノ運輸損害及ヒ物質上ノ運輸損害ナル此二種ノ運
輸損害ヲ區別スルヲ往々是レアリ第一者ニ付テハ保險人ハ常慣ニ於テ運輸損害ノ免釋ヲ要
約セスシテ保險セラレタル金額ヲ辨濟スルヲ約諾ス第二者ニ付テハ保險人ハ動モスレハ
特別ノ條款ヲ定メテ總テノ責任ヲ避クルヲアリ)

遲滯及ヒ航行ノ通常ノ費用ハ運輸損害ト看做サス故ニ例ヘハ港口又ハ河口ニ入ル爲メ若ク
ハ港河又ハ河口ヨリ出ル爲メノ水先案内税、碇泊税及ヒ其他ノ航行ノ税ハ運輸損害ニアラ
スシテ船舶ノ負擔タル單純ノ費用ナリトス(商法典第四百六條)

一 運輸損害ノ種類

保險契約ノ事項ニ於テハ費用上ノ運輸損害ト物質上ノ運輸損害トノ區別ノ外ニ純粹ノ運輸損害ノ場合ト大變災ノ場合トヲ區別スルノ緊要ナルヲ視タリ大變災ノ場合ニ於テハ被保人ハ委棄ノ權能ヲ有スルヲ記憶シ且ツ同シク此大變災ノ場合ニ於テ保險人ハ運輸損害ヲ免カル、旨ノ條款ヲ以テ其責任ヲ免カル、ヲ能ハスシテ而シテ被保人ハ委棄ト運輸損害ノ訴權トヲ撰擇スルノ權利ヲ有スルヲ記憶ス

何人カ運輸損害ノ影響ヲ蒙ラサルヲ得サル乎ヲ決定スル爲メニ保險ノ場合ノ外ニ在テモ尙ホ運輸損害ノ諸種類ヲ區別スルヲ緊要ナルヘシ(商法典第三百九十八條)

法律ハ此觀點ニ付キ運輸損害ヲ分チテ二種トナス(商法典第三百九十九條)

第一 大ナル運輸損害即チ共通運輸損害

第二 單純ナル運輸損害即チ特別運輸損害

運輸損害ヲ稱シテ大ナル即チ共通ノ運輸損害ト云フ何トナレハ此運輸損害ハ一般ノ利益即チ共同ノ安全ノ爲メニ爲シタルカ故ニ之ヲ船舶及ヒ積荷ノ全體ヲ以テ擔當セサル可ラサレハナリ

又運輸損害ヲ稱シテ單純ナル即チ特別ナル運輸損害ト云フ何トナレハ此運輸損害ハ唯々損害ヲ受ケタル物件若クハ入費ヲ生セシメタル物件ノ所有者ノミ之ヲ負擔セサル可ラスシテ唯々特別ナル單一ノ利益ノミニ關スルカ故ナリ

○大ナル即チ共通ノ運輸損害

第三十五 大ナル即チ共通ノ運輸損害トハ任意ニテ受ケタル損害又ハ船舶及ヒ商品ノ幸福及ヒ共同ノ安全ノ爲メ理由ヲ示シテ協議シタル後ニ爲シタル入費ヲ云フ

第四百條ニ設例トシテ大ナル即チ共通ノ運輸損害ノ重モナル場合ヲ掲ク即チ左ノ件々ヲ以テ大ナル運輸損害トナス

- 第一 船舶及ヒ商品ノ贖戻ノ名義ヲ以テ約定ニ因リ付與シタル物件
- 第二 海ニ投入レタル物件(次卷參觀)
- 第三 絶斷シ又ハ任意ニテ截斷シタル錨綱又ハ檣
- 第四 共同ノ安全ノ爲メ拋棄シタル錨及ヒ其他ノ物件
- 第五 投入レニ因リ船舶ニ遺存シタル商品ニ生セシメタル損害又ハ商品ノ投入若クハ其引出ノ爲メ船舶其者ニ生セシメタル損害(商法典第四百二十六條)
- 第六 船舶ヲ防禦シテ被傷セル水夫ノ治療料及ヒ食餌料(商法典二百六十二條)船舶ヲ月借ニ爲シタル時或國ノ命令ニ因リ其船舶ヲ航行中ニ差留メラレタル時間ニ於ケル水夫ノ雇賃及ヒ飲食ノ費用並ニ同シク船舶ヲ月借ニ爲シタル時共同ノ安全ノ爲メ

任意ニテ受ケタル損害ノ修理ヲ爲ス時間ニ於ケル水夫ノ雇賃及ヒ飲食ノ費用(商法典第三百條及ヒ第四百三條)

第七 風波ノ爲メ又ハ敵船ニ追躡セラレタルニ因リ止ヲ得ス船舶ヲ輕クシ港口又ハ河口ニ入ラシメタル時其船舶ヲ輕クシテ港口又ハ河口ニ入ラシムル爲メ荷卸ヲ爲シタル費用

第八 全部ノ滅尽又ハ掠奪ヲ避クルノ意ヲ以テ礁沙ニ乗上ケタル船舶ヲ再ヒ浮揚セシムル爲メニ爲シタル費用(原註)敵及ヒ海賊ニ對シテ防禦ヲ爲シタルカ爲メ船舶又ハ商品ノ受ケタル損害ハ同シク共通ノ運輸損害タルヘシ

第三十五問

單純ナル即チ特別ナル運輸損害トハ任意ニ非スシテ受ケタル損害又ハ唯々船舶ノミニ付キ若クハ唯々商品ノミニ付キ爲シタル入費ヲ云フ

商法典第四百三條ハ特別ナル運輸損害トシテ左ノ件々ヲ指定ス

第三十六問

第一 固有ノ瑕瑾ニ因リ又ハ風波掠奪破船又ハ暗礁暗沙ノ乗上ニ因リ商品ニ生シタル損害

第二 商品ヲ救留ムル爲メニ爲シタル費用

第三 風波又ハ其他海上偶然ノ事故ニ因リ生シタル錨綱、錨、帆、檣、綱具ノ滅尽○若クハ右

ノ物件ノ意外ノ滅盡ニ因リ若クハ飲食料ノ需用ニ因リ若クハ水ノ浸入スル孔隙ヲ塞ク修理ヲ爲スニ因リテ起リタル總テノ停泊ヨリ生スル所ノ費額

第四 船舶ヲ航行中賃借シタル時或國ノ命令ニ因リ其船舶ヲ航行中ニ差留メラレタル時間及ヒ其船舶ニ付キ爲サ、ルヲ得サル修理ノ時間ニ於ケル水夫ノ飲食ノ費用及ヒ雇賃

第五 船舶ヲ航行中賃借シタルト月借ニシタルトナ問ハス檢疫ノ時間ニ於ケル水夫ノ飲食ノ費用及ヒ雇賃

第三十七問

商法典ハ船長若クハ乗組人ノ懈怠ニ因テ商品ニ生シタル損害ヲ同シク特別ナル運輸損害ノ部中ニ列セリ然レモ商品ノ所有者ハ此運輸損害ニ付キ船長、船舶及ヒ船舶借賃ニ對シテ要償權ヲ有ス(商法典第四百五條)

衝突即チ二箇ノ船舶ノ互ニ衝當ルコトハ特別ノ規則ニ從フ

若シ衝突カ全ク意外ニ起リシキハ二艘ノ船舶ノ中損害ヲ受ケタル者ニ於テ其損害ヲ擔當シ何等ノ償還ヲモ要求スルヲ得ス

若シ衝突カ兩船長ノ一方ノ過失ニ因テ起リタルキハ鑑定人ノ爲シタル鑑定ニ從ヒ兩船長ノ

中損害ヲ生セシメタル者ニ於テ其損害ヲ補償ス

若シ衝突ノ原由ニ付キ疑ヒアルハ損害ハ同シク之ヲ鑑定人ニ見積ラシメ損害ヲ生セシメ及ヒ之レヲ受ケタル双方ノ船ニ於テ共同ノ費用ヲ以テ平等ノ部分ニ於テ其損害ヲ補償ス〔商法典第四百七條〕(原註)疑ハシキ衝突ハ兩船ノ負擔ニシテ兩船長ノ負担ニ非ス而シテ船長ノ過失ヲ推測セサルナリ因テ保險人ニ於テ其衝突ヲ相當ス然レモ若シ衝突カ兩船長ノ過失ニ因テ起リシキハ兩船長ハ各自ノ過失ニ割合シテ其責任ヲ分タサル可ラス(千八百七十一年十一月十五日大審院ノ判決)而シテ保險人ハ其賠償ヲ爲スニ及ハサルヘシ何トナレハ保險人ハ船長ノ過失ニ付キ責ニ任セサレハナリ然レモ若シ之ニ反スル約定アルハ別段ナリ

二 運輸損害ノ分擔及ヒ運輸損害ノ訴權

結約者ノ間ニ特別ノ約束アラサルニ於テハ運輸損害ハ左ノ如ク規定セラレ

大ナル即チ共通ノ運輸損害ハ價額ノ割合ヲ以テ商品ト船舶及ヒ船舶借貸ノ半額トニ於テ之ヲ負擔ス〔商法典第四百一條〕

商品ノ代價ハ荷卸ノ地ニ於ケル其商品ノ價額ニ因テ之ヲ定ム〔商法典第四百二條〕

單純ナル即チ特別ナル運輸損害ハ其損害ヲ受ケタル物件又ハ入費ヲ生セシメタル物件ノ所

有者ニ於テ之ヲ負擔シ及ヒ之ヲ辨濟ス〔商法典第四百四條〕

第三十八 問

運輸損害ノ訴ハ共通ノ運輸損害ハ船舶ト商品トノ相合シタル價額ノ百分ノ一ヲ超過スルハニアラサレハ之ヲ受理セス〔商法典第四百八條〕

運輸損害ノ訴ニ付キ定メタル此制限ハ唯々保險ノ事項ニ於テ保險人ト被保人トノ間ニ相立

ツノミ故ニ若シ共同ノ安全ノ爲メ十萬法以上ノ積荷ニ付キ又ハ百萬法ノ價額アルヘキ船舶

ニ付キテ一千法ヲ代表スルノ商品ヲ海中ニ投入シタリシトセシニ滅盡シタル商品ハ假令ヒ

商品ト船舶トノ相合シタル價額ノ百分ノ一ヲ代表セサルモ運輸損害ノ訴權ハ此ニ於テ生スル

ナリ是レエメルシヨン氏ノ考案スル所ニシテ大審院モ亦此考案ヲ採用セリ(千八百七十一年十一月廿七日ノ判決第四百八條)保險人ト被保人トノ關係ニ付テノミ之ヲ適用スヘキ

ヲテ証スル所以ハ該條ノ末項ハ保險人ト被保人トノ間ニ於テナラシハ賠償ノ算定ヲ生セサル

所ノ特別ナル運輸損害ノ事ヲ定ムルヲ以テ知ラル、ナリ

運輸損害ニ付テノ責任ノ此制限ハ之ヲ法律上ノ免責ト云フ此ニ又保險契約ヲ以テ保險人ノ

要約セル契約上ノ免責ナル者ナリ例ヘハ百ニ付キ十又ハ二十若クハ三十二充ル迄負擔ヲ免

カル、カ如キ是レナリ又此ニ就中無限ノ免責ナル者アリ此免責ハ運輸損害ヲ免カル、旨ノ

條款ヨリ生スルナリ〔商法典第四百九條〕我輩前ニ陳セシ如ク此條款ハ共通ノ者タルト特別

ノ者タルトチ問ハス總テノ運輸損害ニ付キ保險人ニ責テ免スル者ナリ然レモ大變災ノ場合ニ於テハ別段アリ此場合ニ於テ被保人ハ常ニ委棄ノ訴權若クハ運輸損害ノ訴權ヲ選擇スルノ權能ヲ有ス(原註)エメリゴレ氏ハ其著述ノ保險論ニ於テ法律上ノ免責及ヒ契約上ノ免責ニ關シテ數多ノ問題ヲ研究セリ○第一 若シ數多ノ人カ唯一ノ保險ニ關係ヲ抱持スルキハ百分ノ一ノ法律上ノ免責ヲ規定スル爲メ其數人ノ關係高チ合併スル平例ヘハ甲ハ三千元ノ價額ノ商品ヲ船舶ニ積入レ乙ハ九萬法ノ商品ヲ積入レテ甲乙共通シテ保險ヲ爲サシメタリ然ルニ甲ノ商品ハ滅盡シテ乙ノ商品ハ安全ナリキ此場合ニ於テ甲ハ保險人ニ對シテ賠償ヲ要求スルコトヲ得ヘキヤ否ヤエメリゴレ氏此質疑ヲ受ケ仲裁人ノ資格ヲ以テ答ヘテ曰ク甲ハ何等ノ請求ヲモ爲スコトヲ得ス何トナレハ運輸損害ノ額ハ唯一ノ保險契約書ヲ以テ保險セラレタル物件ノ百分ノ一ヲ超過セサレハナリト○第二 運輸損害ノ額カ百分一ヲ超過スルコトヲ證明スルニ付キ要求ノ費用ヲ運輸損害ノ勘定中ニ加フルコトヲ得ルヤ否ヤ加フルコトヲ得サルハ勿論ナリ何トナレハ百分ノ一ヲ超過セサル可ラサル者ハ獨リ運輸損害其者ニ限レルカ故ナリ○第三 保險人ニ於テ運輸損害ヲ負擔スルキハ法律上ノ免責額ナル百分ノ一又ハ契約上ノ其他ノ免責額ヲ保險人ノ爲メニ扣除セサルヲ得サル乎否ヤワラン氏ハ保險人ノ爲メ何等ノ扣除ヲモ爲ス可ラスト論斷セリボチエー氏ハ契約上ノ免責ノ場合ニ於テハ約款ヲ記

載シタル方法ニ從テ區別ヲ立テタリ若シ保險契約書ニ若シ「運輸損害カ百分ノ三ヲ超過セサルキハ保險人ハ其運輸損害ニ付キ責ニ任セス」ト記載セシキハ若シ運輸損害カ百分ノ三ヲ超過スルニ於テハ保險人ハ全部ノ運輸損害ヲ補償セサル可ラス此百分ノ三ナル定メ高ハ之ヲ程度トシ而シテ其以上ニ於テ保險人ハ責ニ任スヘキヲ指定スルニ非スシテ此定高ヲ條件トナシ其條件ヲ以テ責ニ任ス可キヲ指定スル者ナリ若シ右ニ反シテ保險契約書ニ「保險人ハ唯々百分ノ三ヲ超過スル額ニ充ツル迄ノミ責ニ任スヘシ」ト記載セシキハ保險人ハ百分ノ三ヲ扣除シ而シテ後其剩餘額ナラテハ補償スルニ及ハスト云ヘハ區別即チ是ナリ然リ而シテボチエー氏ハ此區別ヲ採用スルコトニ踟躕セリ何トナレハ斯ノ如クナルキハ保險人ニ利益多キカ故ナリ且ツルワソ府裁判所カ總テノ場合ニ於テ其責任ヲ約セサル額ヲ扣除スルコトヲ保險人ニ允可セシカ故ナリエメリゴレ氏ハボチエー氏ノ區別ヲ賞賛セル者ノ如シ我輩ヲ以テ視モ此區別ハ實ニ適理ニシテ法文ニモ適合シ又決約者ノ合意ノ精神ニモ適合スル者ナリ○佛蘭西ノ保險契約書ニ言フ所ニ依レハ保險人ハ免責額ヲ超過スル所ノ額ナラテハ辨濟スルニ及ハサルナリ

第十二卷 投荷及ヒ分担(自第四百十條至第四百二十九條)

本卷ハ前卷ヲ説明シ及ヒ解説スル者タルニ過キス而シテ商法典ハ本卷ニ於テ共通運輸損害

ノ一箇ノ場合タル投荷ニ關スル特別ノ規則ヲ掲ケ何等ノ原則ニ從テ共通ノ運輸損害ニ付テノ分担ヲ爲ス乎ヲ機ニ臨ミテ規定スルナリ

一 投荷

第三十九
問ノ二十九

投荷トハ船舶ヲ輕クシ以テ風波又ハ敵ノ追跡ヲ豫防スル爲メ積荷ノ全部若クハ一部ヲ海中ニ投入スルノ所爲ヲ云フ

若シ船長カ船舶ノ安全ノ爲メ積荷ノ一部分ヲ海中ニ投入セサルヲ得サルニ至レリト思惟スルキ若クハ船舶ノ櫓ヲ截斷シ又ハ錨ヲ擲棄セサルヲ得サルニ至レリト思惟スルキハ船長ハ積荷關係人及ヒ乗組人中ノ重立チタル者ノ意見ヲ諮ハサル可ラス若シ其意見ノ相異ナルキハ船長及ヒ乗組人中重立チタル者ノ意見ニ從フ〔商法典第四百十條〕

物件ヲ投入ルヘキ順序ハ法律ニ定ム最モ必要ヲラスシテ最モ重ク且ツ最モ廉價ナル物件ヲ第一ニ投入ルヘシ次ニ船長ノ選擇ニ任セ且ツ乗組人中重立チタル者ノ意見ヲ聽キタル上ニテ第一甲板ニ在ル商品ヲ投入ルヘシ〔商法典第四百十一條〕

船長ハ爲サレタル商議ヲ書面ニ記スルノ方便ヲ得ルヤ直ニ之ヲ書面ニ記シ且ツ之ヲ簿冊ニ登記セサル可ラス此商議ノ書面ニハ投入ヲ決セシメタル理由及ヒ投入レタル物件並ニ投入ノ爲メ損害ヲ受ケタル物件ヲ明記シ商議者ノ署名又ハ商議者カ署名スルヲ拒ミタル理由

ヲ記ス〔商法典第四百十二條〕

船長ハ船舶ノ停泊スル第一次ノ港ニ於テ其到着ヨリ二十四時間内ニ商議書中ニ記シタル事實ノ相違ナキ旨ヲ確ムヘシ〔商法典第四百十三條〕

二 分擔

第三十九
問

分擔ノ目的ハ何等ノ限度ヲ以テ運輸損害ヲ負擔セサル可ラサルヤヲ規定シ又何等ノ方法ヲ以テ共同ノ關係上ニ受ケタル損失ヲ諸關係人ノ間ニ配當セサル可ラサルヤヲ規定スルニ在リ

分擔ヲ行ハシムカ爲メニハ投荷カ其結果ニ於テ有益タリシヲ必要トシ又投荷カ船舶若クハ其積荷ヲ救フノ用ヲ爲セシヲ必要トス而シテ假令ヒ投荷ニ因テ救ハレタル船舶カ其後更ニ或ル事實ニ因テ滅失セシト雖モ救留メラレタル物件ヲ以テ其現狀ノ價額ニ從ヒ救留ノ費用ヲ扣除シテ分擔ヲ負フノ妨ケトナラサルナリ〔商法典第四百二十三條及ヒ第四百二十四條〕

○運輸損害ノ精算

〔原註〕投荷ノ場合ニ關スル運輸損害ノ精算ハ比類推定ニ依テ同シク總テノ他ノ場合ニ適用スヘキハ論ヲ俟タス○諸關係人ハ何等ノ方法ヲ以テ又何等ノ割合ニ從ヒテ受ケタル損失

ノ補チ共ニ担当セサル可ラサルヤチ知ラフニハ左ノ件々ヲ規定スルヲ要ス

第一 何者カ補償スヘキ損害ノ總高ナリヤ之ヲ再言スレハ損害ヲ受ケタルニ因テ要求チ爲スノ權利チ有スル債主ハ何人ナリヤチ定ムル事

第二 何者カ賠償ノ辨濟チ共ニ担当スヘキ資本ナリヤ之ヲ再言スレハ損害ヲ負担スヘキ負債主ハ何人ナリヤチ定ムル事

荷卸ノ地ノ裁判官ノ任命シタル鑑定人ハ宣誓ヲ爲シタル後此二事チ行フノ任務即チ滅盡及ヒ損害ノ景狀書チ作り分擔人ノ間ニ分配チ爲スノ任務チ負フ〔商法典第四百十四條及ヒ第四百十六條〕北方ニ在テハ運輸損害ノ精算チ爲スノ任アル者ヲ稱シテ *Dispatcher* ト云フ

○分配スヘキ所働件

左ノ諸件チ分配スヘキ所働件ノ中ニ入ル

第一 投入レタル商品ニシテ荷卸ノ地ノ通價ニ從テ評價シ且ツ其品質ノ積荷目録及ヒ勘定書アルニ於テハ積荷目録及ヒ勘定書チ以テ証明セラレタル者ノ價額〔第四百十五條〕例外ニ於テ積荷目録モ無ク船長ノ申述モ無キ物件ハ若シ之ヲ投入レタルキハ分配スヘキ所働件ノ中ニ加ヘス而シテ若シ之ヲ救留メタルキハ負課スヘキ能働件即チ分擔スヘキ額ニ加フ〔第四百二十條〕○又第二百二十九條ニ定ムル所ニ反シ

テ甲板上ニ積入レタル物件ハ若シ投入レラレタル平又ハ投入ニ因テ損害ヲ受ケタルキト雖モ分擔チ爲サシムルノ權利チ生セス(但シ船長ニ對ノ要債權チ生ス)而シテ若シ其物件ノ救留メラレタルキハ滅盡及ヒ損害ノ償補チ分擔ス〔第四百二十一條〕
第二 港内又ハ川中ニ入ル保險チ輕クスル爲メニ小艇ニ積込シテ滅盡シタル商品ノ價額〔第四百二十七條〕

第三 投入チ容易ナラシムル爲メ船舶ニ起シタル損害殊ニ船舶ヨリ商品チ引出タス爲メ船舶チ穿開シタルキ其船舶ニ起シタル損害ノ評價額〔第四百二十二條〕

第四 投入ニ因テ船中ニ留存スル商品ニ起シタル損害ノ評價額〔第四百二十六條〕
○課スヘキ即チ分擔スヘキ能働件

一般ニ救留メラレテ共同ノ安全ノ爲メニ爲シタル損失ニ付キ利益シタル總テ有價物チ以テ分擔チ爲サシム又滅盡シタル有價物チ以テ分擔チ爲サシム何トナレハ滅盡シタル價物ハ滅盡ニ於テノ其割合ヒ部分チ担当セサル可ラサレハナリ仍テ左ノ物件チ分擔スヘキ能働件ニ入ル

第一 船舶及ヒ船舶借賃、船舶チ能働件ニ入ル、ハ船舶カ投荷ニ因テ救留メラレタルカ故ナリ船舶借賃チ貸高ニ入ル、ハ船舶借賃ハ船舶ノ價額ノ増加高ニシテ即チ若シ

船舶ノ救留メラレサルニ於テハ辨濟スルハ之ヲ要セサルヘキ船舶ノ入額タルニ過キ
サレハナリ而シテ此ニ注意スヘキハ商法典ニ於テハ船舶及ヒ船舶借賃ノ分担ヲ唯
々荷卸ノ地ニ於ケル其價額ノ半分ニ付テノミ負ハシムルコト是レナリ〔第四百十七
條〕此分擔制限ハ船舶ノ所有者ニ與ヘラレタル分外ノ利益タリボチエー氏曰ヘル
アリ分擔制限ハ船舶所有者ノ爲メ前拂及ヒ費額ト相贖フタメ又船舶ノ受クヘキ毀
損ト相贖フタメ船舶ノ所有者ニ之ヲ許セリト〔原註〕船舶ノ受クヘキ毀損ト相贖フ
ノ理由ハ最早商法典上ニ於テ許ス可ラス何トナレハ船及ヒ船舶借賃ハ荷卸ノ地ニ
於ケル其價額ノ半分ニ付キ分擔ヲ爲セハナリ故ニ航行ノ高利及ヒ毀損ヲ酌量スル
者ナリ○艤裝人ノ所有權ハ荷主ノ所有權ヨリ危險ニ遭遇スルノ慮アルコト更ニ大ナ
リト謂フヲ得ヘシ何トナシハ船舶ハ商品ヲ保護シ而シテ特別ナル運輸損害トシテ
船舶ノ負擔ニ付スヘキ數多ク運輸損害ヲ受クレハナリ

第二

荷却ノ地ニ於ケル價額ニ從ヒ貸高ニ入ルヘキ救留メラレタル物件〔第三百四條第
四百二條及ヒ第四百十四條〕其故何トナレハ此等ノ物件ノ諸所有者ハ投荷ニ付キ
直接ニ利益セシカ故ナリ然レモ運用品及ヒ飲食品並ニ乗組人ノ被服ハ投入ノ分擔
ヲ爲サスシテ而シテ其投入セラレタル乎若クハ投入ノタメ損害セラレタル時ハ分

擔ヲ爲サシムルノ權利ヲ有ス〔第四百十九條〕

第三

同シク荷卸ノ地ニ於テ有シタル價額ニ從ヒ貸高ニ入ルヘキ投入セラレタル物件、
何トナレハ投入セラレタル物件ノ諸所有者ハ救留メラレタル物件ノ諸所有者ニ比
シテ更ニ利益アル地位ヲ占ムルコトヲ得サレハナリ若シ投入セラレタル物件ノ所有
者ニシテ減盡ニ於テノ其部分ヲ負擔スル事ニ參加セサルニ於テハ其所有者ハ其物
件ヲ保全スルヨリ寧ロ之ヲ減盡セシムルヲ以テ其利益ト爲ス可キナリ〔第四百十
七條〕○然レモ投入セラレタル物件ハ何等ノ場合ニ於テモ投入以來救留メラレタ
ル物件ニ生シタル損害ノ補償ヲ分擔セズ而シテ特別ナル運輸損害ヨリ生スル船舶
ノ減盡若クハ其航行スル可ラサルコトノ場合ニ於テハ商品ハ船舶ノ辨濟ヲ分擔セザ
ルヘシ〔第四百二十五條〕

商品ノ品質ヲ積荷目錄ヲ以テ偽リ粧ヒタル場合ニ於テハ法律ハ詐欺カ之ヲ犯シタル者ヲ害
シテ之ヲ利スルコトヲ得サランコトヲ欲スルナリ仍テ若シ商品カ積荷目錄ニ指示セラレタル價
額ヨリ一層大ナル價額ヲ有スルニ於テハ若シ其實價額ニ從ヒ分擔ヲ爲ス者トス然レモ若シ
其商品カ減盡セシキハ唯々積荷目錄ヲ以テ偽リ粧ヒタル其品質ニ從テ辨濟ヲ受クヘキナリ
右ニ反シテ若シ商品カ積荷目錄ヲ以テ指示セラレタル品質ヨリ一層卑下ノ品質ヲ有スルニ

於テハ若シ其救留メテラタルキハ其積荷目録ヲ以テ証明シタル品質ニ從ヒ分担ヲ爲ス者ト
ス然レモ若シ其商品カ投入レラレ若クハ損害セラレタルキハ唯々其實價額ニ從テ辨濟ヲ受
クヘキナリ〔第四百十八條〕

負擔スヘキ所動件及ヒ分擔スヘキ能動件ノ分明ナリタルキハ鑑定人ハ損失ノ總高ヲ各分擔
ニ配付ス之ヲ再言スレハ課スヘキ價物ニ平等シテ配付ス而シテ後投レラレタル物件又ハ損
害ヲ受ケタル物件ヲ辨濟スヘキ借高及ヒ辨濟ニ用立ツヘキ貸高ニ同一時ニ加ヘ入ル、人ノ
タメニ差引キ爲ス

(原註)共通ノ運輸損害ノ算定ハ動モスレハ頗ル錯雜ヲ免カレス我輩ハ此算定ニ付キ甚
簡單ナル一例ヲ示サン

甲乙ノ二人ボルダウヨリチウヨルクニ向ケ出帆スル一艘ノ船ヲ賃借シ甲乙ノ船舶賃借人
各々同價ノ葡萄酒一千樽ヲ積入レ而シテ到着ノ時ニ於テ二萬五千法ノ船舶借賃ヲ拂ハサ
ルヲ得ス然ルニ船舶ハ航行間ニ風波ニ侵サレ其檣ヲ挫折セラレタリ而シテ船舶ハ甲者ノ
積荷ヲ引出ス爲メニ開穿セラレ葡萄酒一樽ハ海中ニ投入レラレ船舶ハ救ハレテ港ニ着到
シタリ

精算

○負擔スヘキ所動件即チ債主ノ額

- 一 甲者ノ葡萄酒一千樽カ到着ノ上〔第四百十五條〕總テノ費用及ヒ二萬五千法ノ船舶借賃ヲ扣除シテ生シタル正味ノ高七萬五千法
- 二 船舶ノ挫折シタル檣代 五百法
- 三 船舶開穿費 四千五百法
- 右損失ノ總額 八萬法

○課スヘキ所動件即チ分擔スヘキ額

- 一 船舶ヲ到着ノ上評價シ毀損及ヒ高利ノ額四十五萬法ヲ扣除シ半額ニ付キ〔第四百十七條〕分損ニ入ル高 二十二萬五千法
- 二 甲者ノ樽〔第四百十七條〕及ヒ乙者ノ樽ノ運輸賃五萬法ニシテ半額ニ付キ〔第四百十七條〕分擔スルモノ 二萬五千法
- 三 救留メラレタル乙者ノ樽正味高 七萬五千法

右課スヘキ貸高ノ總高 四十萬法

損失ハ課スヘキ貸高ノ五分ノ一ヲ表示スルヲ以テ貸高ノ各目ハ損失ノ五分一ヲ負擔セサル可ラス

甲者ハ七十五法ヲ受取ルヘク而シテ其分擔スヘキ貸高ノ五分ノ一即チ十五法ヲ負擔スヘシ仍テ唯々六十法ヲ受取ルノミ

船舶ハ五千法ヲ受取ルヘク而シテ其借賃ト共ニ二十五萬法ニ付キ分擔ヲ爲シ其課スヘキ

貸高ノ五分ノ一即チ五万法ヲ負擔スヘシ仍テ船舶ハ其受取ルヘキ五千法ヲ扣除シテ唯々
四万五千法ヲ辨濟スヘキノミ

乙者ハ單ニ負債主タリ仍テ其課スヘキ能働件ノ五分一即チ一万五千法ヲ拂フヘシ

甲者ニ戻ル六十法ハ斯ノ如クニシテ四萬五千法ニ付キ船舶及ヒ船舶借貸ヨリ辨濟セラレ
一万五千法ニ付キ乙者ヨリ辨濟セラレ

鑑定人ノ爲シタル配當ハ佛蘭西ニ於テハ商事裁判所ヨリ之ヲ執行スヘキ者ト爲シ外國ノ港
ニ於テハ佛蘭西領事ヨリ執行スヘキ者ト爲シ若シ佛蘭西領事在ラサルキハ其地ニ於ケル管
轄裁判所ヨリ執行スヘキ者ト爲ス〔第四百十六條〕

船長及ヒ乗組人ハ自己又ハ己レヲ名代スル者ニ爲スヘキ分擔ノ金額ニ付キ商品若クハ其商
品ヨリ得ル所ノ代金ノ上ニ先取特權ヲ有ス〔第四百二十八條〕

投入ハ一箇ノ保存處分タルニ過キスシテ所有權ヲ拋棄スル者ニ非サルナリ仍テ救留ノ場合
ニ於テ物件ヲ投入シタル諸所有者ハ其物件ヲ取戻サント要求スルヲ得ルナリ然リ而
シテ若シ所有者カ配當ノ後ニ至テ曾テ投入シタル物件ヲ取戻シタル時ハ其所有者ハ投
入ニ因テ生シタル損害ト取戻ノ費用トヲ扣除シテ其既ニ分擔ニ於テ受収セシ所ノモノヲ船
長及ヒ關係人ニ返還ス可シ〔第四百二十九條〕

第十三卷 時効(自第四百三十條至第四百三十四條)

海上ニ關スル事項ニ付テハ時効ノ期限ハ制限セラレ、者タリ而シテ時トシテハ時効ノ期限
ハ約束期限ノ日ヨリ經過セシテ契約ノ日ヨリ經過ス

船長ハ普通法ニ循ヒ一箇ノ名代人及ヒ一箇ノ暫暇ノ留置人タルニ過サルカ故ニ時効ニ因テ
船舶ノ所有權ヲ獲得スルヲ得ス〔商法典第四百三十條及ヒ民法典第二千二百二十六條〕

冒。險。貸。借。契。約。又。ハ。保。險。契。約。ニ。因。テ。生。ス。ル。訴。權。ハ。總。テ。契。約。書。ノ。日。附。ヨ。リ。起。算。シ。テ。五。年。ノ。後。ニ
時効ニ因テ消滅ス〔第四百三十二條〕(原註)五年ノ時効ハ商法典ノ重要ナル諸事項ニ見ユ殊
ニ會社ノ事項及ヒ爲替手形又ハ約束手形ノ事項ニ見ユ○此五年ノ時効ハ地上保險契約ニ適
用ス可ラス

而シテ委棄ノ訴權ハ第三百七十三條ニ循ヒ六ヶ月乃至十八箇月ノ期限ヲ以テ時効ニ因テ消
滅ス

第四十問 商法典第四百三十三條ニ左ノ場合ニ於テハ一年ノ時効ヲ定ム

第一 船舶借貸並ニ役員水夫其他ノ乗組人ノ給料及ヒ雇賃ノ辨濟ヲ要求スル訴權ハ航行
ヲ終リシ時ヨリシテ

第二 船長ノ差圖ニ依リ水夫ニ供給シタル飲食料ニ付テハ其引渡ノ時ヨリシテ

第三 船舶ノ建造及艙裝、飲食料ニ必要ナル木材及ヒ其他ノ物件ノ供給ニ付テハ其供給
ヲ爲シタル時ヨリシテ

第四 職工ノ給料及ヒ爲シタル工作ニ付テハ其工作場ヲ受取リタル時ヨリシテ

第五 商品引渡ノ請求ニ付テハ船舶ノ到着ノ時ヨリシテ

私ノ義務証書、公正ノ義務証書、決算証書若シハ裁判上ノ權利認定アル時ハ右ニ掲ケタル時
効ヲ生セサルナリ〔商法典第四百三十四條及ヒ民法第二千二百七十四條〕此制規ハ時効ハ爲
ス。能ハスト。謂フニ非ス又此時効ハ必ス之ヲ三十年ノ時効ニ變更ス可シト謂フニモ非ス唯
々時効ハ法律ニ定メタル場合ニ於テハ中斷セラレベシト謂フノ意ニシテ且ツ短縮シタル時
効ハ更改アルニ非サレハ殊ニ債主權カ帳簿計算ニ移リタル時ニ非サレハ三十年ノ時効ニ變
更セスト謂フノ意ナリ〔ボワステル氏ハ此意味ニ解セリ〕

第十四卷 不受理ノ理由〔自第四百三十五條至第四百三十六條〕

不受理ノ理由トハ請求ノ當否ヲ査定スルヲ無ク之ヲ受理ス可ラスト宣告セシメテ之ヲ拒却
スルニ用フル憑據ヲ云フ

第四十一 第四百三十五條ノ明文ニ依レハ左ノ件々ハ受理ス可ラサル者タリ

第一 若シ商品カ異議ナク受取ラレタル時ハ其商品ニ生シタル損害ニ付テ船長及ヒ保險

人ニ對スル訴、第四百二十五條ハ運送人ニ關スル第五百五條ト異ナリテ運送ノ代價
ノ辨濟セラレタルヲ必要トセス

第二 若シ船長カ異議ナク商品ヲ引渡シテ船舶借賃ヲ受取リタル時ハ運輸損害ニ付テ船
舶貸借人ニ對スル訴

第三 船長カ要求スルヲ得ルノ地ニ於テ其要求ヲ爲サルキハ衝突ニ因リ生シタル損
害ニ付テ賠償ヲ要ムルノ訴〔原註〕此不受理ノ理由ハ衝突ニ因テ船舶ノ全部ノ滅
盡ヲ來シタル場合ニ適用セラレヘキ平數多ク控訴院ハ之ヲ適用スト判決セリ何ト
ナレハ損害ナル語ハ汎博ニシテ且ツ第四百三十五條ハ何等ノ區別ヲモ爲スヲ許
サレハナリ

異議陳述及ヒ要求書ハ二十四時内ニ之ヲ作り之ヲ送達セヌ且ツ其日附ヨリ一月内ニ裁判所
ニ請求ヲ爲サル時ハ無効タリ

商法略論分散倒産及ヒ復権ノ部問題

- 第一問 散分及ヒ倒産ニ關スル商法典第二篇ヲ改正シタルモノハ如何ナル法律ナルヤ
- 第二問 分散ヲ構成スル元素如何
- 第三問 分散ト身代限トノ間ニ如何ナル差異アリヤ
- 第四問 如何ナル條件ニ於テ本人ノ死亡後分散ノ公告ヲナシ得ルカ
- 第五問 如何ナル方法ニテ分散ノ公告裁判ヲナスカ
- 第六問 分散人ニ付シタル其辨濟息止届出ノ義務ノ制裁如何
- 第七問 差金會社又ハ無名會社モ分散公告セラル、コトヲ得ルヤ
- 第八問 會社ノ分散ハ連帶社員ノ分散ヲ惹起スルヤ
- 第九問 分散ノ公告裁判言渡書ニハ如何ナル事ヲ記載スルヤ
- 第十問 分散ノ公告裁判言渡書ノ公示ハ如何シテ之ヲ爲スカ
- 第十一問 何人カ分散ノ最初ノ費用ノ立替ヲナスカ
- 第十二問 分散ノ公告裁判ノ効如何

第十三問

何ノ爲メニ分散人財産支配權ノ拋棄アルカ

第十四問

何ノ爲メニ債主各別ノ訴訟ヲ停止スルカ

第十五問

例外トシテ各別ノ訴訟ヲ爲シ得ベキモノハ如何ナル債主ナルヤ

第十六問

此例外ノ制限如何

第十七問

負債ノ要求シ得キコトハ書入質債主ニ執行方法ニ訴フルコトヲ訴スヤ

第十八問

未タ拂期限ニ至ラサル質貸料ハ質貸主ノ爲メニ要求シ得ベキモノトナルヤ

第十九問

千八百七十二二年二月十二日ノ法律更改如何

第二十問

例外トシテ分散人ノ共同義務者目ラ期限ノ利益ヲ失フ場合如何

第二十一問

分散人ノ負フタル金額ノ利息ハ分散人ニ對シテ生加スルコトヲ止ムルヤ

第二十二問

例外トシテ債主ノ合部ニ對シ利息ヲ要求シ得ルモノハ如何ナル債主ナリヤ

第二十三問

分散人ノ債主ノ合部ニ許與シタル書入質ノ功用如何

第二十四問

賣主ハ分散ノ公告裁判後其先取特權ヲ保存シ得ルヤ

第二十五問

賣主ハ少クモ解約ノ權ヲ保存セサルカ

第二十六問

賣主ハ他ノ特權ヲ保存セサルカ

第二十七問

分散ノ公告裁判後適法ニ記入ヲ爲シ得ベキ若干ノ場合アラサルヤ

第二十八問

分散ノ公告裁判ノ惹起スル不能力トハ何ソヤ

第二十九問

辨濟息止ニ屬スル三種ノ無効トハ何ソヤ

第三十問

當然ノ無効ノ所爲トハ何ソヤ

第三十一問

如何ナル場合ニ於テ(既ニ辨濟期限ヲ經過シタルモノト雖モ)負債ノ辨濟ハ當然ノ無効ナリヤ

第三十二問

如何ナル場合ニ於テ特別ニ書入質、不動産質及ヒ動産質ハ當然ノ無効ナリヤ

第三十三問

如何ナル點ニ於テ第二種ノ無効ハ第一種ノ無効ト異ナルカ。

第三十四問

其無効ハ當然ノモノニ非スシテ專ラ辨濟息止ノ知了ニ屬スル所爲トハ何ソヤ

第三十五問

假令ヒ辨濟ヲ受ケタルモノニ於テ辨濟息止ヲ知了シタル時ト雖モ既ニ期限ヲ經過シタル負債ノ辨濟ヲ取消スコトヲ得サル場合如何

第三十六問

前問ノ場合ニ於テ受領シタル金額ヲ返還法ニ從ハシム可キモノハ何人

ナルヤ

如何ナル點ニ於テ第二種ノ無効ノ方法ハ「ポリーヤン」訴權ノ方法ト異ナルカ

第三十七問

第三十八問

第三十九問

第四十問

第四十一問

第四十二問

第四十三問

第四十四問

第四十五問

第四十六問

第四十七問

第四十八問

如何ナル所爲ニ第三種ノ無効ハ適用チナスカ
分散ノ諸時期ニ從テ分散管財人ノ異殊ノ名稱如何
掛裁判官ノ職任如何
分散人ノ身体ニ關スル處分如何
財産ニ關スル保存處分如何
分散管財人ノ管理ノ重ナル所爲如何
如何ナル條件ニ於テ和解チナシ得ルヤ
豫先手續ノ最要ナル所爲トハ何ソヤ
如何ナル方法ヲ以テ債主權ノ調査チ爲スカ
調査手續ノ終結如何
債主權ノ争訟アル場合ニ於テ商事裁判所ニ於テ決ス可キ第一ノ問題トハ何ソヤ

第四十九問

第五十問

争訟又ハ仮許容ノ裁定スヘキモノハ如何ナル裁判所ナリヤ
先取特權又ハ書入質ニ争訟チ受ケタル債主ハ分散和約ニ發言チナスコトヲ許容セラル、ヤ

○

第五十一問

第五十二問

第五十三問

第五十四問

第五十五問

第五十六問

第五十七問

第五十八問

第五十九問

第六十問

分散ノ諸種ノ決定如何
通常ノ分散和約ハ如何シテ組成スルヤ
分散和約ニ付テ必要ナル兩箇ノ多數トハ何ソヤ
右兩箇ノ多數中ノ一箇ノミ得タルキハ如何
裁判所ヨリ分散和約ノ認可チ否拒シ得ル原因如何
認可チ得タル分散和約ノ効如何
分散和約ニ依テ承諾シタル放釋ト負債放釋トノ間ニハ如何ナル差異アリヤ
分散和約ノ消滅セラル、ニ付テハ如何ナル原因アリヤ
取消ノ原因トハ何ソヤ
如何ナル時ニ於テ解除アリヤ

- 第六十一問 取消ト解除トノ差異如何
- 第六十二問 如何ナル點ニ於テ新分散ノ興起ハ解除ト異ナルカ
- 第六十三問 取消及ヒ解除又ハ新分散興起ノ後分散人ニ關シ又ハ債主ノ合部ニ關シテ舊債主ノ權利如何
- 第六十四問 能働件ノ拋棄ニ因リ分散和約ヲ規定シタルモノハ如何ナル法律ナルヤ
此法律ハ商法典外ノモノナルヤ
- 第六十五問 通常ノ分散和約ト能働件ノ拋棄ニ因ル分散和約トノ異同如何
- 第六十六問 能働件不足ニ付テノ裁判ノ効如何
- 第六十七問 如何ナル時ニ於テ債主ハ債主連結ノ景狀ニ在ルカ
- 第六十八問 債主連結ノ最初ニ於テ爲ス可キ決定トハ何ソヤ
- 第六十九問 分散管財人ハ豫先手續殊ニ和解ノ時ニ於ケルヨリモ廣大ノ權ヲ有セサルカ
- 第七十問 如何ナル方法ニテ動産又ハ不動産ノ賣拂ヲナスカ
- 第七十一問 民事禁錮ノ廢止以後ト雖モ宥恕ノ公告ニ付テ如何ナル効アリヤ
- 第七十二問 如何ナル點ニ於テ債主ハ分散ノ場合ニ於テ所有者ト異ナルヤ

- 第七十三問 未タ分毫モ受領セサル一債主ニシテ分散ニ陥リタル數多ノ連帶義務者ヲ有スルキハ如何ナル金額ニ付テ各義務者ノ分散ニ出席スルコトヲ得ルヤ
- 第七十四問 引續キ許容セラレタル三箇ノ説トハ何ソヤ
- 第七十五問 債主保證人ノ分散ニ於テ分ケ前チ受取リタルキハ保證人ノ分散管財人ハ債主ト抗競シテ主タル義務者ノ分散ニ分ケ前チ要求シ得ルヤ
- 第七十六問 若シ債主其分散前ニ内金ヲ受取リタルキハ如何
- 第七十七問 若シ前問ノ一部辨濟ニシテ分散ニ陥ラサル保證人ヨリナシタルキハ此保證人ハ債主ト共ニ主タル債主ノ分散ニ抗競シ得ルカ
- 第七十八問 一般ノ先取特權ノ項目ニ商法典ニ定メタル擴張如何
- 第七十九問 動産上ノ特別先取特權ニ加ヘタル制限如何
- 第八十問 先取特權又ハ書入質權ヲ有スル債主ハ通常債主ノ合部ニ出席スルコトヲ得ルカ
- 第八十一問 先取特權又ハ書入質權ヲ有スル債主ハ如何シテ書入質債主ノ合部ニ於テ分配ヲ受ク可キカ

第八十二問

或ハ證據ノ點ニ於テ或ハ法律上書人質ノ點ニ於テ或ハ婚姻ノ利益ノ點ニ於テ夫ノ分散ノ場合ニ於ケル婦ノ權利ニ加ヘタル制限如何

第八十三問

如何ナル法式ニ於テ分散人ノ不動産ノ賣買アルヤ
增競賣ニ特別ナル規則トハ何ソヤ

第八十四問

分散人ノ不動産ノ賣拂ハ記入シタル書入質ヲ滌除スルヤ之ヲ約言スルニ書入質債主ハ十五日ノ期限後增競賣ヲ爲シ得可キヤ

第八十五問

商法典ヲ以テ指定シタル所有權取戻ノ諸種ノ場合如何

第八十六問

賣主ハ分散人ニ賣渡シ及ヒ引渡シタル商品又ハ動産ヲ取戻シ得ルヤ
差送リテ未ダ引渡チナサ、ル商品ヲ取戻シ得サルトナシ得ルヤ

第八十七問

分散人又ハ總テノ關係者ノ爲メニ設ケタル分散ノ公告裁判ニ對スル故障ノ期限如何

第八十八問

分散ノ件ニ於テ爲シタル裁判ニ付キ控訴ノ期限如何
上訴ヲ爲スコトヲ得サル裁判トハ如何ナルモノナリヤ

第八十九問

命令又ハ隨意ニテ言渡ス尋常倒産ノ場合如何

第九十三問

詐欺倒産ノ場合如何

第九十四問

尋常倒産ト詐欺倒産トノ間ニ如何ナル差異リアヤ

第九十五問

分散人カ復權ヲ以テ回復スル失權トハ何ソヤ

第九十六問

如何ナル條件ニ於テ分散人其復權ヲ得ルヤ

第九十七問

復權ノ利益ヲ許與セラレサル分散人トハ何ソヤ

第九十八問

復權ヲ許與スルモノハ何人ナルヤ

第九十九問

若シ一債主遺忘セラレタルキハ復權ヲ得タル分散人ハ分散和約ヲ以テ

第一百問

承諾シルタ放釋ヲ以テ此債主ニ對抗スルコトヲ得ルヤ

商事上ノ復權ト刑事上ノ復權トノ間ニ如何ナル差異アリヤ

第一問

第三編 分散及ヒ倒産

分散及ヒ倒産ニ關スル商法典第三編ハ千八百三十八年五月二十八日ノ法律ヲ以テ其全部ヲ改正セリ

本編ヲ分テ三卷トス第一卷ニ於テハ分散ノ事ヲ記シ第二卷ニ於テハ倒産ノ事ヲ記シ第三卷ニ於テハ復權ノ事ヲ記ス
抑モ分散トハ後段ニ説明スル如ク商人辨濟息止ヲ云フ若シ商人ノ重過失ニ因リ又ハ法律ヲ以テ定メタル或ル詐僞ニ因リ其辨濟ヲ息止シタル時ハ分散ノ性質一僞シテ倒産トナル可シ而シテ重過失ニ因ル辨濟ノ息止ハ之ヲ尋常倒産トナシ輕罪ノ刑タル禁錮ニ處セラルヘク詐欺ニ因リ辨濟ヲ息止シタル時ハ之ヲ詐僞倒産トナシ重罪ノ刑タル懲役ニ處セラル可シ

商人ノ單純ナル分散ハ不能力ヲ來シ且其名譽ヲ毀損スベシ而シテ復權ノ目的ハ分散者ノ不能力ヲ挽回シ其名譽ヲ回復スルニ在リ蓋シ復權ハ一定ノ條件ヲ行フニアラサレハ之ヲ得ヘカラス而シテ其之ヲ要ムルコトヲ得ル者ハ單純ナル分散及ヒ尋常ノ倒産ノ景狀ニ在ル者ニ限り詐僞倒産ヲ爲シタル者ハ此利益ヲ受クルコトヲ許サ、ルナリ

○分散ノ第一卷中ニハ總規則並ニ十一章ヲ包含ス而シテ又一章中數款數節ヲ含蓄ス一第

四百三十七條乃至第五百八十三條

倒産ノリヲ記スル第二卷中ニハ四章ヲ包含ス〔第五百八十四條乃至第六百三條〕

復權ノリヲ記スル第三卷中ニハ章款ヲ包含スルヲナシ〔第六百四條乃至第六百十四條〕

第一卷 分散〔第四百二十七條乃至第五百八十三條〕

一 分散ノ景狀ヲ構成スル元素

第二問

分散トハ辨濟ヲ息止シタル商人ノ景狀ヲ云フ〔商法典第四百二十七條〕故ニ分散ヲ構成スルニ必要ナル二箇ノ元素アリ即チ其一商人タルノ資格ヲ存スル人タルヲメルソノチ一ル其二ハ辨濟ノ息止ニ在ル物タルヲ

商人タルノ資格ハ分散ヲ構成スル一元素タルニアリ下ノ結果ヲ生スベシ即チ許可ヲ受ケスシテ商業ヲ行フ幼者及ヒ有夫ノ婦ハ分散ノ言渡ヲ受クルヲ得ス又尋常倒産又ハ詐偽倒産トシテ訴ヲ受クルヲナシ何トナレハ是等ノ者ハ法律ニ定メタル許可ヲ得及ヒ法式ヲ履行スルニアラザレハ商人タルヲ得サレハナリ

之ニ反シテ佛國ニ於テ商人タルノ資格ヲ有スル外國人及ヒ商業ヲ行フ内國人ハ公證人、代言人等ノ如キ其職業上ニ就キ商業ヲ營ムニ禁制アルニ拘ハラス總テ分散ノ言渡ヲ受ケ時宜ニ因テハ尋常倒産又ハ詐偽倒産ノ訴ヲ受ク可シ是等ノ者ハ總テ商人タルノ能力ヲ

有スルカ故ニ其商人タルノ資格ニ於テ有効ニ契約スルモノナレハナリ

分散ヲ構成スル所ノ第二ノ元素タル辨濟ノ息止ハ必スシモ商人ノ所動ノ負債能動ノ負債ニ對シテ超過セリトナスニ非ス抑モ辨濟ノ息止ト資力トハ同一ニアラス資力アリト雖モ

其約務ヲ遂クルノ用意ヲナサス遂ニ辨濟ノ息止ニ因テ分散ノ言渡ヲ受クルヲアリ又之ニ反シテ商人其有スル所ノ財産ニ比較シテ負債額遙カニ超過シタル時ト雖モ其信用ニ因テ續テ義務ヲ行ヒ辨濟ヲ息止セシテ分散ヲ免カル、ト無キニ非ナルナリ

商人ノ果シテ辨濟息止ノ景狀ニ在ルヤ否ヤヲ知ルノ問題ハ裁判所ノ判識ニ任シテ之ヲ決スベキモノトス〔商法典第四百二十七條及ヒ第四百四十一條〕

此商人ノ景狀ハ商人商業上ニ付キ失敗ヲ爲シ終ニ其信用ヲ失フニ因テ興ル者ナリ今其分散ニ至ル重ナル事變ヲ舉ケンニ商人ノ逃亡閉店拒ミ證書裁判言渡差押等即チ是レナリ何レノ場合ニ於テモ分散ニハ必ラス總テノ辨濟息止アルヲ要セザルナリ

故ニ先ツ單純ナル民事負債ノ辨濟息止ハ分散トナスニ足ラサルナリトハ學者ノ一般ニ決スル所ナリ蓋シ商法典第四百二十七條ニ據レハ分散ハ辨濟ヲ息止シタル商人ニアラザレハ適用ス可キモノニ非ス故ニ商人其商人タル資格ニテ辨濟ヲ息止シタルキニ分散アルノミ〔千八百七十三年一月廿一日巴里府控訴院判決〕

其他分散アルコハ商業上ノ總テノ負債ノ辨濟ヲキチ必要トセズ否ヲサレハ商人分散ノ言渡ヲ避ケンカ爲メニハ些少ノ負債ヲ辨濟スレハ即チ充分ナルベシ又商法典ノ草案中ニ總テノ仕拂ナル語アリシガ「トリビュナ」〔當時佛國立法院ノ〕ノ名意見ヲ以テ其總テノ字ヲ削除シタリ

法律ハ未濟負債ノ金額ノ如何ヲ問ハサルト同シク其債主ノ員數ヲモ亦之ヲ問ハサルナリ故ニ唯一人ノ債主ノミナル商人ト雖モ分散ヲナスコトヲ得ヘシト裁判慣例ニ定メタルハ至當ト謂フ可キナリ

二 分散ト身代限トノ差異

第三問

分散ハ之ヲ身代限ト混同スベカラズ其間數多ノ差異アリ左ノ如シ

第一 分散ハ商人ニ之ヲ適用シ○身代限ハ非商人ニ之ヲ適用ス

第二 分散ハ辨濟息止ノ事ヲ以テ成立ス○身代限ハ必ス非商人ノ無資力ナルヲ必要トナス

第三 分散ハ商法典第三編ノ成規ヲ以テ之ヲ支配ス○身代限ハ立法者特別ノ方法ヲ以テ之ヲ規定セズ唯ト民法典ノ數條ヲ以テ之ヲ定ムルノミ〔民法典第千二百七十六條、第千四百四十六條、第千六百十三條、第千八百六十五條、第千九百十三條、第二千三條、

第二千三十二條（原註）本文ニ記載シタル數箇ノ條ニハ分散及ヒ身代限ノ二者ニ通用ノ規則就中期限ノ利益ヲ失フコトニ關スル規則ヲ掲グルモノナリ（第千八百八十八條及ヒ第千九百十三條）然レモ特ニ分散ノミニ適用シテ身代限ニ適用セサル特別規則アリ今下ニ其重要ナル者ヲ掲クベシ即チ 第一 分散ヲ構成スルノ辨濟ノ息止ハ分散ノ公告裁判ト稱スル特別ノ裁判言渡ニ因リ其日附ヲ確定ス 第二 民法典第千六百六十七條ニ定ムル「ボーリヤン」訴權ノ適用ニ異ナル無効ノ特別方法ハ辨濟ノ息止又ハ前十日内ヨリ分散ノ公告裁判マテ分散者ノ爲シタル所爲ニ對シテ債主ヲ保護ス 第三 分散ノ公告裁判ヨリ數多ノ効ヲ生ス其最も重要ナルモノハ即チ分散人其財產支配スル權ノ拋棄、債主各別カ訴出ノ中止、分散人ノ財產上ニナス書入質記入ノ無効等是ナリ 第四 分散ノ場合ニ於テハ動産ノ賣主ニ許與シタル先取特權及ヒ取戻ノ權ヲ絶止シ又貸貸人ノ先取特權ヲ制限シ（千八百七十二年二月十二日ノ法律ヲ以テ改正シタル商法典第五百五十條）又分散人ノ婦ノ法律上ノ書入質ハ一層其區域ヲ收縮セリ 第五 分散人ハ其債主ノ數多決コト因テ債主ノ諾セサルモノアルモト雖モ義務タル所ノ分散和約ヲナスコトヲ得 第六 分散ノ言渡ハ分散者ニ對シテ或ル不能力就中政權並ニ或ル職業ヲ行フノ權ヲ剝奪スルノ結

果チ來ス又分散ニ加フルニ不注意又ハ詐欺ヲ以テスルモハ其分散ハ一變シテ尋常倒産又ハ詐欺倒産トナリ刑法ヲ以テ之ヲ罰スルニ至ル可シ

三 商人死亡後ノ分散ノ公告

第四問 是ヨリ分散ハ裁判所上ノ証明事件ニシテ商事裁判所ノ裁判ヲ以テ公告スヘキモノタルヲチ説明ス可シ

抑モ舊商法典ニ於テハ一ノ疑問アリ即チ辨濟息止ノ景狀ニテ死亡シタル商人ハ其死亡後分散ノ公告裁判ヲ受クルヲ得可キヤ否ヤ是レナリ一般ノ説ニ於テハ之チ是決シタリ分散ニ關スル千八百三十八年ノ新法ハ諸種ノ疑問チ一掃シ新商法典第四百三十七條ヲ以テ辨濟ノ息止景狀ニテ死亡シタル商人ノ分散チ其死亡ノ後公告スルヲ得可シト明ニ決定シタリ(原註法律ニ於テハ商人辨濟息止ノ景狀ニ於テ死亡シタルヲ必要トナスコトヨリ下ノ結果チ生ス即チ辨濟息止ノ前日ニ死亡シタル商人ハ分散公告裁判ヲ受クルヲ得ザル是ナリ)○法文ニ辨濟息止ノ景狀ニテ死亡シタル商人ハ其死亡後分散ノ公告ヲ受クルヲ得ヘシトアルヲ以テ之チ觀レハ況ンヤ商業チ廢シタル者モ其嘗テ商人タリシ時辨濟息止チナセシキモ亦分散ノ公告ヲ受クルヲ得可キナリ(千八百七十二年六月十八日大審院上告取調局判決)

此第四百三十七條ノハ固ヨリ至當ノ成規ト謂フ可シ其故如何トナレハ素ト分散チ構成スルモノハ辨濟ノ息止ニ在ルカ故ニ其生存中ニ於テ辨濟チ息止シタル以上ハ其債主ニ於テ裁判上ノ証明チ得ルノ既得權アレハナリ

此決定ハ主トシテ法典ニ於テ構成シタル無効ノ點ニ從トシテ財産ノ管理及ヒ精算ノ點夫ノ分散ノ場合ニ於テ制限ヲ受クル其婦ノ權利ノ點ニ於テ大利益チ表スルモノナリ然レモ相續ノ精算中ニ混雜チ生セサラシメ且久シク其所爲チ曖昧ニ付セサル爲メ千八百三十八年ノ立法者ハ裁判所ノ職權ヲ以テ爲スト債主ノ訴ニ因テ爲ストチ問ハズ裁判所ニ於テ分散ノ公告期限ハ商人ノ死亡後一年內ト定メタリ

第一章 分散ノ公告並ニ其公告ノ効

本章ニ於テハ左ノ件々チ解説スベシ

第一 分散ノ公告裁判ハ如何ナル方法ヲ以テ之チ爲スベキカ

第二 裁判言渡書中ニハ如何ナル事件チ記載スルヤ及ヒ其公告如何

第三 分散ノ公告ノ裁判ノ効如何

第四 辨濟息止ノ効如何

第一節 分散ノ公告裁判ハ如何ナル方法ヲ以テ之チ爲スベキヤ

分散ハ分散人ノ住所即チ分散人ノ主タル建造物所在ノ地ノ商事裁判所ノ裁判ニ因リ之
 ナ公告スル者トス(原註)一人ノ商人ニノ數箇所ニ數種ノ商業ヲ營ム者ハ其數種ノ商業ニ
 付キ同時ニ分散ヲ爲スヲ得ベカラサルヤ否ヤノ問題アリ裁判慣例ニ於テハ之ヲ是決セ
 リ(千八百五十三年八月廿三日大審院上告取調局判決然レハ理論就中ブーダン、ボワステ
 ール二氏ノ說ニ於テハ裁判慣例ニ反對シ之ヲ非決セリ其故如何トナレハ數ヶ所ニ於テ數
 種ノ商業ヲ爲ト雖モ財產ハ單一ニ(民法典第二千九十三條)商人ノ住所並ニ分散ノ言渡ヲ
 ナス裁判所モ單一ナレハナリ(商法典第四百二十八條第四百四十條及ヒ第四百四十二條)
 抑モ分散ノ裁判ハ或ハ分散人ノ表告ニ因リ或ハ一人又ハ數人ノ債主ノ訴ニ因リ或ハ裁判
 所ノ職權ニ因テ之ヲ言渡ス可シ(商法典第四百四十條)

第一 分散人ノ表告ニ因ル商事裁判所ノ裁判

法律ハ辨濟ノ息止ヲ自ラ届出ルノ義務ヲ分散人ニ付セリ而シテ其届出ハ其辨濟
 ナ息止シタル日ヨリ三日内ニ其住所ノ商事裁判所ノ書記局ニ爲スベシ但シ辨濟
 ナ息止シタル日モ其三日ノ期限内ニ包含スベシ(商法典第四百二十八條)
 其届書ニハ結算明細書(一ニ負債資産明細書ニ作ル)ヲ添テ差出スベシ若シ之ヲ添ヘザル
 キハ其之ヲ添ルヲ能ハザルノ事由ヲ届書ニ記載スベシ

結算明細書トハ左ニ掲クル件々ヲ記載スル書面ヲ云フ

- 第一 能働負債(貸高)ノ景狀即チ動産不動産ノ目錄及ヒ立價
- 第二 所働負債(借高)ノ景狀即チ債主ノ人員、債主ニ拂フベキ金高及ヒ債主ノ有スル証
書ノ性質
- 第三 利得並ニ損失表
- 第四 費用表

此結算明細書ハ眞正ナリトノ保證ヲ記シ且分散人ニ於テ日附チナシ姓名ヲ手署ス可シ
 (商法典第四百二十九條)

分散人ニ付シタル以上ノ義務ノ制裁ニニアリ左ノ如シ

- 第一 分散人其義務ヲ行フタル時ハ裁判所ヨリ分散人ノ拘繫又ハ其身體ノ管守ヲ免ス
ルヲ得(商法典第四百五十六條)
- 第二 分散人其義務ヲ行ハサル時ハ通常倒産人タルノ言渡ヲ受ク可シ(商法典第五百
八十六條第四項)

○合名會社ノ分散ノ場合ニ於テハ辨濟息止ノ届書ニハ連帶シテ會社ノ約務ヲ擔當スベキ
 各社員ノ姓名住所ヲ記載シ之ヲ會社ノ主タル建物所在地ノ商事裁判所ノ書記局ニ差出ス

ベシ〔商法典第四百三十八條〕該社員ノ姓名ヲ書記セサル時モ亦通常倒産ノ言渡ヲ受ク可
シ〔商法典第五百八十六條第四項〕

商法典第四百三十八條ニ於テハ合名會社ノ分散ヲ記スルノミ又同典第四百五十八條ハ合
名會社ノ分散ノ場合ニ於テ封印ハ當ニ其會社ノ主タル建造物所在ノ地ニ於テ之ヲナスノ
ミナラス又連帶ノ責アル各社員ノ住所ニ於テモ之ヲ爲スベキヲ規定セリ

第七問

故ニ此二ヶ條ニ由レハ差金會社及ヒ無名會社ハ分散ヲ公告スルヲ得スト決定セサル可
サルカ曰決シテ然ラス先ツ差金會社ニ關シテハ商法典第四百三十八條及ヒ第四百五十八
條ヲ適用スルヲ得可シ何トナレハ商法典第二十三條及ヒ第二十四條ニ差金會社ニハ會
社ノ約務ヲ連帶シテ擔當スベキ一人又ハ數人ノ社員アリ此等ノ社員ニ附テハ會社ハ即チ
合名會社ナリトアレハナリ又無名會社ハ對人元素及ヒ連帶ナキ所ノ資本會社タルニ因リ
商法典第四百三十八條及ヒ第四百五十八條ヲ適用スルヲ得サルヤ論ヲ俟タス然レモ此
會社モ亦差金會社ノ如ク一個ノ無形人タリ無形人タレハ即チ一個ノ商人タリ而シテ商法
典第四百三十七條ニ總テ辨濟ヲ息止シタル商人ハ分散ノ景狀ニ在ルモノトストアリ而シ
テ分散人ノ身體ニ關スル法式ヲ履行スルヲ得サルハ分散人ノ死亡又ハ失踪ノキト同一ナ
リ加フルニ分散ハ分散人ノ身體ヨリモ寧ロ其財産ニ關スルモノニ債主ノ利益ハ充分ニ

分散表公告ノ理由トナルモノトス蓋シ裁判慣例ノ決定スル所モ亦此意義ニ在リ〔原註〕會
社ハ其精算ニ取掛ル時ト雖モ亦分散ヲ爲スヲ得〔千八百七十四年一月二十一日大審院
上告取調局判決〕共分結社ハ分散ヲ爲スヲキチ以テ今爰ニ之ヲ述ヘス何トナレハ輿論
ニ據レハ共分結社ハ無形人ニ非ス畢竟世ニ公告セサレハナリ唯管理人ノミ分散ノ言渡ヲ
受クルヲ得可シ

第八問

不定資本會社ハ其體裁ニ倣フ所ノ會社ノ規則ヲ適用スベシ
○合名會社又ハ差金會社ノ分散ハ當然其社ノ約務ヲ連帶ノ擔當スベキ名社員ノ分散ヲ
惹起スモノナルカ一般ノ說ニ於テハ之ヲ惹起スモノトセリ何トナレハ是等ノ社員ハ會
社ノ一切ノ約務ヲ擔當スル者ナレハ〔商法典第二十二條及ヒ第二十三條〕會社ノ義務ハ即
チ其社員ノ義務ナルヲ以テ若シ其辨濟ヲ息止スルモハ分散ノ言渡ヲ受クベキハ固ヨリ至
當ノ道理ナレハナリ又此決定ハ上ニ掲ケタル商法典第四百三十八條及ヒ第四百五十八條
並ニ會社ノ分散ヲ爲シタル時其債主ニ與フルニ分散シタル社員中ノ一人又ハ數人ノ利益
ニ於テスルニ非サレハ分散和約ヲナサハルノ權ヲ以テシタル商法典第五百三十一條ノ意
ヲ明瞭ナラシメタリ

然レ其社員中ノ一人ノ分散ハ會社ノ分散ヲ惹起ス者ニ非ス但シ社員中ノ一人分散ヲ爲シタ

ル時ハ若シ人ヲ目的トシテ設立シタル會社ナレハ其會社ヲ解散スルニ至ルニ過キサルノミ
第二 債主ノ訴ニ因リ商事裁判所ヨリ言渡ス分散ノ公告裁判

分散人ヨリ其辨濟息止ヲ届出テサルキハ商事裁判所ハ總テノ債主ノ訴ニ因リ分散ノ公告
裁判ヲ爲スコトヲ得可シ而シテ其訴ヲ爲ス所ノ債主ハ通常債主タルト特權若クハ書入質ヲ
有スル債主タルトチ區別シ又ハ有期若クハ未必條件ノ債主タルト又一步ヲ進メテ民事上
ノ債主權ナルト商事上ノ債主權ナルトチ區別スルヲ要セサルナリ何トナレハ分散公告ノ
訴ハ畢竟債主全体ヲ益スル保存ノ所爲ナレバナリ而シテ原告人ハ其訴ヲ爲スニハ或ハ召
喚狀ヲ以テシ或ハ通常ノ願書ヲ以テスルヲ得可シ

第三 裁判所ノ職權ヲ以テスル分散ノ公告裁判

裁判所或ハ公知ノ場合ニ於テシ或ハ檢事ノ意見ニ基キ其職權ヲ以テ分散ノ公告裁判ヲ爲
スコトヲ得可シ裁判所ノ職權ハ或ハ分散人ノ懈怠ニ對シ或ハ此所ニ現在スル債主ト分散人
トノ隱謀ニ對シテ此處ニ現在セサル債主ヲ保護スルノ用ニ供スルモノナリ(原註茲ニ一
ノ問題アリ即チ辨濟ノ息止ハ或ハ書入質ノ効ニ付キ紛議ノ生スルニ際シテ或ハ民事裁判
所ヨリ附帶ニテ言渡シ或ハ倒産ノ訴アルニ際シテ刑事裁判所ヨリ附帶ニテ言渡スコトヲ得
ベキヤ否ヤ是ナリ統計表ニ於テハ分散ノ公告ヲ別テ第一結算明細書ノ差出ニ因ルモノ第

二債主ノ召喚狀ニ因ル者第三債主ノ單純ナル願書ニ因ルモノ第四檢事局ノ意見ニ因ルモノ
ノ第五公知ニ從ヒ裁判所ノ職權ヲ以テナス者ト爲セリ裁判略例ニ於テハ之ヲ是決セリ
〔千八百六十四年六月廿四日大審院判決及千八百五十七年三月六日大審院刑事局棄却〕然
レモ理論ニ於テハ辨濟息止ノ景狀ヲ證シ分散言渡ヲナスノ權ハ獨リ商事裁判所ニ屬スト
ナセリ(ドマンジアルボウステールニ氏ノ説)

第二節 分散ノ表告裁判言渡書ノ記載並ニ公告

分散ノ公告裁判言渡書ニハ左ノ件々ヲ記載スベシ

- 第一 分散ノ景狀ニ在ル申立
- 第二 辨濟ヲ息止シタル時期(商法典第四百四十一條)
- 第三 掛裁判官並ニ一人又ハ數人ノ分散管財人ノ任命(商法典第四百五十一條及ヒ第
四百六十二條)
- 第四 分散人ノ財産ノ封印及ヒ分散人ヲ未決監ニ留置又ハ警察官若クハ裁判所ノ官吏

或ハ憲兵ニ分散人ヲ保管守セシムル命令(商法典第四百五十五條)

右ノ裁判言渡ハ分散人ヨリ其言渡ニ對シ故障或ハ控訴ヲナスニ係ハラヌ假リ執行ヲナス
可シ(商法典第四百四十條)但シ商事裁判所ノ書記ハ其裁判言渡アリシヨリ二十四時間内

ニ其言渡ノ拔書ヲ作り之ヲ檢事ニ送達ス可シ〔商法典第四百五十九條〕
辨濟息止ノ既往ニ溯ルベキ時期ハ之ヲ知ル甚タ肝要ナリトス何トナレハ後文ニ説明スル
如ク法律上之ニ重要ナル結果ヲ付スレハナリ

右ノ既往ニ溯ル時期ヲ分散ノ公告裁判言渡ニ依テ定ムルヲ得可キ場合ニ於テハ掛裁判
官ノ報告ニ基キ或ハ職權ヲ以テ或ハ關係者ノ訴ニ因テナシタル後ノ裁判言渡ヲ以テ定ム
且元ト定メタル時期モ亦後ニ之ヲ變更シ得ルト雖モ特ニ之ヲ定メサル時ハ分散ノ公告
裁判言渡以後辨濟息止シタルモノト看做ス可シ〔商法典第四百四十一條〕(原註)商人死
亡ノ後分散ノ公告アリシ場合ニ於テ辨濟息止ノ時期ノ定メナキモノハ分散ノ公告裁判言
渡ノ時ヨリ辨濟息止シタリト看做スヘカラス何トナレハ商法典第四百三十七條ニ據レハ
分散ハ商人辨濟息止ノ景狀ニテ死亡シタルキニアラサレハ其死後ニ至リ分散ノ公告裁判
言渡ヲ爲スヲ得ストナセハナリ故ニ此場合ニ於テハ辨濟息止ハ必ス其死亡ノ日ニ溯ラサ
ル可ラストハ一般ニ是認スル所ナリ

第十問

○分散ノ公告裁判言渡書並ニ辨濟息止ノ時期ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル裁判言渡書ノ拔書
ハ之ヲ揭示シ及ヒ新聞紙ニ掲載スヘシ揭示及ヒ新聞紙ノ掲載ハ裁判言渡アリタル地ト分
散人ノ商店ヲ設ケタル各地トニ之ヲ爲ス可シ〔商法典第四百四十二條〕

此ノ分散ノ公告ハ法律ヲ以テ分散ノ公告裁判或ハ辨濟息止ニ屬セシメタル重大ナル効ア
ルニ因テ之ヲ必要トセリ又此公告ハ裁判言渡ニ對スル故障ノ期限起算點ナリ 商法典第
五百八十條

第十一問

又爰ニ注意ス可キモノアリ曰若シ分散ノ金圓ヲ以テ分散ノ公告裁判ノ費用、揭示及ヒ新
聞紙掲載ノ費用封印ノ費用分散人留置ノ費用等ニ直ニ充ルニ足ラサル時ハ掛裁判官ノ命
令ニ基キ國庫ヨリ一時其費用ヲ立替置キ國庫ハ分散人ノ財産ヲ賣拂フタル所ノ金額中其
償ヲ得ルニ付第一ノ先取特權ヲ有ス但シ分散人ノ家屋ノ所有者ノ先取特權ト抵觸スルヲ
ナカル可シト〔商法典第四百六十一條〕

千八百三十八年ノ新法ヲ以テ國庫ニ付シタル右ノ責任ノ目的ハ即チ分散ノ公告裁判アル
モ分散人ノ金高ノ不足ナルヨリシテ遂ニ分散ノ執行ナキニ至ルノ弊ヲ避クルニ在リ
立替金取戻ニ付テノ國庫ノ先取特權ハ之ヲ裁判費用ノ先取各權ニ准ス可キモノトス〔民
法典第二千一百一條第一項〕

第三節 分散ノ公告裁判ノ効

第十二問 分散ノ公告裁判アルキハ其裁判ヨリ左ノ効ヲ生ス

第一 分散人己レノ財産ヲ支配スル權ノ拋棄

- 第二 債主各別ノ訴訟ノ中止
 - 第三 分散人ノ負債ノ請求ス可キモノトナルコト即チ期限ノ利益ニ付キ分散人ノ失權
 - 第四 分散人ノ負債ノ利息ノ生加チ止ム
 - 第五 債主合部ノ利益ノ爲メ分散人ノ不動産上ノ書入質ノ擔保
 - 第六 債主中ノ者債主合部ニ損害チ加ヘ自己ノ名義チ以テ分散人ノ財産上ニ特權又ハ書入質ノ記入チ爲シ得サルコト
 - 第七 分散人ノ蒙フル或不能力
- 以上ノ七効ハ逐次之ヲ解説スヘシ

一 分散人已レノ財産チ支配スル權ノ拋棄(商法典第四百四十三條)

第十三回
 財産支配ノ權ノ拋棄ハ財産ノ所有權チ分散人ニ奪フニ非ス其分散ノ景狀ニ陷入リタル以上ハ現ニ有スル所ノモノハ勿論其分散中ニ所得ス可キ財産ト雖モ亦之ヲ處分シ及ヒ支配スルノ權チ失フ可シ

其財産ノ支配ハ之ヲ分散ノ公告ノ裁判ニ因テ任シタル分散管財人ニ於テ爲ベシ(商法典第五百三十二條)又分散人ハ其財産チ支配シ且職業チ繼續スルヲ得ルコトアル可シ然レモ此場合ニ於テ分散人ト諸般ノ契約チ爲ス所ノ者ハ其分散人ノ權利者又ハ義務者トナラズ

シテ分散管財人ノ名代スル所ノ分散即チ債主ノ合部ノ權利者又ハ義務者トナリ分散人ハ其機械タルニ過キス(商法典第五百三十三條)

財産チ支配スル權ノ拋棄ニ係ハラス分散人ハ治産ノ禁チ受ケタルニアラザレハ民法上ノ總テノ能力チ有スベキカ故ニ新ニ工業チ起シ又ハ新ニ財産チ所得シ又ハ新ニ負債チ募ル等ノ事チ爲スコトチ得可シ但シ其新ニ爲シタル事件ニ付キ債主(分散人)ニ對抗スヘキモノニ非ス即チ分散人舊債主チ害シテ分散ノ能働負債チ減少シ或ハ其所働負債チ増加スルヲ得ス一步チ進メテ之ヲ論スルハ分散人ハ幼者タル己レノ子ノ財産又ハ其後見チナス所ノ者ノ財産(民法典第四百四十四條)ニ記スル者ハ此限アラズ又ハ其婦ノ財産チ支配スルコトチ得可シ(若シ婦自己ノ財産ト夫ノ財産トチ分別スベキ訴チナシタル時ハ此限ニアラス)商法典第四百四十三條ニ據レハ分散人ノ財産チ支配スル權ノ拋棄ハ一般ノ者ニシテ管ニ其現ニ有スル財産ニ適用スルノミナラス又其分散後ニ得ベキ財産即チ相續贈與贈遺若クハ分散人ノ業務及工業等ニ因テ得ル所ノ財産ニモ適用スルモノナリ然レモ已ニ分散ノ公告裁判アリシ後ニ至リテ所得シタル此等ノ財産ハ其引當トナリタル負債及ヒ責任チ減シタル後ニ非サレハ分散ノ債主ノ引當トナルコトナカルベシ(千八百六十四年四月十二日大審院判決及ヒ千八百七十三年十一月五日大審院上告取調局判決)(原註)分散人財産チ支

配スル權ノ拋棄ハ國家ノ年金、俸給又ハ養老金等ノ如キ差押フ可ラサル財産及ヒ訴訟法典第五百八十條第五百八十一條第五百八十二條及ヒ第五百九十二條ニ差押フ可ラストノ明文アル財産ニモ亦適用スルヤ否ヤノ問題アリ此問題ニ付テハ學者ノ說一定ニ至ラス之ヲ非トスル者ノ說ハ則チ分散人ノ財産支配ノ權拋棄ハ之ヲ裁判上ノ差押ヘニ准シ訴訟法典ノ規則ヲ適用ス可シトナセリ又之ヲ是トスル者ノ說ハ則チ商法典第四百四十三條ノ絶對ノ法文及ヒ同法典第四百六十九條ノ制限法文ヲ論趣トセリ千八百五十九年三月八日ノ大審院判決ハ蓋シ此第二ノ意ナリ然レモ二三ノ法律學士ハ故障ヲナシ得サル國家ノ年金ノ拋棄ニ及ブベカラザルヲ主張セリ(ボウステール氏ノ說)

分散人ノ財産ノ支配權ノ拋棄ノ結果トシテ凡ソ訴權ハ動産タルト不動産タルトチ問ハス分散管財人ニ對シ或ハ分散管財人ヨリスルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス然レモ其代書人執行吏等ノ非認ノ訴、夫婦別居ノ訴、夫婦財産離分ノ訴(民法典第四百四十六條)忘恩ニ因ル贈與取消ノ訴(民法典第九百五十七條)誹毀セラレタル名譽回復ノ訴等ノ如キ特ニ分散人一身ニ屬スル訴訟ハ分散人自ラ其原告トナリ被告トナルヲ得可ク又分散人ハ其一身ニ關スル職業ニ付キ他人ト契約シ且其事ニ付キ裁判所ニ出訴スルヲ得可ク故ニ分散人ノ詐偽ナク又分散管財人ヨリ故障ヲ述ベサル前ニ爲シタル事ハ總テ其効アリトス(千

八百七十六年二月二日大審院上告取調局判決)

二 債主各別ノ訴ノ中止

分散ノ公告裁判以後ハ債主ノ各別ノ訴ハ之ヲ中止ス即チ債主ハ各別ニ分散人ノ財産上ニ執行ノ方法ヲ施コスヲ得ストノ義ナリ千八百六十七年ニ於テ民事禁錮ノ廢止アリシ以前ニ在リテハ分散人ノ身體ニ對スル訴モ亦分散人ノ財産ニ對スル訴ト共ニ止息シタリキ民事禁錮ハ分散人ニ對シテ之ヲ行フヲ得ス何トナレハ禁錮ノ目的ハ義務者ヲシテ強テ辨濟ヲナサシムルニアリ然ルニ分散人ハ己レノ財産ヲ拋棄シタル上ハ強制ヲ受クルモ辨濟ヲナスノ權ナケレハナリ依テ強制ノ方法ト財産支配權ノ拋棄トハ此ニ至テ並存スルヲ得サルモノナリ(商法典第四百五十五條末項)

第十四問

債主各別ノ訴ノ中止即チ分散人ノ財産上ニ爲ス執行ノ方法ハ左ノ二ツノ理由ニ基キシモノナリ

第一 訴訟手續ノ繁キ省キ及ヒ分散ノ能働件負債ノ大部分ヲ以テ充ツベキ裁判入費ヲ免ル、ノ必要

第二 一人ノ債主ニ債主合部ヲ害シテ其貸高ヲ得セシム可ラサルヲ即チ其訴ノ無用トナルヲ

故ニ律法ハ分散人ノ能働件ヲ取扱フノ權ヲ分散管財人ニ委任シ其手中ニ訴ヲ蒐集セシメ
抑モ債主各自ニ一己ノ訴ヲ爲スヲ許サザル原則ハ法律上判然明文ヲ掲ケタルニアラズ
ト雖モ陰然數多ノ箇條就中商法典第五百三十四條第五百七十一條及ヒ第五百二十七條第
二項ノ反對論法並ニ第五百三十九條第四百五十條等ヨリ生スルモノナリ

果シテ然ラハ分散人ノ動産又ハ不動産上ノ執行ノ方法ハ分散管財人ニ對シテノミ之ヲ爲
スベキヲ定メタル商法典第四百四十三條第三項ハ如何ナル解釋ヲ下シテ可ナルヤ

第十五問

日本條ハ一ノ變例ニシテ分散人ノ動産及ヒ不動産上ニ執行ヲナシ得可キ債主アルヲ規
定シ且其訴ハ分散管財人ニ對シテ之ヲ爲スヘシト決定セリ但シ訴訟ニ付テノ如ク執行ノ方
法ニ付テモ亦參加人トシテ分散人ノ召喚ヲ裁判所ニ請求スルハ此限ニ非ス(商法典第四百
四十三條末項)所謂ユル債主ノ各別ニ分散人ヲ訴フルノ權ヲ保有スル者ハ左ノ如シ

第一 分散人ノ不動産ニ付キ先取特權又ハ書入質ノ權ヲ有スル債主(商法典第五百七
十一條)

第二 分散人ノ動産ヲ質物トシテ保有スル債主(商法典自第五百四十六條至第五百四
十八條)

第三 分散人ノ住所ノ所有者此所有者ハ質取債主ト見做スヲ得ルモノナリ(商法典
第四百五十條)

第十六問

以上記載シタル債主ノ爲ニ設ケタル變例ニハ左ノ二ツノ制限アリ

第一 分散人ノ不動産上ニ先取特權又ハ書入質ノ權ヲ有スル債主ハ連結時期以後ハ其
訴ヲ開始スルヲ得ズ故ニ債主ノ連結以後ハ是等ノ債主ハ先取特權ナキ債主ト
共ニ不動産ノ賣拂ヲ待サルベカラス何トナレハ法律ハ分散管財人ヲシテ債主ノ
連結ヲ爲シタル日ヨリ八日內ニ分散人ノ不動産ヲ賣拂フベキ手續ヲ爲スノ義務
ヲ負ハシムレハナリ(商法典第五百七十二條)

第二 千八百七十二二年二月十二日ノ法律ヲ以テ改正シタル商法典第四百五十條ニ據レ
ハ分散人ノ住所ノ所有者ハ商法典第四百九十二條ヲ以テ諸債主ノ權利ヲ調査ス
ル爲メ佛國內ニ住スル債主ニ與ヘタル期限ノ終リタル日ヨリ八日ヲ經過シタル
後ニ非ザレハ分散人ノ商業又ハ工業用動産上ノ執行ノ方法ヲ施スヲ得ス又貸貸
契約ノ取消ヲ訴フルヲ得ス但シ之カ爲メ所有者自己ノ權利ヲ保存スルノ方法
並ニ其貸シタル土地ヲ直チニ取戻ス可キ權利ト抵觸スルヲナカルヘシ(原註)一
千八百七十二二年二月十五日ノ法律ヲ以テ商法典第四百五十條ヲ改正セサル以前

ニ在テハ貸貸主ノ執行方法ハ分散ノ公告裁判ノ日ヨリ三十日間之中止シタリ
立法者ハ直接ノ訴ヲ以テ所有者カ商業ヲ中止セシメ分散和約ヲ妨止スルヲ欲セサルナ
又商法典第四百五十條ニ據レバ分散管財人ハ掛裁判官ノ許可ヲ得分散人ノ意見ヲ聽キテ
貸貸ヲ設クルノ意思ヲ所有者ニ通知スルヲ得而シテ此通知ノ日ヨリ十五日内ニ貸貸主
ハ其貸貸契約取消ノ訴訟ヲナス可キモノトス

三 分散人ノ負債ノ要求シ得可キモノトナルヲ(商法典第四百四十四條)

分散ノ公告裁判ハ分散人ニ對シテ未タ拂期限ニ至ラサル負債ヲ其債主ヨリ要求シ得可キ
モノトナセリ

此事タルヤ既ニ民法典第百八十八條ニ指定セリ其法文ニ曰ク義務者分散ヲ爲シタル時
ハ辨濟期限ノ利益ヲ失フ可シト

此規則ノ目的ハ有期債主ヲシテ分散ノ處分ニ干預セシメ而シテ其分配ヲ得セシメ即チ各
債主ノ間ニ公平ヲ保タシメントスルニ在リ(原註法律ニ於テハ唯未タ期限ニ至ラサル負
債ノ一ノミヲ論シテ未必ノ條件ノ負債ノ一ヲ述ヘス然レモ未必條件ノ債主モ亦ノ處分散
分ニ干預スルヤ固ヨリ疑フ所ニ非サルナリ何トナレバ該債主ハ自己ノ權利ヲ保存スベ

第十七附

キ所爲チナシ得レハナリ然レモ其分配ニ預ルヲ得ルヤ否ヤノ點ニ至テハ疑ヒナキチ免
レズ一般ノ學者ノ說ニ據レバ其分配ハ別途ニ取置キ之ヲ附託役所ニ預ケ置クヘキモノト
セリ蓋シ是レ未必事件ニ係ル權利ヲ保存スルノ最良法ト云フ可キモノナレバナリト

然レモ此規則ニ因リ分散人ノ不動産上ニ先取特權又ハ書入質權ヲ有スル債主若クハ動産
ノ質ヲ有スル債主ハ其債主權ノ滿限ニ至ラサル以前執行ニ取掛ルヲ得可キヤ如何
此問題ニ付テハ諸說區々ニシテ一定ニ歸着ス可キ決定ナシ

一般ニ唱道スル所ノ學說ニ曰是等ノ債主ハ特別ノ保証ヲ有スルヲ以テ分散外ニ在ルモノ
ナレハ其爲ニ設ケタルモノニ非サル第四百四十四條ヲ徵スルヲ得ス依テ其權利ヲ行フ
ニハ宜シク分散ノ法律上ノ管理者タル分散管財人ニ於テ是等ノ債主ニ引當トナシアル財
産ノ賣拂ヲナスヲ待タサル可カラズト(ボアステール氏ノ說)

二三ノ學者ノ主張スル所ニシテ一般ニ裁判慣例ニ於テ取ル所ノ說ニ曰商法典第四百四十
四條ハ更ニ通常債主ト先取特權ヲ有スル債主トノ間ニ區別ヲナスモノニ非ス而シテ或ル
件ニ關シテハ書入質權又ハ先取特權ヲ有スル債主ハ分散外ニ在ルヲアリト雖モ通常債主
ト共ニ分配ニ預ルモノナリ(商法典第五百五十二條)書入質ノ權ヲ有スル債主又ハ先取特
權ヲ有スル債主モ亦通常債主ト同シク辨濟期限ニ至ラサル前ニ在テ貸金ノ要求スベキモ